デリシャスパーティ♡プリキュア
©ABC-A・東映アニメーション
イラスト：東映アニメーション

デリシャスパーティ♡プリキュア
©ABC-A・東映アニメーション
イラスト：東映アニメーション

映画 デリシャスパーティ♡プリキュア
夢みる♡お子さまランチ!
©2022 映画デリシャスパーティ♡プリキュア製作委員会
イラスト：松浦仁美

映画 デリシャスパーティ♡プリキュア
夢みる♡お子さまランチ!
©2022 映画デリシャスパーティ♡プリキュア製作委員会
イラスト：松浦仁美

TV
デリシャスパーティ♥プリキュア
♥2022年2月6日より放映中
♥毎週日曜日♥朝8時30分♥ABCテレビ・テレビ朝日系
♥https://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/
©ABC-A・東映アニメーション
STAFF
シリーズディレクター／深澤敏則　シリーズ構成／平林佐和子　キャラクターデザイン／油布京子　美術デザイン／増田竜太郎　美術監督／いいだりえ　色彩設計／清田直美　音楽／寺田志保　プロデューサー／多田香奈子（ABCアニメーション）・矢﨑 史（ADKエモーションズ）・安見 香　アニメーション制作／東映アニメーション
MOVIE
映画デリシャスパーティ♥プリキュア
夢みる♥お子さまランチ！
♥2022年9月23日（祝・金）公開
♥https://2022.precure-movie.com
©2022 映画デリシャスパーティ♥プリキュア製作委員会
STAFF
監督／座古明史　脚本／田中 仁　音楽／寺田志保　総作画監督・キャラクターデザイン／松浦仁美　作画監督／廣中美佳　美術監督／渡辺佳人　色彩設計／清田直美　撮影監督／髙橋賢司　製作担当／星 郁也　アニメーション制作／東映アニメーション
同時上映
わたしだけのお子さまランチ
STAFF
監督・脚本／山元隼一　音楽／寺田志保　アニメーション制作／東映アニメーション
『デリシャスパーティ♥プリキュア』の魅力を
お伝えする、まるごと1冊プリキュア特集！
TVと映画版の魅力を余すところなくお伝えします！
DELICIOUS PARTY♥PRECURE
SPECIAL ISSUE

満たしてあげる！おいしい笑顔で

あつあつごはんで、みなぎるパワー！

キュアプレシャス変身バンク

絵コンテ・演出：深澤敏則
原画：板岡 錦　作画監督：油布京子

コメコメとスキンシップするたびにハートが爆ぜて、一部は髪のハイライトに。コメコメと頬を寄せ合う際に、ペロリと舌を出すのがキュート。名乗り時の力こぶのポーズもカッコいい。背景などの随所に三角モチーフが使われている。

「変身バンクの最後のポーズは、４人ともEDダンスの振り付けが先にあり、名乗りにもリンクさせることになっていました。三角、丸、ライン、斜めハートなどの基本モチーフのポーズを考えてくださっており、イメージを擦り合わせました」（シリーズディレクター・深澤敏則）

PLAY BACK 当番回

和実ゆい✿キュアプレシャス役 菱川花菜

思わずゆいを抱きしめたくなりました

――第31話は、ゆいのそっくりさんのマイラ王女が登場しましたが、いかがでしたか？

菱川　マイラ王女役の和氣あず未さんとは別々の収録だったんですが、和氣さんがゆいの声色にできるだけ寄せようと、たくさん映像をチェックしてアフレコに臨んでくれたと聞いて、とても嬉しかったです。私は、執事のゲンマ役の谷昌樹さんと一緒の収録でした。谷さんはすご一く素敵な声で、素敵なお芝居をされるんですけど、「君、張った声がうまいね」と褒めてもらえました。その嬉しさもあってテンションが上がって、いろいろなアドリブを入れてしまいました（笑）。第31話はブンドル団も出てこず戦闘もない、珍しい回でしたよね。その分、ギャグ要素がいっぱいで。あと、拓海が「ゆいじゃない」って気づいてくれて。「おお、拓海！　気がつくんだ！」ってなりました。

――第34話では、そんな拓海に恋のライバル宣言をする宏輔が登場しました。と言っても、ゆいにとってはあずかり知らぬ話ですが（笑）。

菱川　そうなんですよね（笑）。この回は、宏輔くん役の漆山ゆうきさんと一緒に収録しました。漆山さんもとても素敵なお芝居で、刺激を受けましたね。お話としては、何よりおばあちゃんですね。第30話でも少し語られましたが、この回はさらにフォーカスされていて。私自身がおばあちゃん子なので、ゆいの気持ちを想像して、ちょっと切なくなりました。宏輔くんと又三郎さんが仲直りできたのを見て、寂しくなっちゃうゆい……思わず抱きしめてあげたくなりました！

――ゆいのおばあちゃんに対する想いや思い出のシーンには、これまでもシンパシーを感じていたということでしょうか。

菱川　そうなんです。私もおばあちゃんからお料理を教わったりしているので、本当にゆいと一緒だなぁって思いながら。でも、この回の最後は、又三郎さんから「一緒におでんを作らんか？」って言ってもらえて、ゆいは幸せだなと感じました。しかも、好きになってくれる男の子までできて（笑）。

――菱川さんとしては、ゆいと拓海の関係はどうなってもらいたいですか？

菱川　それはもちろん、将来は結婚！　それで一緒にコメコメを育ててほしい！　ゆいをこんなに気にかけて好いてくれる人って、この先、現れないんじゃないかと思うんです。私自身が好きなのはナルシストルーなんですけど、ゆいと合うのは拓海ってことで（笑）。とにかく私、拓海がずっと不憫で……！　お芝居としては、拓海に対して恋愛感情を向けないほうが面白いと思うので、私もゆいの天然な素っ気なさをつい強調しちゃったりするんですけど（笑）。それにもめげず、拓海は本当にいい人。最終回は二人の幸せな未来の姿でお願いします！

お弁当箱

キュアプレシャスの髪型

「玩具との兼ね合いで、全員頭や胸に大きめの飾りを付けてほしいというご要望がありました。キュアプレシャスは、和の要素として、最初は梅干しごはんのお茶碗の髪飾りを考えていましたが、最終的にはそれを上から見たような、花の形状になりました」（キャラクターデザイン・油布京子）
「髪のお団子部分は、大きな米粒のイメージです」（深澤）

美術ボード

なごみ亭

幼い頃から食べることが大好きで、おばあちゃんの言葉「ごはんは笑顔」を大切にしてきたゆい。ある日、街に怪物ウバウゾーが出現し、ゆいはエナジー妖精コメコメの力でキュアプレシャスに変身！　クッキングダムという世界からやってきたマリちゃんことローズマリーから事情を聞き、ゆいも協力することを決める。クラスメイトの芙羽ここねや華満らんとも仲良くなり、３人でプリキュアとして、お料理に宿る妖精レシピッピを守っていく。

ゆいたちが立ち向かう怪盗ブンドル団の幹部ジェントルーは、実は生徒会長の菓彩あまねであると判明。熱い想いが届いた結果、ブンドル団からあまねを解き放つことに成功。さらにあまねの気持ちをまっすぐに後押しし、キュアフィナーレ誕生につなげた。

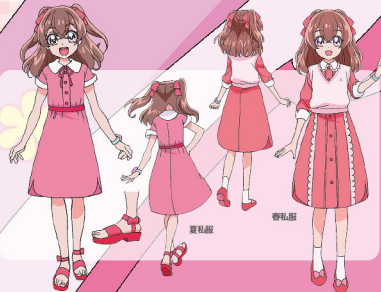
どんな時でもおいしいごはんで笑顔になれるという考えと、おばあちゃんの数々の金言を胸に、ここまでみんなを引っ張ってきたゆい。そんな彼女が今後乗り越えるべき壁とは？

パーティアップ
スタイル

和実ゆい
キュアプレシャス
YUI NAGOMI
CURE PRECIOUS

声／菱川花菜

学年✽私立しんせん中学校２年
誕生日✽8月31日
お家✽定食屋さん なごみ亭

夏私服

春私服

「キュアプレシャス」「和実ゆい」名づけの経緯

「いろいろな名前候補がありましたが、食に対する『ありがとう』が作品テーマなので、『大切』という意味の『プレシャス』は早くから候補に挙がっていました。名字は、初期３人はそれぞれ和洋中にちなんでいます。『和実』はズバリ『和』と、お米が『実る』ところから。『ゆい』は『おむすび（お結び）』のイメージです」（シリーズ構成・平林佐和子）

分け合うおいしさ、
ふわふわサンドde心にスパイス！
パーティアップスタイル
芙羽ここね
キュアスパイシー
KOKONE FUWA
CURE SPICY
声／清水理沙
学年✿私立しんせん中学校２年
誕生日✿３月13日
お家✿レストラン・デュ・ラクを経営
「キュアスパイシー」「芙羽ここね」名づけの経緯
「クールな雰囲気なので、響きとして『スパイシー』がいいのではとなりました。名字は、『洋』のつく名前がうまくはまらず、結局『ふわふわのパン』から『芙羽』という漢字を当てました。性格的にも、ちょっとふんわりしていますしね。『ここね』もかなり悩みまして、クイニーアマンちゃんというアイデアもあったくらいです（笑）」（平林）
「ペアのエナジー妖精がサンドイッチフォームになるから、『挟む』にかけて、つつみちゃん、はさみちゃんといったアイデアも（笑）。最終的にはパンの生地を『こねこねする』ところからもじりました」（プロデューサー・安見 香）

焼きつけるわ！

夏私服

春私服

キュアスパイシー変身バンク

絵コンテ：こはだ　演出：飛田 剛
原画：森 公太　作画監督：油布京子

「シェアリンエナジー！」でエナジーを食べて本格的に変身が始まるのは3人共通。パムパムと頬を寄せ合う瞬間の仲良し感が抜群。イメージ空間の花模様は、丸を4つ重ねたもの。口上前半で、両手を前に出してサンドイッチ風に手を叩くのも楽しい。

美術ボード

ここねがよく訪れるパン屋さん・ハートベーカリー

ここねの家・外観

お弁当箱

PLAY BACK 当番回

芙羽ここね★キュアスパイシー役
清水理沙

ここねも大人になったなぁ

——第26話は、ここねが苦手なピーマンをコメコメと一緒に克服するお話でした。

清水　演じていて楽しかったです！　特に、イメージ映像のシーンですね。Aパート最後が、イメージ映像で「いただきまーす！」ってピーマン大王に向かって行って締めで（笑）。この回の演出の土田（豊）さんとのやりとりも印象深いです。土田さんの中で明確な演技プランがあったんですよね。たとえばBパート最初にここねがお家に帰ってきて「ただいま……」と言うセリフは、ぐっとテンションを下げてほしいという指示だったんです。それで私も、相当テンションを下げて、どんより言ってみたら、土田さんが「そこまでやると、ここねらしくないのでもう一回」って（笑）。でもここねのギリギリのラインの芝居を攻めることができて楽しかったです。ここねの芝居の幅が広がった回でしたね。

——イメージシーンでのここねは幼児姿でした。ピーマン嫌いの点ではコメコメと同じような年齢感ってことでしょうか。

清水　そうでしょうね。私も小さい頃、苦手な食材ってあったので、ここねの気持ちもよく分かりました。この回は「コメコメのためにも、私はピーマンを食べる！」って強い想いがあったので。そこを大切に演じました。

——第35話は、ここねが街を離れるかどうかで悩むお話でした。

清水　恐らくここねのメイン回はこれがラストだろうと思ったので、ブルーのシャツワンピースを着て、服からも気合いをもらって収録に臨みました。同級生とこんなに仲良く、普通にジャンケンできるようになるなんて……と、初期のここねと比べて感動しました。ここねも、悲しんで落ち込んだり、友達と笑い合ったりして、人と関わってコミュニケーションをとれるようになりました。そのおかげで、自分で考えて想いを伝えることもできました。お父さんお母さんとも一緒に暮らしたいし、でも友達も大切だしという難しい選択の中で揺れ動きましたが、きちんと答えを出せてよかったです。ここねも大人になったなぁ。

——単純に「友達を選びました」ではなく、お母さんだけが単身赴任して、家族はリモートでつながるというのがカッコいいし、現代的ですね。

清水　いいところに収まりましたよね。コロナ禍で、私もリモートというものを初めて知りました。文明の発達に感謝ですね！

ここねは、おいしーなタウン屈指の高級レストランを経営するお家の一人娘だ。運転手の轟の送迎で通学するお嬢様で、そのクールな佇まいから、周囲からは憧れの眼差しを受けてきた。両親は多忙であまりお家におらず、家でも学校でも一人で過ごすことを好んできた。それを普通だと思っており、仲良しのお友達は特にいなかった。

そこへ、人懐っこく寄ってきたのが和実ゆい。ここねはゆいに惹かれ、不器用ながらも初めてのお友達と仲を深める。その後、華満らんや菓彩あまねとも親しくなって、クラスメイトとも打ち解けられるようになっていく。

そんな中、両親がイースキ島での仕事を引き受けたことで、引っ越しの話が持ち上がる。ここねは、「家族」か「学校やお友達」かの選択を迫られるが……。みんなはここねの気持ちを尊重して見守っていたが、彼女は考えた末に、両方大切であることを家族に伝える。それを叶えられる方法を、共に考えたのだった。

キュアスパイシーの髪型

「十字型に切れ目が入った丸いパンってありますよね。リボンの中央はそれをイメージしました。ポニーテールの根本の輪っかはドーナツを意識しています。ピンクの部分はリボンではなく髪。青とピンクのツートンカラーなんです。スパイシーの髪型は、現実で再現するのが特に難しいですよね」（油布）

おいしいの独り占め、きらめくヌードル・エモーション！

おいしーなタウンの様々なお料理を食べては、SNSに食リポを上げているグルメならん。自身の感性の趣くままにおいしさを熱く伝えている。ただ、その勢いとユニークさが周囲から「変」と言われてしまったことがあり、ひっそり匿名で投稿していたのだ。その正体を知った和実ゆいと芙羽ここねは、それこそがらんの魅力だと感じ、らんもそんな自分に自信を持てるようになっていく。やがてらんは、お友達と見た目が違うことを悩んだコメコメに、素敵なアドバイスもできるように！

そんなある日、家業であるラーメン屋さんがグルメ番組に出ることに。らんは自慢の麺を紹介しようとするも、思った通りにできずに撃沈。しかし、憧れのグルメインフルエンサーの隠れた努力を知り、さらに親身な言葉も掛けてもらって前を向いた。それは、らんの将来の夢が決まった瞬間でもあった。

キュアヤムヤムの髪型

「髪飾りは、最初は丸い中華帽にしていたんですけど、ちょっと直接的すぎるということで、ひっくり返したどんぶりに（笑）。メンメンのどんぶりフォームとおそろいで、塗り分けも同じです。2つのお団子ヘアは、シニヨンカバーでなく赤い髪。黄色と赤のツートンヘアです。お団子から飛び出たスプリングのような部分は、麺っぽさを表しています」（油布）

春私服

夏私服

ぱんだ軒のエプロン

お弁当箱

キュアヤムヤム変身バンク

絵コンテ・演出：篠原花奈
原画：豊田桂祐　作画監督：油布京子

メンメンの炎からどんぶり型のエナジーが生まれる。イメージ空間を舞うのは中華風の柄。メンメンと頬を寄せた時のニンマリ笑顔もいい感じ。口上前半では、カンフーっぽいバランスポーズをかわいく決める。

華満らん★キュアヤムヤム役
井口裕香

私もらんらんに励まされた気がした

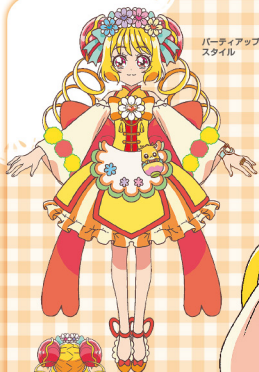
――第27話では、耳と尻尾がみんなと違うと悩むコメコメに、らんが助言してあげていました。

井口　私もらんらんに励まされた気がしましたね。コメコメにちゃんとアドバイスできるようになったところにぐっときました。らん自身も、人と違う部分がずっとコンプレックスだったんですよね。それを、ゆいをはじめみんなが「素敵な個性なんだよ」と肯定してくれたことで、前に進むことができました。その気持ちを、説教くさくならずに、彼女らしく伝えていて。たとえ自分の中で好きになれない点があっても、そんなところも自分なのだと……観ている人たちにも、らんらんの言葉でそんなふうに思ってもらえたらいいなと、明るく演じることを意識しました。コメコメもかわいかったです。

――第36話は、らんの将来の夢に関わるお話で、ゲスト声優も豪華でした。

井口　タレントさんでいうと、Kis-My-Ft2の宮田（俊哉）さんも、あまねのお兄ちゃんズ役で出ていますけど、ギャル曽根さんがギャル曽根さん役で出てくるというのがびっくりで（笑）。第32話には、くまモンがいましたけど、くまモンは喋らないですからね（笑）。第36話はSNSのグルメインフルエンサーというイマドキなお話で。第35話でここねも自分の気持ちを素直に伝えられるようになったけど、らんらんも自分の先々を見つめて、自信を持って自分の道を進めるようになったことに成長を感じました。

――普段は結構ノリノリでキュアスタに食リポを上げているらんも、プロの仕事を目の当たりにして委縮していましたね。

井口　やっぱり緊張しちゃうし、イザとなると固くなって言葉が出ないんでしょうね。ありのままの言葉を出すって勇気がいることだと思います。でも、そこでもう一人のゲストのタテモッティさんが……らんらんよりも濃いキャラでしたけど（笑）、太陽みたいな人で、そのままのあなたがいいと認めてくれて。おかげで、より前向きになれて、将来の夢も見つけられて。「たとえ1万回失敗しても、1回も諦めなかったら、夢がカムトゥルーした」という、とっても素敵な言葉をいただきました！　タテモッティ役の加藤英美里さんは『デパプリ』の現場は初めてでしたけど、とても明るくて、役柄と同じように現場を引っ張ってくれました。第35話でりさちー（清水理沙さん）が「これがきっと、ここねの最後の当番回だから」と言っていて、第36話の台本をもらった時に、私も「これが最後のらんらん回なのかな」と思ったので、すごく気が引き締まりました！

ゆるさないよ！

華満らん
キュアヤムヤム
RAN HANAMICHI
CURE YUM-YUM

声／井口裕香

学年✿私立しんせん中学校２年
誕生日✿7月11日
お家✿ラーメン屋さん ぱんだ軒

「キュアヤムヤム」「華満らん」名づけの経緯

「ヤムヤムは、英語の yummy（おいしい）からです。キュアヤミーという案もありましたが、繰り返す名前がかわいらしいということでヤムヤムに決まりました。名字は最初『中』を考えたのですが、キャラっぽさがないので、中華の『華』に。あと、彼女は深澤さんの希望で、発明家の一面があるという設定もありました。つまり『みち』は『未知なるものに向かっていく』、好奇心旺盛なイメージです。『らん』は中華っぽい名前ということでパッと決まりました。メンメンの名前が先に決まっていたので、ラーメン＝『らん』『メン』で（笑）」（平林）
「実はというか、ダジャレですね（笑）」（安見）

ジェントルに
ゴージャスに、
咲き誇るスウィートネス！
パーティアップ
スタイル
「キュアフィナーレ」
「菓彩あまね」
名づけの経緯
「ゴージャスなプリキュアだから、当初はキュアゴージャスにしたかったのですが、最終的にはデザートは食卓の最後を飾るものだから『キュアフィナーレ』に。最後のプリキュアって意味ではないです……！」（安見）
「キュアフィナーレは最初から安見さんのアイデアとしてありましたね。『あまね』は、甘い物が好きな子なので『甘いね』という意味です。また、口調が女性的ではないということで、男女どちらでもいける名前にしました。名字はお菓子の『菓』と、ゴージャスさから『彩』という字を置きました」（平林）
キュア
フィナーレの
髪型
「キャライメージは『闘うお姫様』。やや日本人離れした、凛々しく華やかな顔立ちです。それに合うよう、前髪パッツンのフワフワヘアになりました。髪に散らばってる金平糖のようなパーツは、カラフルな飾りがないと寂しい気がして。作画する際は、見栄えのいい位置と数で描いてもらっています」（油布）
菓彩あまね
キュアフィナーレ
AMANE KASAI
CURE FINALE
声／茅野愛衣
学年✽私立しんせん中学校3年
誕生日✽11月24日
お家✽フルーツパーラーKASAI

食卓の最後を、このわたしが飾ろう

いよいよあまねにとってのフィナーレ回!?

PLAYBACK 当番回

菓彩あまね✿キュアフィナーレ役 茅野愛衣

――第33話のハロウィン回はあまねが主役で、シリアスなお話でした。

茅野　夢にまでナルシストルーを見ちゃうって、相当なことですよ。「ここ（胸の中）にくすぶってるものがあるんだろう？」って煽られていましたけど、実際にそうだったんだなって。しかも、殴りかかるようなシーンもあったりして。第18話で、もう揺るがずにプリキュアとして正義を貫いていくと一度は決心したものの、そこは年相応の女の子なんだなって感じました。普段のあまねはとても大人で、あまねから出てくる言葉って素敵だなと思うことが多いんですけど、一人で抱えて葛藤するところも、またあまねらしいと感じました。

――この回はパフェのレシピッピも登場しました。

茅野　いつもゆいたちとエナジー妖精とのやりとりを見て「いいなぁ～」って思っていたので、久しぶりにパフェピッピ（愛称）が出てくれて嬉しかったです。しかも、悩んでいるあまねを心配してくれて。普段も姿こそ見えないですけど、ハートフルーツペンダントを通してつながっていると思うし、やっぱり大切な存在だなと、あらためて感じました。イメージの映像で、あまねが怖い顔でパフェピッピをムニーッとつぶしていたシーンは、悪魔っぽい感じで演じてみました（笑）。その流れで、「清く正しく美しい心にならねば！」とハロウィンの仮装で天使になるんですよね。そのまっすぐさが、あまねらしいなって思いました。

――この第33話が象徴的でしたが、ナルシストルーとの因縁は結構深いですね。

茅野　ナルシストルーからは意地悪なことばかり言われてきて……。第28話でもマリちゃんは、「どうしてそこまでして他人を傷つけようとするの」って言ってくれましたけど。でも何かきっかけがないと、あそこまでにはなりませんよね。だから、ナルシストルーにも悲しい過去があったのかな、というのが見えて、彼のことをもっと知りたいなって思いました。

――予告によると第37話は文化祭の話ですが、またあまねにスポットが当たるみたいですね。

茅野　実は、第37話に出てくるある食べ物が、私の大好物なんですよ！　しかもそれをあまねが作ったという設定で、とってもいい仕事をしてくれるんです！　これがきっと、あまねの最後の当番回になると思ったので、「あまねにとってのフィナーレだ！」という気持ちでアフレコに臨みました。あまねは第33話でプリキュアとして正義を貫くとあらためて決めましたが、過去のわだかまりが本当の意味で消えたわけではなかったり……。ですから本当に燃えたし嬉しかったです。ぜひ観てほしいです！

春私服

夏私服

フルーツパーラー KASAI

美術ボード

当初は怪盗ブンドル団の幹部ジェントルーという顔を持っていたあまね。心を操作されてしまってはいたものの、任務が失敗してもゴーダッツが要望した料理を買って帰る律儀さは、本来の性格ゆえのものだろう。また、元々妖精レシピッピを見ることができるほどに、お料理・デザート、特にパフェに愛情を持っていた。自分の本当の心はジェントルーを止めようとしていたが、ブンドル団よって、再度心を操作されてしまう。しかし、あまねの本当の心を信じるキュアプレシャスの言葉によって解放された。

後悔を乗り越え、キュアフィナーレとして活躍するようになってからも、彼女の中には自分の心を弄んだナルシストルーを許せない感情がくすぶっていた。それを自覚した時、プリキュアに変身できなくなる事態に！　マリちゃんの、その感情に流されないことが大事だという助言を受けて振り切ったが、本当の意味での決着はこれからだ。

キュアフィナーレ変身バンク

絵コンテ・演出：深澤敏則
原画：高野 徹　作画監督：油布京子

ペアとなるエナジー妖精はおらず、他の３人とは変身パターンも音楽も異なる。ハートフルーツペンダントをタップするたびにフルーツのエフェクトが生まれる。きらびやかなイメージ空間は彼女のゴージャスさを表しているよう。入射光に手をかざす笑顔も晴れやか。

プリキュアキャスト座談会
涙も笑顔もすべてが尊い！
おいしいごはんとの出会いと共に、様々なドラマを見せてきたゆいたち。いよいよシリーズの縦軸の謎が明かされつつある今、キャストたちも気合十分！
芙羽ここね✿キュアスパイシー役
清水理沙
華満らん✿キュアヤムヤム役
井口裕香
和実ゆい✿キュアプレシャス役
菱川花菜
菓彩あまね✿キュアフィナーレ役
茅野愛衣

ひしかわ・はな
5月19日生まれ／東京都出身／ラクーンドッグ所属／『勇者ご一行の帰り道』ボイスコミック（ニナ）、『アズールレーン』（羽黒）ほか

ようやく「私もプリキュアなんだ！」って実感できました

心優しいケットシーの幸せを祈りたい！

――早くも最終クール突入ですが、菱川さんの座長ぶりも板についてきた感じでしょうか？

菱川 えぇ～と……。

茅野 戸惑ってる！

井口 自覚はいかがですか!?

清水 （笑）。

菱川 第1話から「しっかり頑張らなきゃ！」って思っていたんですけど、さらに気合いを入れて走り切りたいと思っています！ （か細い声で）でも、どうですか……私、座長やれてます？

3人 （口々に）やれてるよ！

井口 どんどん座長感が増していると思う。花菜ちゃんは、これが初主役だし『プリキュア』も好きだしで、「とにかく頑張る！」って感じがかわいくて。最初は「私たちも新鮮な気持ちで一緒に頑張るし、困った時には支えてあげたい！」って感じだったんですけど、いつからか、すごくのびのびと落ちついて現場にいてくれて。

清水 私も立派だなって思う。自分が19歳の頃に、花菜ちゃんみたいに物怖じせずにできていたかな？って思いますもん。オーディションで会った時から、よく通る素敵な声だなぁと感心していたんですけど、プレシャスの成長と共に、センターとしての貫禄も出てきたと思います。

茅野 収録前のばなな（菱川さんの愛称）の「おはようございます！」っていう爽やかな大きな声で、『プリキュア』の収録が始まるぞ」って自分の中のスイッチが入るんです。最初は普通の黄色いバナナだったのが、気がつけば黒いシュガースポットがだいぶできてきて、素敵に成熟……成長したなぁって！ 声優として、これからどんどん大きくなっていきそうですけど、プレシャスとしては最終回に向かって完熟目前ですね。

菱川 うわぁ～（感激）。ますます頑張ります！

――まず、公開中の『映画デリシャスパーティ♡プリキュア 夢みる♡お子さまランチ！』についてお聞きします（P.41～参照）。オリジナルキャラクターのケットシーの印象は？

菱川 ゆいは「ごはんは笑顔」を信じてきたけど、笑顔がなくなってしまったケットシーにどう接したらいいのか考え込んでしまって。ゆいにとって、そういう経験は初めてだったと思うんです。でも悩んだ上で、なんとかケットシーに想いを届けることができました。ゆいの人生にとっても、ケットシーは大きな存在になっただろうなと思います。ケットシーが幼い頃に食べた、ゆいの即席のお子さまランチの思い出は、これからも消えないんじゃないかな。たぶん、なくなっていい思い出なんて一つもなくて。涙も笑顔も、すべてが尊いんだなって思いました。

茅野 ケットシーは「敵」と言っていいのか迷ってしまうくらい、すごく優しくて、守ってあげたくなる人です。暴走するケットシーに対しては、私たちも熱く立ち向かいましたが、ケットシーの純粋な想いは感じていました。最後は「助けたい！」という気持ちで7人で力を合わせた技を放ちました。

清水 私の子どもの頃を思い返しても、ケットシーの気持ちはちょっと身近に感じました。深掘りすると重い話になっちゃいますが、私は子役からこの世界で活動してきて、大人に対してケットシーみたいな気持ちになることもやっぱりあったので……。だからこそ、最後にプリキュアと分かち合えて良かったですし、「これからのケットシーがどうか幸せであれ！」って心から思いました。

井口 ケットシーは純粋に愛を欲していた子だったからこそ、その気持ちをイヤな大人に利用されて歪んでしまったんですよね。でもそれは、出会ってしまった大人が良くなかったからなんです。私も自分自身を振り返って「子どもたちに対して、ちゃんと大人として振る舞えているかな？」「誰かを傷つけたり、不義理なことをしていないかな？」って思わされました。最終的にケットシーはその純粋さや優しさを失わないまま自分を受けとめることができて、本当に良かったです。

――物語の軸として、コメコメの「ヒーローになりたい」という気持ちもあります。

菱川 すごく共感できました。私も『デパプリ』の現場では一番年下なので、「私も早く大人の役者になって、みんなから頼られるようになりたいなぁ」って思ってきたんです。

茅野 そこは、ゆいよりもコメコメのほうに共感していたんだ！（笑）

菱川 そうなんです（笑）。コメコメが最後にしっかり一歩踏み出して「お姉さん」になったのを見て、私も頑張ろうと勇気づけられました。

――ドリーミアロボのバリアをうち破ったのは、プレシャスとコメコメの「4000キロカロリーパンチ！」でしたね。

菱川 あのシーンは、コメコメ役の高森（奈津美）さんと一緒に収録しました。「もうこれが最強技！」くらいの勢いで、つま先から頭の先までエナジーを溜めまくって、それを喉から一気にグワッと出すイメージでやりました。高森さんも本気で力強く声を出されていて……どっちかに合わせるとかではなく、二人とも前を向く感覚があって。とにかく体の筋肉を全部使って演じました。

子ども視点で作られた同時上映ムービー

――同時上映の「わたしだけのお子さまランチ」は、なんと4世代コラボ作品です。

菱川 「私の大好きな先輩たちがいる！」ってワクワクしました。キュアサマーやキュアグレース、キュアスターが代わる代わる登場するのが楽しくて！ 歴代の先輩たちと関わることで、ようやく「私もプリキュアなんだ！」って実感できました。

清水 私もコラボの作品があると聞いて、とても嬉しかったです。『プリキュア』の良さがお子さまランチみたいに詰まった作品ですよね。

井口 私もプリキュアになったからには、歴代プリキュアのコラボ映画への憧れはありましたね。特に私はキュアサマーさんが好きなんですが、今回も登場しただけで温度も上がるような力強さを感じました！

茅野 歴代の名言を混ぜ合わせてみんなで言うのが、何より嬉しかったです。「トロピカって、ヒーリングっどで、キラやば～な感じになれ～！」って。なかなかないことですから、私たち4人で「どういうふうに言う？」って相談しながらやりました。

――一番愉快だと感じたシーンは？

菱川 （元気よく挙手して）はい！ 4人で「キュア」「サ」「マ」「～？」って言うところ。みんなで声をそろえるんじゃなくて一人ずつで。映像も面白いけど、アフレコも面白かったです。

茅野 確かに、あれを割りゼリフにするのは面白かったね。

清水 愛衣ちゃんが大変だったところだ（笑）。

茅野 私は「～？」担当になったんです。台本を見て「どう言えば？」となって（笑）。語尾を上げつつ、「ア」の音を延ばす形にしました。

清水 スパイシーが突然、窓の外に向かって叫ぶところも面白かったです。「超キラキラで宇宙な方、いらっしゃいませんかー？」って。率先してスパイシーが大声で呼びかけるなんて、私の中でツボに入ってしまって。

茅野 珍しいかもね。

清水 そういう一面が見られて楽しかったです。

井口 私は愉快ポイントとは違うんですけど、冒頭のプレシャスが手を取って案内してくれる作りがいいなって。

菱川 お客さんである「わたし」の視点でプレシャスを見続ける感じで、一緒にいる感覚になれます。

井口 そう。子ども視点なのがとってもいい～。

菱川 プレシャスとお友達になれた感じがしますよね！

ナルシストルーとも手を取り合いたい！

――TV本編の話題に移ります。第28話で4人はパワーアップして、パーティアップスタイルになりました。

茅野 実は、TVよりも前に、映画のアフレコで初めてみんなで声を合わせて言ったんです。

清水 完成映像はTVのアフレコで初めて観たんですけど、流れた瞬間、あまりにキラキラでかわいくて、感動でみんな固まっちゃいました。

井口 めちゃめちゃ高まりました！ コメコメと一緒に5人でというのが、「そうきたか！」ってなりました。嬉しかったです。

菱川 コメコメの「プリキュア・パー

しみず・りさ
9月9日生まれ／神奈川県出身／アクセント所属／吹替で「ストレンジャー・シングス」（ロビン・バックリー）、「エミリー、パリへ行く」（エミリー・クーパー）ほか

『デパプリ』のみんなはもう家族みたいなんです

ティアップ！」の言い方は、高森さんとスタッフさんとで相談されていました。とってもかわいいコメコメの声を、ぜひ何度も繰り返して聴いてください。5人でジャンプしているのもかわいいです♪

――パワーアップによる合体浄化技で、見事ナルシストルーを打ち破りました。しかし、あれほど露悪的だった彼ですが、意外にも……。

菱川　そう、実はナルシストルーはつらい過去を持っていたという。もう、ゆいと真逆すぎて！　ゆいは昔から「ごはんは笑顔」と教わって過ごしてきたのに、ナルシストルーは食に対して笑顔になれるような思い出がないわけで。そういう人って、現実にもいるでしょうし、ナルシストルーのほうに感情移入できる人も結構いるんじゃないかなって思いました。

清水　ナルシストルー役の（阪口）周平さんが、これまですごく楽しんで演じていたので、そことのギャップにもぐっときました。私たちも、どうにかしてナルシストルーと気持ちを分かち合うことができたらいいんですが。

井口　最初からゆいみたいな人たちと友達になれていたら、きっとああはならなかったんだろうなと思うと、本当に切なくなります。ちょっと根深いトラウマのようだから、すぐに手を取り合うというのは難しいだろうけど……。でも、きっかけさえあれば！　もちろんナルシストルーも簡単には手を取ってくれないと思うけど、「なんとしても！」って差し伸べ続けたら、どうかな。彼の心の奥底にある純粋さに響くように。どんな人も、気持ち次第で明るい道を進んでいけるんだというのを、見せられたらいいなと思いますね。

――マイラ王女が登場する第31話は、異色の回でしたね。

清水　この回は、ここね、らん、あまねの3人だけで変身するんですよね。

井口　この3人の変身は新鮮！

茅野　マイラ王女を無事に送り届けるために、マリちゃんを説得して「変身させて」って。それで王女には「人もお荷物も、安全安心にお届けするよ！」って（笑）。あれは面白いセリフだったよね。

清水　そうそう！　まるで口上みたいな感じで（笑）。そんな名乗りも面白かったですね。

茅野　フィナーレも王子様みたいでね。「さあ、参りましょう」って、お姫様抱っこして駆けていくという。

菱川　カッコよかった～！

茅野　あと、拓海くんはマイラ王女を見て、ゆいじゃないとすぐ気がついたんですよね。で、みんなで誤魔化して連れていくっていう。あまねも「品田、許せ！　詳しくは後日！」って（笑）。あんなに慌てふためくみんなも面白かったよね。それぞれの慌て方も違っていて。

清水　いろいろと珍しいことが多くて、新鮮な回でしたよね！

20年前のミステリー この街で一体何が？

――第35話は、ここね抜きで闘ってピンチになるところに……という展開が熱かったです。

茅野　プレシャスが「（スパイシーを）頼っちゃいけない」って言っているところに、ね！

井口　私、ここねが来てくれた時のセリフが好きなんです。「楽しいや嬉しいも、それに苦しいも悲しいも……今という一瞬一瞬を分かち合っていきたい！」って。ここねが自分の気持ちをしっかり言えて、しかもみんなのことを思って駆けつけてくれた。そのシチュエーションも含めて好きです。

菱川　清水さんのお芝居もカッコよくて素敵でした！

清水　そう言ってもらえて本当に嬉しいです（照れ）。今まで培ってきた4人の絆を、そのままセリフに乗せることができた気がします。

――第36話は、らんがプロの食リポを見て、自信を失ってしまう回でした。

菱川　らんちゃんは、第16話もですけど意外と周りの人からどう見られているかを気にする話が多いですよね。

茅野　でも、みんなはらんを信頼していて。あまねも緊張しているらんに「らんならできるさ」って言っていましたね。「これは自信ある！」と思っていたものが、肝心な時にうまくできなくて、相当にショックですよね。そんな時に支えて励ましてくれる友達がいたり、憧れの人からの一言で新たな自分を発見できたり。観ている子どもたちも勇気がもらえるお話だったんじゃないかと思います。

井口　あまねに「らんが落ち込むのもまた、本気だからだろう？　素敵なことじゃないか」って言ってもらえたのも、すごく刺さりました！

茅野　ちょっとお母さんの言葉みたい（笑）。

――他、シリーズ後半話数で楽しかった回はありますか？

茅野　やきそばマリちゃんの第30話！

菱川　言われた～！　本当に最高の回！

清水　やきそばマリちゃんのPVの愛衣ちゃん（あまね）のナレーション、大好き！

茅野　あれはスタッフさんから、「熱くお願いします」って（笑）。

菱川　そのPVを見せたあまねちゃんが、「ナレーションは私だ」って得意げなのもかわいすぎる（笑）。

茅野　なんだか、みんなで総力戦だったよね！　らんはイカやきと格闘して、ここねはヘリコプターからチラシを撒いてもらって（笑）。

清水　轟さんに通信を送ってね！

茅野　あまねとしては、やきそばを盛り付けながら、変身の口上の「トッピング！　ブリリアント！　シャインモア！」を言うのが想定外で！　最高に楽しい収録でした。

井口　あと、ごわす（スピリットルー）が初登場した第25話も楽しかったですね。らんらんも写真を撮り忘れるくらいキャンプを楽しんでしまって。マリちゃんの「写真がなくても大丈夫。こんなにモリモリで素敵な一日、大人になってもずっと忘れないものよ」って言葉もよかったなぁ。

茅野　クッキングダムに行く第29話も楽しかった。

井口　学校やおいしーなタウンでのお話も楽しいけど、そこから飛び出してのお話もいいですよね。そこで出会う新たな仲間だったりとか。

菱川　ゆいたち、いろんな冒険していますね！

井口　うん。思い出いっぱい！　最初はバラバラだった4人が一つになって、ここからシリーズのクライマックスへ向かって行きます！

菱川　もう終盤戦！

――では、ここからの意気込みやメッセージをお願いします。

茅野　第36話の最後で、バムバムとメンメンの過去の記憶が封印されていることが分かって、皆さんも気になっているところだと思います。おいしーなタウンとクッキングダムに絡んだ謎がどう明かされるのか、どうか楽しみにしてもらえたらと思います。

井口　いやぁ、1年って早いですね！　生きてきた中で、この1年が一番早かった気がする！

菱川　一番なんですね。

井口　うん。それくらい充実していたし、念願のプリキュアになれて、『デパプリ』のスタッフ・キャストの皆さん、そしてらんらんと出会えたことが幸せで。本編では、過去との関わりといった謎要素もたくさん出てきて、私もドキドキワクワクです。でも、プリキュアのチームワークで、どんな困難も乗り越えられる自信はあります。私たちらしく「デリシャスマイル～！」で終えられるよう頑張ります！

清水　私も『デパプリ』のスタッフ・キャストの皆さんと、スパイシーに出会えたことが最高に幸せです。私にとって、もうみんなは家族みたいなんです。みんなの顔を見ると安心するし、みんなの熱い芝居に感化されて「私ももっと頑張ろう」って思えます。最後までその気持ちを大切に、スパイシーを演じていきます。

茅野　ああ、感極まるコメント……。

菱川　もう最終回みたいなんですけど……。

清水　あ、変な空気にしちゃった？

井口　大丈夫、まだ最終回じゃないよ！

清水　確かに、まだまだ本編の謎が残っていますもんね！　私も一人の『デパプリ』ファンとして、謎解きを楽しみながら最終回まで駆け抜けたいと思います！

菱川　ここから先は、ゆいのターンというか、頑張らなきゃいけないシーンがいっぱい出てくると思います。私も気合いを入れ直して頑張ります！　先輩方から教わったことを忘れず、この座長で良かったと思ってもらえるように。そして視聴者の方にも「ああ『デパプリ』を好きで良かった！」と言ってもらえるようにしたいです。最後までどうかよろしくお願いします！

いぐち・ゆか
7月11日生まれ／東京都出身／大沢事務所所属／『ちいかわ』（モモンガ）、『無職転生 ～異世界行ったら本気だす～』（キシリカ・キシリス）ほか

私も子どもたちにちゃんと大人として振る舞えているかな

かやの・あい
9月13日生まれ／東京都出身／大沢事務所所属／『継母の連れ子が元カノだった』（伊理戸由仁）、『劇場版 異世界かるてっと ～あなざーわーるど～』（ダクネス）ほか

歴代の名言を混ぜ合わせてみんなで言うのが嬉しかった

頼れる仲間たち

実はストーリーの縦軸を担っているマリちゃんと拓海。おいしーなタウンの20年前の謎に挑んでいく！

ローズマリー
デリシャストーンを持つブラペのことも、味方として信頼している。だが、ブラペがなぜ共に闘っているのかは分からないままだ

クックファイターのマリちゃんは、ゆいたちとの日常をエンジョイしているが、一方でレシピボン捜索も続けている。目下の疑問は、自分と近衛隊長フェンネルだけが持つスペシャルデリシャストーンの模造品をなぜブンドル団のナルシストルーが使っていたのか。これを作れるのはマリちゃんの師匠ジンジャーだけのはずだが……。

さらに、よねと旧知の仲の又三郎から、20年前にジンジャーがおいしーなタウンに滞在していたと知る。しかもパムパムとメンメンも、コメコメ一世なるエナジー妖精と共に来ていたらしいが、二匹はなぜか当時を詳しく思い出せない。

そして拓海は、ブラックペッパーとしてプリキュアと共に闘うが、変に深入りすべきではないのかもとも考えていた。そのため、いまだマリちゃんとこの件で話し合ったことはない。拓海は父がクッキングダムに帰らなかった理由を知らず、マリちゃんも拓海の父がクッキングダム出身者とは知らないままだ。

そうした中、マリちゃんは、兄弟子シナモンがレシピボンを盗んだというのは冤罪かもしれないと考える。だが、フェンネルはまた違う考えのようで……。

20年前のおいしーなタウンで、シナモンやジンジャーが絡む重要な何かがあったのは間違いない。謎は深まるばかりだ！

フェンネル
クッキングダムの国王と女王の側近的存在で、マリちゃんたちクックファイターのリーダー。マリちゃんとは公私にわたる友人でもある

こんな人がいたらいいなの夢!?

「理想の保護者」であるマリちゃんは、大人視聴者が自らの襟を正したくなる人物。子どもたちにも、「困った時は大人に気軽に相談しよう」と思わせてくれる存在だ。そして拓海も「こんな男の子がいたらいいな」と思わせてくれる素敵な幼なじみ。大人も男の子も、みんな集まってデリシャスパーティ！

品田拓海（しなだ たくみ）
ブラペであることはゆいたちには伏せたまま。そのため、ウバウゾー登場の場には居合わせず、闘いの開始に遅れることもしばしば

父から預けられたデリシャストーン

しんせん中学校の夏制服

優しいマリちゃんが時折見せる勇ましい表情が好き

ローズマリー役
前野智昭

まえの・ともあき
5月26日生まれ／茨城県出身／アーツビジョン所属／『刀剣乱舞』シリーズ（山姥切国広）、『組長娘と世話係』（葵塔一郎）ほか

――放送も最終クールに突入しました。ここまで演じてきての手応えは？

前野　ローズマリーは登場時から、ゆいたちを保護者のような立場で見守りつつも、良き理解者として、いつも的確な言葉をかけられる、とても理想的な大人だと思います。口調や独特の言い回しも、すっかり自分の中に浸透したし、表現の幅も大きくつけられるキャラクターなので、毎回とても楽しく演じさせていただいています。周りの方からも「マリちゃんが好き」というご感想を多くいただいていて、とても嬉しいです。

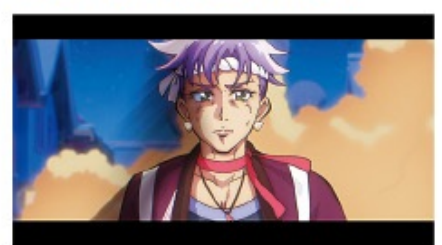
――ナルシストルーを捕らえた第28話では、クックファイターとしての見せ場もありましたね。

前野　いつも優しいマリちゃんが時折見せる、勇ましい表情がとても好きです。なので、クックファイターとしての一面を演じる時は、自然と気合いが入ります。普段物腰が柔らかいからこそ、勇ましさがより映えるキャラクターなので、今後もたまにはこういった表情を見たいです。

――続く第29話で、マリちゃんの故郷クッキングダムが初めてしっかり登場しました。

前野　不思議な雰囲気がありますが、とても素敵な世界だなと思いました。師匠であるジンジャーと過ごした思い出の場所や、ローズマリーに縁ある場所などを、今後も見てみたいです。また第29話のラストでは、これまでの「プリキュア」シリーズの世界も垣間見ることができたのもぐっときました。

――第30話は、マリちゃんが主役ともいえる、やきそば回でした。

前野　みんなが出し合ったアイデアをまとめ、ひらめいたのが「やきそば」ということで、そのひらめきにも唸りました。やきそばマリちゃんのPVではマリちゃんの表情が渋く、かなりクオリティが高いPVで面白かったです。ヘリコプターからチラシを撒いたり、極秘の火力など、それぞれの個性が爆発していて、アフレコ時もキャスト陣で盛り上がっていました。

――映画もマリちゃんは大活躍でした。演じてみていかがでしたか？

前野　映画では、マリちゃん的にはやや不運な部分もありましたが、いつも通り楽しく演じさせていただきました。とても感動するお話でもあり、ご覧になった方の中にずっと残ってほしい作品だなと思いました。拓海とゆいのやり取りもニヤニヤしましたし、無性にお子さまランチが食べたくなりました。

――マリちゃんといえば旧知のシナモンとのストーリーにも期待したいところですが、そちらにはどんな印象をお持ちですか？

前野　シナモンは果たして冤罪なのか。そしてシナモンとブラペは関係があるのか。今後徐々に明らかになっていくのかもしれません。我々も先の展開を詳しく知っているわけではないので、毎回台本をいただくたびに楽しみにしています。おそらくこれからもマリちゃんは、ゆいたちの良き理解者として近くでサポートをしつつ、時には共に闘うシーンもあるかと思います。「こういう大人になりたい」と誰もが思うような、まっすぐなマリちゃんをこれからも大切に演じていきたいと思いますので、プリキュアのみんなやブラペ共々、応援していただけると嬉しいです。よろしくお願いします。

拓海はゆいの言葉に救われた

品田拓海役
内田雄馬

うちだ・ゆうま
9月21日生まれ／東京都出身／アイムエンタープライズ所属／『東京ミュウミュウ にゅ～♡』（青山雅也）、『虫かぶり姫』（グレン・アイゼナッハ）ほか

――ここまで演じてきての手応えはどうですか？

内田　あっという間の1年に感じております。最後まで丁寧に、拓海に寄り添っていきたいです。個人的には、もっともっと演じていきたい気持ちもありますが!!

――ブラペにも、光弾を放つ以外の個人技として、「ペッパーミルスピンキック！」ができましたね。

内田　毎話、ゆいたちと共に拓海も成長を重ねています。戦いにもそれが現れているのかなと感じます。

――少し前の第22話では、ブラペはプリキュアの足手まといかのようにナルシストルーに嘲られ、悩んだこともありました。

内田　自分は何のために闘うのか。とても大切なことだと思います。人は必ず、行動に意図が存在します。意味のない行動はありません。本人にとって、そうしたい、そうしなければならない理由が存在します。その正しさは、時によって変わってしまうものですが、拓海はゆいの言葉に救われました。彼女に背中を押された拓海が、もっと強く、優しくなっていくような、そんな気がしました。

――第34話の野球回も、拓海らしい活躍が見られました。

内田　この回は宏輔と又三郎さんのお話でしたが、又さんと話している時、拓海の優しさや気遣い屋な一面が見られてよかったです。お互いの気持ちを口にすることは大事ですよね。ちょっとした一言で、気持ちが通じることもあると思います。

――映画での拓海の印象はいかがでしたか？

内田　映画での拓海は、子どもと大人の間の存在として描かれていたように感じます。まさに思春期の代表といいましょうか。昔の思い出や子どもの頃に愛していたものを恥ずかしく感じる時期もあるかもしれませんが、好きだという気持ちに大人も子どもも違いはないと思います。思い出も今も大切にしたくなる、そんな映画だったのではないでしょうか。

――今後ゆいと拓海にはどうなってもらいたいですか？

内田　とにかくお互いが幸せになる未来に向かってほしいと願っています。まずはシリーズを走り切るまで、精いっぱい頑張ります。拓海やゆい、プリキュアの物語を、どうぞ最後までご覧ください。引き続き『デリシャスパーティ♡プリキュア』をよろしくお願いいたします。

「品田拓海」名づけの経緯

「ゆいの家族や幼なじみは、おむすびに関係する名前です。『拓海』は、お母さんの『あん』と合わせて『たくあん』。拓海の『海』は、お父さんが漁師さんなので、きっと海に関係する文字を入れるだろうと。『品田』はお父さんの本名が先に決まっていて、それをもじっています。『門平』は、安見さんの案です。ちょっと面白い響きですが、深澤（敏則／シリーズディレクター）さんも乗り気でした！（笑）」（平林）

品田門平（しなだ もんぺい）
拓海の父。ゆいの父ひかると遠洋漁業に出ている。イースキ島など寄港した先々で、おいしーなタウンゆかりの招き猫をお土産に渡す

「ローズマリー」名づけの経緯

「まずプリキュアの名前を決める時に、安見（香）プロデューサーがごはん関連の名称のリストを作ってきてくださって。その中に、ハーブや香辛料の名前もあって、ハーブってどれもかわいい名前だね、という話になりました。それでクックファイターの名前はハーブや香辛料でそろえました。中でも、このキャラはかわいらしい響きの『ローズマリー』にしました。愛称で『マリちゃん』と呼ばれるのもかわいいですよね」（シリーズ構成・平林佐和子）

クッキングダムからやってきた３匹のエナジー妖精たち。それぞれキュアプレシャス、キュアスパイシー、キュアヤムヤムとペアを組み、おいしい笑顔を守るために奮闘中！

※写真は左から、日岡さん、高森さん、半場さん

エナジー妖精座談会
ゆいたちが大好き♥

コメコメ役
高森奈津美

パムパム役
日岡なつみ

メンメン役
半場友恵

たかもり・なつみ
２月１４日生まれ／山梨県出身／ラクーンドッグ所属／『ジュエルペットてぃんくる☆』（桜あかり）、『放課後のプレアデス』（すばる）ほか

ひおか・なつみ
７月１５日生まれ／北海道出身／ぷろだくしょんバオバブ所属／『吸血鬼すぐ死ぬ』（ヒナイチ）、『スローループ』（海凪小春）ほか

はんば・ともえ
６月９日生まれ／東京都出身／アーツビジョン所属／『魔界戦記ディスガイア』シリーズ（エトナ）、『スターオーシャン』シリーズ（ウェルチ・ビンヤード）ほか

夏休みの「ケンカ」では三者三様のらしさが

――エナジー妖精は映画でも大活躍でしたが、まずはそれぞれのキャラクターを演じる上で意識していることなどから教えてください。

高森　第３話、コメコメが一人でお使いに行く回を見て、コメコメは赤ちゃんだけど泣かない子なんだなって思いました。叱られた時には黙ってウルッとして「これを買ってきたかったの」というふうに大事にニンジンを抱えているような……。そういったいじらしさを大切に演じたいなと思いました。

日岡　パムパムは、おしゃまさんですね。最初にシリーズディレクターの深澤（敏則）さんからは「パムパムはお姉さんっぽくて、みんなのお世話をするイメージ」と言われました。初期は説明役的なポジションだったんですが、だんだん話が進んでなじんできた今は、みんなと一緒にワイワイするほうがメインになっている気がします。意外とドジでオチ担当なところもあったりして（笑）。お姉さんになりきれてないところがかわいいなって思います。

半場　メンメンはのんびり屋さんですね。たとえば「らんちゃん」って呼びかける時にも、耳に残るように、ゆっくりめに「ら～んちゃ～ん」って言うことで、メンメンらしさを意識しています。アニメはセリフの尺が結構きっちり決まっているのでなかなか難しいんですけど、毎回尺ギリギリを使って言うようにしています（笑）。

――姿としてはコメコメが白キツネ、パムパムが犬ときて、メンメンがドラゴンというのが面白いです。キュアヤムヤムの変身では火を吹きますよね。

半場　火を吹くキャラとは聞いていなかったので驚きました（笑）。ただ、闘いでは火を使わないのに調理に活かしてしまう（第30話）あたりが、日常や食べ物を大切にする『デパプリ』の世界だなと思います。それとメンメンって、３匹の中では一番しっかりしている気がします。

高森・日岡　分かります！

――第24話のケンカをしてしまう回は、メンメンのしっかりしたところが垣間見えました。

高森　そうなんです。コメコメをなだめようとして言った「そんなこと言わないメン」が一番好き！

半場　メンメンは押しつけがましさがないんだよね。

日岡　私、この回がここまでで一番好きかもしれない。

半場　テストでも、３人でずっと盛り上がっていたもんね。

日岡　それまで純心でかわいい存在だったコメコメが成長してきて、イヤイヤ期みたいになっちゃって。

高森　そうなの。自我が芽生えて、年相応のワガママを言うんですよね。

日岡　パムパムはこれまで「自分はお姉さんでなければ」と思ってコメコメのお世話をしていたんですけど、ちょっと許容できなくなって（笑）。

高森　コメコメは二人に全身で甘え切っていたってことですよね。

半場　そうなんだよね。嫌がらせとか

化けコメ 成長の軌跡

「最初の玩具収録で、化けコメが５段階に変化するのを知りました。成長過程が細かく分かれているので、各段階での演技は全部あらかじめ計画しました。たとえば『この段階では舌足らずな感じでいこう』とか。おかげで、年齢感の修正のディレクションは一度もなかったです。私が組み立てた通りにやらせてもらえて、すごくありがたかったですね。

お芝居が一番大変だったのは、実は第４段階です。第３段階までは、喋り方にかなり差があってもおかしくないと思うんですけど、第４段階と第５段階だと、そこまで変わらない気がして……。第５段階のお芝居がどこに行きつくかは決めてあったので、３と５の間のあんばいを探るのが難しかったです！」（高森）

第４段階
せいちょう期

第５段階
しょうじょ期

お米のエナジー妖精
コメコメ
本名
コネクトル・モチモチット・フックララ・グリコーゲン・コメックス二世

すくすくと成長して、小学生くらいの見た目に化けられるようになった。プリキュアがパーティアップスタイルに変身する際、力を分ける

屋台メシグランプリの浴衣

ここねは優しくて、かわいいものも大好き

パンのエナジー妖精
パムパム
本名
パートナル・フワフワン・コーパシィヌ・イースト・パムサンド

大好きなここねがイースキ島に引っ越す話が出た時は、一緒についていく気満々だった。だが、ここねの気持ちを一番に考えてもいた

屋台メシグランプリの浴衣

じゃなくて……。

高森 だから、なんでパムパムが怒ったのか分からなくて、キョトンとしているんですよ。

日岡 ギャグっぽく見せてはいますが、パムパム本人は結構真剣に怒っていましたね。だからコメコメたちが助けに来てくれた時も、意地を張って「助けてもらわなくてもいいパム！」って言っちゃうとか。それまでのパムパムはお姉さん感ほぼ１００％だったのが、少しコメコメと対等に近づいたというか。パムパムの子どもっぽいところが見られてすごく好きな回です。

高森 それと芽生えでいうと、この回でなっちゃん（日岡さん）のナルシストルーさんへの思い入れが……（笑）。

日岡 元々ナルシストルーのことが気になっていたんですけど、捕まったパムパムとのやりとりが好きすぎて（笑）。ナルシストルーがパムパムのマネをして「～パムゥ」って言うのが「イイ！」ってなっちゃいました。

━（笑）。パムパムは一生懸命、反撃しようとしていましたよね。

日岡 「パムパムパムパム！」って連続で言わなきゃいけなくて大変でした。でも、それも楽しかったです。

━第27話は、コメコメの悩みの話です。化けコメの耳と尻尾を「みんなと違う」と思ったようで。

高森 コメコメが歳の近い子どもたちと絡むのって初めてでしたよね。そこで「自分だけ違う！　恥ずかしい！」みたいな気持ちが芽生えたことに、成長を感じて感動しました。そしてそんなコメコメに、そのままでいいんだよって言うのがらんちゃんなのが、またね。

日岡・半場 うんうん！

高森 らんちゃんが、第16話で自分も変じゃないかと悩んでいたので。そこを乗り越えたらんちゃんが、第27話で支えてくれたのが「いいなぁ！」ってなりました。

━第28話では、そんなコメコメの成長が、プリキュア４人の浄化技の鍵になりました。

高森 まさかコメコメが、合体浄化技を放つ上でのブースターになるとは！（笑）コメコメの成長が物語でどういう役割を果たすのかは知らなかったので、驚きでした。

━センターにドンといますからね。

高森 それを見て「おお！」と思って。さらに映画ではキュアプレシャスと同時に「２０００キロカロリーパンチ！」まで出しました！　でも、戦隊もので言うレッドのポジションはゆいで、コメコメはあくまでエナジー妖精なので、プリキュアほどの気合いのセリフにならないようには工夫しています。プレシャスがピンクなら、コメコメは薄ピンクみたいな（笑）。

日岡・半場 （笑）。

今や気の置けない間柄 この3人でよかった！

━それぞれのペアであるプリキュアの素敵なところをお聞かせください。

半場 らんちゃんの素敵なところは、さっき語られちゃったかな。

高森 ごめんなさ～い！（一同・笑）

らんちゃんはとても元気で、お話をぐいぐい回してもくれる役どころ

麺のエナジー妖精
メンメン
本名
メンバーヌ・チュルチュルット・クルクルリン・グルタミンサン・メンドラゴン

麺の祭典「ちゅるフェス」直前にうどんのレシピッピが行方不明になった時は、自分のエナジーを多量に使うのを覚悟の上で麺占い！

屋台メシグランプリのはっぴ

半場 らんちゃんはとても元気で、お話をぐいぐい回してもくれる役どころなんです！　でも、そういうキャラって、ともすると、ただのにぎやかし担当で終わってしまう可能性もありますよね。そこを、ものすごいリアリティで演じている井口裕香ちゃん！　すばらしい！　彼女のお芝居あっての、らんちゃんの魅力だと思います。ペアをやらせてもらえてよかったって、心の底から思っています。

高森 ゆいについては、とにかく包容力と、動じない心ですかね。ブレないところがすごいなって思います。映画で掘り下げていただいた「コメコメが憧れるゆいのヒーロー性」って、闘いがカッコいいだけではなく、その相手さえも包み込むところというか。

半場 そうだね、すべてを肯定してくれるところがあるもんね。

日岡 パムパムは、ここねのことをとてつもなく崇拝しています。でも、そうなるだけのオーラがここねにはあると思います。気品にあふれていて、一見クールで近寄りがたそうですけど、実は優しくて。かわいいものも大好きで、パムパムのことも「かわいい！」って言ってくれて。そういう時は目元も緩んでいて、そのギャップも大好きです！

高森 私たち３人、ペアのプリキュアのことが好きすぎるんですよ！　本当に最高で、私たち愛し合ってるので（笑）。

半場 その通り！

日岡 ラブラブですからね！

高森 もちろん、エナジー妖精トリオも大好きです。３人でいるととっても気持ちが楽で。このメンバーで本当によかったなぁって思うんです。

日岡 嬉しい！

半場 ジンときた！　ぜひ見出しに使ってください！

高森 ３人でお出かけもしましたよね。サンシャインシティの『デパプリ』のイベントに行ったりね！

7人で声をそろえて技名を言えた！

━映画では、パムパムとメンメンも人の姿になりました（P.41～参照）。

半場 最初の玩具の音声収録の時に、「パムパムとメンメンは人の姿にはなりません」って、スタッフさんから断言されていたんです。

高森 だからびっくりしました。予告のスポット映像のアフレコで「こ、これは⁉」って。

日岡 予告のアフレコの後に、正式に「人の姿になります」と言われて、デザインも見せてもらったんです。

半場 パムパムとメンメンの人の姿はＴＶの放送が始まってからデザインを作ったので、私たちの声のイメージで描いてくださったみたいで。

日岡 もう嬉しい！　パムパムなんて、ここねの妹にしか見えなくて！　目元が特に似ていて、設定のポーズもここねと同じように手を腰に当てて。耳もいい感じになじんでいます。

半場 メンメンも、らんちゃんのもう一人の弟みたいです。

━映画では、エナジー妖精たちはケットシーにお子さまランチを振る舞われましたね。

高森 ケットシーがお子さまランチを作るシーンで、観客に話しかけるセリフがあるじゃないですか。

━「さあ、手拍子いくよ！」って呼びかけていましたね。

高森 私はこういった仕掛けの作品に出たことがなかったので、完成した映画を観て「こんなにわくわくするんだ！」となりました。あと、私たちのリアクションも「ＴＶ本編よりもさらにコミカルにお願いします」と、監督の座古（明史）さんから言われまして。

半場 ここは楽しいシーンになるように演じました。

日岡 みんな食べすぎでポテンポテンになって、「ここね～」って太った声で跳ねていくのが面白かった！（笑）

高森 ＴＶ本編ではまず見ない、おなかがパンパン状態とか最高！（笑）

日岡 ケットシーって、中盤まではかわいい猫ちゃんで、ちょっと我々のお兄ちゃんっぽい感じもしました（笑）。私たち＋ケットシーで、よりマスコット感が増したなぁって。

━クライマックスでは、みんなでお子さまランチドレスになりました。

高森 まずプリキュアの前に飛び出して盾になるところから、ぐっときますよね。こんな小さな体なのに！

半場 うん、そこは一番きたね！

日岡 そこからの変身シーンは、それぞれのペアのプリキュアの通常変身に似ていて、「尊い！」ってなりました。

半場 最後に大きな羽が生えたところで、一気に持っていかれた！

日岡 プレシャスとコメコメは「４０００キロカロリーパンチ！」出しちゃうし！

半場 ２０００＋２０００でね。

日岡 プレシャスは２０００まで行くのに段階を踏んでいたのに（笑）。

高森 コメコメはいきなり出せるとは（笑）。それと映画でしか観られない、７人の合体浄化技も感動的でした。

━声をそろえて技名を言うのは、やはりテンションが上がりましたか？

高森 もちろんです。映画のアフレコは、プリキュアの４人より私たち３人が先に録ったんですが、「技のシーンまで先でいいの？」ってなりました（笑）。

半場 そこにプリキュアのみんなが合わせてくれてね！

日岡 みんなで言えて嬉しかったです！

━では高森さん、代表してファンへのメッセージをお願いします。

高森 みんなでごはんを食べることが難しいこのご時世に、「大好きな人と一緒にごはんを食べることはこんなにすばらしいんだよ」というのをテーマにするなんて、本当にチャレンジングな作品だと思います。『デパプリ』を観たお子さんが嫌っていたものを食べてくれたといった感想をいただくと、私も関われてよかったなって思えます。コメコメとここねがピーマンが苦手なのを克服するために、農家さんで収穫から体験したように、ちょっと視点を変えてみることも大切だなとか、とても勉強にもなるし優しい気持ちになれる作品です。ラストはきっと、私たちも涙なしには観られないと思いますが、最後までお付き合いいただけたら嬉しいです。

デリシャスタンバイ！

怪盗ブンドル団座談会

我ら怪盗ブンドル団！

※写真は左から、かぬかさん、木下さん、阪口さん

お料理に宿る妖精レシピッピを捕らえるため、おいしーなタウンに出没する怪盗たち。「食」にまつわるそれぞれの思いは、どんな形で結実する？

セクレトルー役
木下紗華

ナルシストルー役
阪口周平

スピリットルー役
かぬか光明

せっかくのウバウゾーが毎回やられてしまう！

――ここまで演じてきて、それぞれのキャラの印象などを教えてください。

木下　セクレトルーは、第1話では笑顔も見せず、カッチリした秘書感が満載でしたよね。その時はジェントルーとのコンビだったから、いわゆる会社の上司と部下みたいな立ち位置で喋っていた気がします。その後ナルシストルーが出てきたら、わりと対等に近い立場で砕けた会話もするようになり。さらにスピリットルーが出てきたら、なんというか自由な新人に振り回される感じで（笑）。最初の頃は、彼女がこんなに表情豊かな人だとは思っていなかったです。

阪口　僕（ナルシストルー）はさんざんかき乱しましたからね。ブンドル団も、プリキュアも、そしておいしーなタウンの人たちも。ちゃんと悪いヤツなので、やっていて楽しいったらありゃしない！

木下・かぬか　（笑）。

阪口　僕が初めてこの現場に入った時に、スタッフさんから「ナルシストルーさんは、子どもたちがちょっと怖いと思うくらい悪いことをしてください」と言われて、「まかせてください！」って得々として答えた覚えがありますね。

木下　毎週イキイキしていましたよね。

――ナルシストルー、見た目はイケメンなんですけどね。

阪口　僕はあんまりこういう麗しい感じの役をやったことがなかったので、僕がやっていいんだろうか、というのはありました。

木下　周平さん、クールな役自体は多いですよね？

阪口　でもこんなふうに、自分のことを美しいみたいに言っちゃうタイプの役は初めてでした（笑）。最初は、いわゆる美形キャラ的な方向性なのかなとも思ったのですが、スタッフさんから「イケメン風の演技というよりは、『自分が主役！』くらいのつもりでやってください」と言われたんです。それで芝居の着地点が見えてきました。

――わりと子どもっぽい口調でも喋りますよね。

阪口　彼、大人げないですよね。精神的には子どもだし、プリキュアとの戦いを「遊び」と言っていたのも本音なんでしょうね。

木下　顔も童顔だしね。

かぬか　スピリットルーについては、食べることの意味が全然分からないキャラなんですよね。かたや自分は食べるのが大好きなので、なかなかそういった気持ちになれないというか……。ふくよかでユーモラスなキャラクターは慣れているので、そういう意味ではスッと入ることができましたけど。

阪口　キャラ絵を見た時から「これ、かぬかじゃね？」って言っていたら。

木下　やっぱり、かぬかさんでした（笑）。

――「ごわす」という語尾が特徴で、ちょっととぼけた愛嬌もありますよね。

かぬか　そうそう。だけどスピリットルーはおバカじゃないんですよね。ピーマンが苦いとか、そういうことも分かっています。

阪口　つまり、開発者である俺様（ナルシストルー）の嗜好がモロに出ているってことか。

かぬか　そういうことだと思います。事の善悪はいまいち分かっていないみたいですよね。それに、ごはんがどうして大事なのかも、スピリットルー自身食事を必要としないから分からない。

――ちょっと気の毒になってくる気もします。

かぬか　そこが分かった時に、何かあるのかもしれないですけどね。なにしろ純粋な性格なので。

阪口　まぁ、俺様が純粋だからこそだよね！

木下　あぁー、そうかもしれない（笑）。

かぬか　さすが（笑）。ただ、スピリットルーは第27話のラストでナルシストルーさんにスイッチオフされちゃって、今は心をなくしたようなカタコト喋りで……。

――寂しいですね。

かぬか　でも、ミニスピリットルーも出てくるので、そっちも僕がやります。この取材を受けている今は、まだミニスピが出てくる話は録っていないのですが、ちっちゃいので高めの声を作ろうかなと思っています。

木下　いっぱい出てくるんだよね。

かぬか　そもそも僕は一話限りの登場だと思っていたんですが、形を変えて長く出させてもらっています。

――各キャラの特徴としては、セクレトルーは「てゆーか」とボソッと本音をぶっちゃけるのが面白いです。

木下　誰もがありますよね、やっていることと思っていることが逆になるって。それをこの人は、わざわざ口に出しちゃうんだなと。台本には「小声で」と書かれてはいるんですけど、もはや本音がダダ漏れなんですよね（笑）。なるべく普段のカッチリした口調とは違う、心の声がポロッと出る感じで、ラフな口調にして、落差をつけていこうかなと演じています。表情もジト目になりますし（笑）。

――そしてナルシストルーは、自信満々に見えて、どうやら食べることに関して苦い思いをしてきたようですが。

阪口　僕も子育てをしていると、ここまで偏執的ではないにしても、食べられないものを出された人間のしかめた顔というのはしょっちゅう見るんですね。その顔と、第28話の回想でのナルシストルーの顔が、僕の中でリンクするんです。

かぬか　そうなんですね！

阪口　実際、うちの子どもたちにも

セクレトルーがこんなに表情豊かな人だとは思っていなかった

きのした・さやか
7月21日生まれ／千葉県出身／ケンユウオフィス所属／『僕のヒーローアカデミア』（ミルコ）、『BIRDIE WING -Golf Girls' Story-』（クライン・クラーラ）ほか

セクレトルー
ゴーダッツの秘書的幹部。他の幹部にゴーダッツに捧げるべき料理のレシピッピ奪取を命じるが、単に自分が食べたいものだったりも

ナルシストルーは子どもの部分を持ったまま大人になっちゃった人なのかな

さかぐち・しゅうへい
９月５日生まれ／大阪府出身／アクセント所属／『TIGER & BUNNY 2』（マッティア・イングラム）、吹替で『マンダロリアン』（マンダロリアン）ほか

ナルシストルー
ジェントルーに代わってレシピッピ奪取を行っていた。食に苦い過去があるようだ。露悪的だが「自分の居場所」にこだわる一面も

好き嫌いがあって、「これ食べられない」って毎日のように言っています。それがそのまま大人になると、こうなるのかな……というのは感じます。もちろん、ナルシストルーには彼なりの事情があるのかもしれませんが。

――体質的な何かがあるのかもしれませんしね。

阪口　ただまあナルシストルーは、そういうのも含め、子どもの部分を持ったまま大人になっちゃった人なのかな、という印象はありますね。

――スピリットルーは、見た目も含めてコミカルさがあって、他のメンバーとは違う雰囲気ですよね。

かぬか　まったく毛色が違います。洗練された人たちの中に、田舎者が突然紛れ込んだみたいな（笑）。でもその対比はしっかり出していこうと思っています。セクレトルーとジェントルーとナルシストルーが今まで作り上げてきたブンドル団のイメージを、覆すぐらいの勢いで！

木下　マスコットキャラみたいな見た目ですしね。

かぬか　でも仮面はおそろいみたいで、かわいいですよね。

――ウバウゾーを文字通り応援するのも愉快です。

かぬか　彼としては、純粋に頑張ってほしいから応援するんでしょうね。でも、何かを使ってパワーアップさせるとかでなく、普通に応援するんだ!という。

阪口　そこがいいんだよ！　だってウバウゾーって、毎回あっという間にプリキュアにやられるでしょ？

木下　せっかく私たちが生み出しているのにね。

阪口　そう。「勝手にかわいくして、『ごちそうさま』させるなよ！」って思いながら、僕は毎週毎週、うちの娘の隣で観ているんです。そんなところへスピリットルーがやってきてウバウゾーを応援してくれて、「いいぞ、もっと応援してくれ！」ってなりました。

かぬか　おお、ありがとうございます！

阪口　まぁ、それでもやられちゃうんだけど。

木下・かぬか　（笑）。

拳を上げる掛け声もいろいろなパターンが

――ブンドル団といえば、「ブンドル、ブンドル～！」の掛け声も特徴です。

木下　第1話の台本をいただいて、「あ、掛け声があるんだ」ってなりました。最初は微妙に抵抗感がありましたけど（笑）、これがブンドル団の象徴的なものになっていくんだろうなと。あと、「私とジェントルー役の茅野（愛衣）さん次第で、観ている人にどう受けとめられるかが決まる！」というプレッシャーがありました。それに1年間やるならマンネリ化させちゃいけないとも。でも本編を観てお分かりのように、いろんな「ブンドル、ブンドル～！」の形が出てきまして。全然マンネリ化することもなくて。今はミニスピもいますから。

かぬか　ミニスピはちっちゃいのが、いっぱいいますし。

木下　なので、今は毎週楽しくてしかたないです。この掛け声を楽しみにしている方もいるそうですし。私が一番好きなのが、ナルシストルーが朗々と自分語りをしているところをぶった切って、私が「では」と言って始めたパターン。そこで顔色一つ変えずにノッてくるナルシストルー（笑）。

――ナルシストルーはポーズを「ダサい」と言っていたこともありましたね。

木下　言われましたねぇ。でもセクレトルーさん的にはダサいなんて思ってない！　……いやちょっとは思っていたでしょうけど、それをズバッと言われたから「なんてこと言うの、この人!?」ってなりました（笑）。

阪口　そんなナルシストルーも、最終的にはめっちゃノッてやっていました（笑）。「どっちがリードするか？」みたいな駆け引きがあった回も好きです。

木下　にらみ合ってにらみ合って……結果、微妙に声がズレているという（笑）。

阪口　ナルシストルー的には、何でもいいから主導権が欲しかったんでしょうね。いろいろなものを「遊び」と捉えた上で。

木下　でも、スピリットルーが出てきたら主導権を取られちゃった。

かぬか　そうそう、急に「では、いくでごわす。せーの！」って言い出して（笑）。

阪口　俺様の気概を受け継いでいるからね。

木下　そうか、それだ！

かぬか　そこも似ちゃったのか。セクレトルーさん、「それは私が！」って言っていましたよね（笑）。

阪口　（笑）。でも、どのパターンでも不思議な緊張感がありました。

木下　ありますよね。謎のプレッシャーみたいなものが。

阪口　たかだか8文字のセリフを合わせるだけなのにね。

木下　でも一度はみんなそろってやってみたいなぁ。

――茅野さんは、腕を実際に振りながら言っていたそうですが。

木下　あ、やってたやってた。私は上げていないです。

かぬか　俺も上げていないです。セリフに合わせて軽くリズムを取るくらい。

木下　拳を上げて言っていたのは、茅野さんだけですね。

阪口　ジェントルーは真面目だからな。というか、僕ら3人が不真面目なのか。

木下　そうかもしれない。

阪口　これはゴーダッツ様に減点されかねない!?

木下　それはまずい！（笑）

ナルシストルー退場でセクレトルーが現場に

――かつての仲間・ジェントルーの印象はどうでしたか？

木下　私は好きでしたよ。セクレトルーが喋っている時には、澄んだ大きな瞳で見上げるように話を聞いてくれる、かわいらしい子でした。ウバウゾーがやられてレシピッピも奪えなくて、でもそのフォローとして、狙った料理を「買って帰ろう」なんて言ってるの。なんていい子なの！　その律儀さも愛しくて堪らなかったです。口調はカッコいい子でしたけどね。

阪口　実は僕、ジェントルー時代の彼女と一緒に収録をしたことが一度もなかったんですよ。

木下　そうでしたっけ。

阪口　ジェントルーとの掛け合いのシーンは、彼女はプリキュアチームのほうで収録して、僕はその声を聴きながらやっていました。

――今は分散収録ですものね。

阪口　そこが心残りなのもあって、「またいつでもコッチ側に戻ってこいよ！」というのが個人的にもあるんです。あまねがプリキュアになってからも「ジェントルー」って呼びかけていたのも大好きなセリフでした。

――ジェントルーと呼び続け、ネチネチ煽っていましたね。

阪口　はい、非常に気持ちよかったです！（一同・笑）人のほじられたくない部分をほじっていくというのは、快

ミニスピリットルー
ブンドル団の下働きをする、スピリットルーの小型形。宙に浮くこともできる。顔から出ている腕は収納可能

スピリットルー
モットウバウゾーを応援する特技（？）を持つ、ロボット幹部。開発者であるナルシストルー自身の手によって、停止させられた

スピリットルーもごはんを食べられるようになってほしい

かぬか・みつあき
２月５日生まれ／東京都出身／ケンユウオフィス所属／吹替で『プーと大人になった僕』（プー）、『ジュラシック・ワールド／新たなる支配者』（ジェレミー）ほか

楽以外の何物でもなかったです。アニメージュさん向けのコメントではないですけど、僕の中の秘めたるサディスティックな部分を思いっきり役にぶつけられた気がして。黒コショウの野郎（ブラックペッパー）を煽るのも楽しかった～。

――（笑）。第24話ではナルシストルーはパムパムを捕まえていじめていましたが、日岡なつみさん（パムパム役）はとても楽しかったそうです。

阪口　パムパムの首根っこ捕まえるやつね。本当に楽しかったなぁ！

木下　Sっ気大爆発でしたよね（笑）。これまで周平さんとは外画の吹替の仕事でご一緒してきましたが、こんなに愉快な姿は見たことがなかったです。『デパプリ』で一緒になれて、新しい一面をいっぱい見られました。

阪口　「パムゥ～？」って、語尾を上げて嫌らしく煽るあの言い方は、しばらく我が家でも流行りました。

――日岡さんは、あれでナルシストルーが大好きになったとのこと。

3人　（大爆笑）。

かぬか　目覚めちゃったんですねぇ。

阪口　ダメですよぉ、僕にそんなネタを提供したら。ツイッターで絡んじゃうぞ♪

――そんなナルシストルーは、第29話で一旦、退場となってしまいました。

阪口　もう寂しいったらありゃしない。しかも捕まって投獄っていうのが、意外とリアルなんですよね。

木下　そうそう。ジェントルーと違って、プリキュア側にはならないんだなって。

阪口　彼の過去はまだほとんど明かされていないというのに！

――ナルシストルーが退場したため、第29話からはセクレトルーが直接現場に出向くようになりました。

木下　周平さんごめんなさい、私は喜びました。「やっと私も現場に出られる！」って（笑）。一時は、最後までアジトの中で「ブンドル、ブンドル～！」って言っているだけの人なのかもしれないって考えていましたし。ナルシストルーが退場しそうかなと思った時も、そのちょっと前にスピリットルーが来ちゃったし、現場からどんどん遠のく～って（笑）。そうしたらある時、こっそりシリーズディレクターの深澤（敏則）さんから「セクレトルーさん、そろそろ現場に出ますよ」って言われて「は～！」「ほ～！」って喜びの声が出ました（笑）。

いつかみんなで楽しく食卓を囲んでみたい

――レシピッピを捕獲するバンクで、詠唱みたいなセリフがありますよね。たとえばジェントルーは「ブンブンドルドルブンドル～」ですが。

木下　あのセリフは「とったるぞ～！」感を出すようにしています。そして多少はカッコよく決めたいなぁと。私たちのちょっとした決めゼリフなので。

かぬか　しかもみんな少しずつ違っていますからね。「呪文みたいな気持ちで唱えてください」と言われたので、俺の場合「ドンドントルトルブンドル～」って声をどんどん高くしたら、高くしすぎて声がかすれそうになっちゃった（笑）。

木下　あの言い方、かわいかった！でも一番絵に気合いが入っているのは、ナルシストルーだと思います。もう動く動く！

阪口　あの動きは意外でした。ナルシストルーならスカした感じで言うのかなと思ったんです。だからスマートにやろうかと思っていたんですけど、バンクの絵がめっちゃ勢いがあって。完全に絵に引っ張られて、思いっきり「トルルントルルンブンドル～」!!って言っちゃって。それがそのままOKになりました。

木下　私のバンクはそこまで動かない（笑）。あくまでクールに「ゼンブルゼンブルブンドル～」ですね。

――セクレトルーは映画にも登場していましたね。

木下　ちょうどTV本編でセクレトルーが現場に出たタイミングで映画が公開になったので、それでチョロッと出してもらえたみたいなんです。

阪口　映画に出られていいなぁ～！

かぬか　いいなぁ～！　出たかった！

木下　いやいや、そんなにセリフもないし冒頭で即サヨナラだから（笑）。

阪口　でも僕はキャラクターショーに出られました。すごく嬉しかったです。

木下　あ、そっちは私、出ていないんだよね。

阪口　僕がナルシストルーの一番好きなセリフは、実はショーでのセリフなんです。「この会場にもいるんじゃないのかい？　いただきますも、ごちそうさまも言えない子どもたちが！」。

木下　うわ、悪そう！（笑）

――逆説的に食事の挨拶の大切さを伝える、素敵なセリフですね。では、皆さんはブンドル団にどんな最後を迎えてほしいですか？

阪口　第29話のナルシストルーの捕まった様子を見ていると、結構リアルな感じで罪を償うところに収まるのかな。そこはファンタジーではなく。

木下　セクレトルーも食にまつわる嫌な思い出があったりするのかも……。でも、多少は改心して、みんなとごはんを食べたいなぁ。そういう画は観たいですね。敵も味方も関係なく、みんなでテーブルを囲んで。

かぬか　そうそう。俺（スピリットルー）もごはんを食べられるようになりたい。あるいは、胸の部分からおいしいものを出して、みんなに振る舞うとか。レンジ機能が付くようになって、調理ロボみたいになってくれたらいいなぁ。

木下　食べ物がポンと出てくるのね！

かぬか　そういうプラスの方向になってくれたら嬉しいです。

阪口　僕もナルシストルーがみんなと笑顔で食事しているところは、観てみたいですね。

――最後にブンドル団ファンの人たちへ、メッセージをお願いします。

かぬか　いやぁ、本当に応援よろしくお願いします！　今は心をなくしたようなロボットなので、早く自我を取り戻せるようになりたいです！

阪口　僕はヴィランのキャラが好きなので、ブンドル団を応援したいファンの方の気持ちにも共感できます。僕自身、とても楽しく演じてきた役だし、捕まった後も変わらずごひいきにお願いします。ブンドル団の結末がどうなるのかは分かりませんけど、最後まで見守っていただければと思います。

木下　本当に敵チームだけど、反響がすごいんですよね。プリキュア側にはない敵チーム側の魅力を毎週感じてくださる方も多いんだなって思いました。なので、私たちならではのカッコよさや大人っぽさ、それとユーモアある掛け合いを今後も楽しんでもらえたらと。それに我々ブンドル団には、まだゴーダッツ様が控えていらっしゃいます！

かぬか　ゴーダッツ様！　俺（スピリットルー）なんかタメ口みたいな物言いでしたからね。「お前さんがゴーダッツでごわすか！　会えて嬉しいでごわす！」って。

木下　そんなスピリットルーに「面白い奴だ」って受け答えていて、ゴーダッツ様は本当に寛大です。

かぬか　どんな姿をしているのか、いつか本編に出てくるのが楽しみだなぁ。

木下　あとは……私たちも一度はプリキュアに勝ちたいです！

阪口　そうですよ！

かぬか　なので、プリキュアだけでなく、ぜひ我々の応援も！

木下　毎回テレビの前で、一緒に「ブンドル、ブンドル～！」してくださいね。

ジェントルー
当初レシピッピを奪う任務を担当していた。その正体は菓彩あまねだが、なぜ心を支配されてブンドル団に入ったのかは、定かでない

ゴーダッツ
ブンドル団の謎のボス。クッキングダムから盗み出したレシピボンをレシピッピでいっぱいにして、すべての料理を手にしようとする

ブンドル、ブンドル～！

TV

ありがとうの気持ちを

シリーズディレクター

深澤敏則

ふかさわ・としのり
東映アニメーション所属。『探検ドリランド』『ワンピース』（シリーズディレクター）、『映画プリキュアミラクルリープ みんなとの不思議な1日』ほか

「ごはん」を分け合うことが難しいこのご時世に、あえて挑んだ本作のテーマ。ここから物語の縦軸も怒涛のように動き出す！

コロナ禍だからこそ日常への感謝の心を

——2020年の『映画プリキュアミラクルリープ みんなとの不思議な1日』で『プリキュア』デビューを果たした深澤さんですが、今回TVシリーズのオファーを受けて考えたことは？

深澤　まず、もらった番組企画書に「ごはん」「ありがとう」「シェア」というモチーフとテーマが掲げられていまして。「ごはん」は、子どもたちにも響く、とてもいいモチーフだなぁと思いました。実際ごはんを題材にした絵本もいっぱいあるし、お料理って見た目としても楽しいし。そして、僕なりにいろいろ考えたのが「ありがとう」と「シェア」。この企画に関わり始めたのが、2020年の暮れから21年にかけてだったんです。

——まだコロナ禍1年目の頃ですね。

深澤　誰もがピリピリしていて、みんな漠然と何かを我慢していて……。僕自身も心が疲れていたと思います。そうなると、優しさとか思いやりといったものを、感謝の気持ちとしてきちんと伝えるって、この時代にふさわしいテーマだと思えて。「ありがとう」とか「おいしかったです」と伝えるだけで、相手だけでなく、自分もちょっとほんわかしますよね。

——心を分け合う＝「シェア」ってことですよね。

深澤　そうです。そういった思いを言葉で伝えるのは、そんなに難しいことではありません。けれど、それだけに普段あまり意識していないと思うんです。だから、それを物語に込めて、かわいらしさもたっぷり入れて、観ている人が癒やしを得られるような作品になるといいなと思いました。ただ自分には、女の子たちが好みそうな、かわいさのセンスはないので（笑）。女性スタッフたちの意見を聞きつつ、そこに自分がやりたい、明るくユーモアのある世界観を……熱くて一生懸命なんだけど、どこか笑えるような喜劇的要素を足していった感じです。だから、基本的に重い作品にはしたくないというところから始まっています。プリキュア側のチーム内の対立をあんまり描いていないのもそのためです。あったとしても、お互いに想い合う気持ちのすれ違い……優しさゆえの掛け違いみたいな。そういうのが『デパプリ』のコンセプトなんです。とにかく一番は子どもたちが楽しく観られることなので、そこに立ち返って作っています。

おばあちゃんの存在はゆいの強みであり、逆に弱みにもなる

——まず、主人公のゆいがポジティブですよね。まったくブレがない感じがします。

深澤　ゆいは他のキャラと違って「理想像」になっています。子どもたちが目指したいと思える憧れの存在であってほしいなと。僕がゆいに求めているのは強さです。戦闘力ではなく、「いざという時に必ずなんとかしてくれる！」というような、絶対的なヒーロー性なんです。それもあって、ゆいはいつも誰かのために頑張る子です。第1話でも、暴走するベビーカーを見つけるや、即座に坂道を駆けていって止めましたよね。逆に「誰かがゆいのために」っていう話はあまりないんです。

——そこが、ゆいのブレなさにつながっているのでしょうね。

深澤　ゆいを助けて導いてくれている一番大きな存在は、亡くなったおばあちゃんです。おばあちゃんはゆいにとっての理想像で、おばあちゃんのような人になりたいと思っているんですよ。それくらい、ゆいにとって大きな存在で、そこがゆいの強みであり、逆に弱みにもなると思います。

——ゆいは腕力も強いですよね。ブレシャスの個人技も強烈パンチですし、第1話でデリシャスフィールドに力任せに入っていったのもインパクトがありました。

深澤　腕力に関しては、「ごはんをいっぱい食べて、身体をしっかり作って、ゆいみたいに強くなろう」というメッセージを込めています。普通の強さでは面白くないので、ギリギリ笑ってすませられそうな範囲を狙っています。第31話のプリンセスの回では、ロープに縛られても、変身せずにブチ切るとか（笑）。第1話のデリシャスフィールドに強引に入っていくシーンは、最初にそういうのを見せておくという意味合いもありました。「この子はここまでできちゃう子だよ」という。さらに、こういう強引さもOKの世界観なんだっていうのを、ここで示した感じです。

らんのオタク気質にはメッセージを託した

——ここねは完璧なようで、意外とかわいらしい一面や、友達付き合いが不器用な面が印象に残ります。

深澤　ここねはスタイルもいいしクールでおしゃれな子なんですが、むしろ優しさを前面に押したいと思いました。ここね役の清水（理沙）さんにも、「この子はクールな感じですけど、すごく優しい心を持っているんです」とお伝えしました。清水さんのお芝居でもいい感じにキャラクターを作ってくれて、ここねの魅力が出たと思います。清水さんのお声が表現している「少女の清らかさ」が、ここねのキャラクター性には影響しています。

——らんはムードメーカータイプの子ですけど、その実、わりと繊細ですよね。

深澤　らんは、言ってしまえばオタクなんですよ。僕が子どもたちに伝えたいこととして「みんな何かのオタクになってほしい」というのがありまして。これだけは誰にも負けないくらい好きなものを、何か持ってほしいんです。そういうものを持つ人たちのアイデアって、これからを切り開いていく気がして。たとえそれがニッチなものだとしても、極めることで新しい価値が生まれる可能性があるかなと。でも、人と違えば違うほど、日本の教育だと「変わり者」と言われがちですよね。それで、らんにはナイーブな設定をつけました。「人と違うことはいいことなんだ」と伝えたくて。それをきちんと言ってあげられるのは大人しかいないと僕は思っているので、その位置にマリちゃんがいます。でも、そこから先へ自分で踏み出すのは、彼女自身です。らんには、そのようなメッセージを託しているため、自分の将来に対する目線もきちんと持っている子にしています。

——そしてあまねは正義感の強い優等生。そこが、かえって人間くさく見えます。

深澤　ゆいやらんの中に加わると、あまねの真面目さがおかしさやかわいらしさに変わるところが確かにありますね（笑）。『デパプリ』はあまり重くならないようにはしているものの、その中では、あまねは重めのドラマを背負っていて。心を操られていたとはいえ、悪事を働いたことを、心から悔いている。キュアフィナーレ誕生回の第18話も、最初はもっと重くならない脚本をお願いしていたんです。でもそれだと、あまねはプリキュアになれないし、仲間になれない。そこで僕も腹を決めて、シリアスに進めることにしました。しっかり者のあまねが感情的になり、自分の気持ちを吐き出すことで、

第38話からストーリーの縦軸が一気に動きます

背負っていたものを降ろす……という過程を経てもらうことにしました。そして第19話からは、「よかったね」という祝福の気持ちを込めて、ゆいたちと仲良くリラックスして過ごしてほしいなと。

あまねvsナルシストルー再会したらどうなる?

——あまね絡みだとハロウィンパーティの第33話、ナルシストルーへのわだかまりにスポットが当たりました。

深澤　実は第33話は、今後放送される第37話とのつながりで見ていく回です。第28話のラストで、彼はあまねに悪態をつき、あまねの心にモヤッとしたものが残りました。そのモヤモヤをどうにかしないということで、第33話ができました。どう描くかは相当に議論を重ねました。ジェントルー時代のあまねの心を操ったのは、あくまでゴーダッツで、ナルシストルーではないんです。でも、ナルシストルーもあまねの心を遊びで傷つけたことに変わりはないし、あまねとしても自分の悪事を自覚している。第18話で自分の過ちについては区切りをつけて、前に進めるようになったけど、ナルシストルーやブンドル団への思い……正義感の強さゆえの認めたくない復讐心のようなものはあって。それを子ども向けの番組でどう扱うか考えた時に、重くしすぎないようにするため、パフェのレシピッピに再登場してもらいました。イラついたあまねがパフェのレシピッピに当たっちゃう。それなら子どもたちにも伝わりやすいし、あまねの苦悩や葛藤を暗くなりすぎずに描けるかなと。

——そういう理由だったのですね。

深澤　その解決の仕方も、あまねの許せない気持ちをマリちゃんが肯定して、その上で「大事なのはその感情に流されないことよ」と諭す。人生経験を積んだ大人でないと言えないと思います。それであまねも吹っ切れて、ナルシストルーに負けない強い心を手に入れた。そこから、第37話を迎えることになるんです。つまり、強くなったあまねが、今度はナルシストルーと再会したらどうなるのか……そこでまたドラマが生まれる形です。

——ナルシストルーがしつこくあまねを煽り続けていたのは、そういった展開ありきで?

深澤　違います。「敵らしい魅力をどう表現するか」というところから始まりました。ナルシストルーには、とにかく悪態をつかせまくりましょうと（笑）。第28話の最後も、彼なら悪態をつくだろうなと。そのせいで僕たちも苦労させられました。

——パフェのレシピッピは、あまねのエナジー妖精的な存在として登場していますね。

深澤　元々は玩具会社さんから、「フィナーレ登場に合わせて出したいので、本編でもあまねとの関係性を入れられないか」というご要望がありまして。そこで、シリーズ構成の平林（佐和子）さんが「わたし、パフェになりたい！」というセリフを考案してくださったんです。実はフィナーレのデザインは、パフェではなくゴージャスなケーキがモチーフなんです。パフェのレシピッピのご要望は、フィナーレのデザインが上がった後にいただきました。

——そういう順番だったのですね。パフェのレシピッピは性格も面白いですよね。

深澤　パフェのレシピッピがあまねにとって大事な存在になるのなら、せっかくだからキャラ付けしたいと思ったんですよね（笑）。ゆい、ここね、らんは物語の中で気持ちが高まった時にハートキュアウォッチが出現して変身する展開でしたが、あまねはちょっと変えたいなと思ったんです。それで、変身アイテムであるハートフルーツペンダントの元になる、ほかほかハートの結晶を事前に出現させておいて、そこにパフェのレシピッピを絡めました。また、第17話、第18話はあまねのシリアスな話で引っ張るため、パフェのレシピッピはタカビーな子にして、ちょっとした面白要素にもなってもらったんです。

闘いではプレシャスとフィナーレの2トップ

——プリキュアの技についてもお聞きします。プレシャスのパンチ技は500キロカロリーからスタートしましたが、どのように算出したのですか?

深澤　一応、一食の平均摂取カロリーなどを調べて考えたんですが、最終的にはなんとなくの区切りで決めました（笑）。いきなり1000キロカロリーだと多すぎる気がしたので、まずはその半分で。個人技があるとアクションが組み立てやすいので、最初からそれぞれ何かしら欲しいと思っていました。プレシャスの「500キロカロリーパンチ！」は、技名も見せ方も僕のアイデアでした。スパイシーはパンで挟むとかバリアに見立てるとか、ヤムヤムは鋭い斬撃を飛ばすといったアイデアを僕から出して、「ピリッtoサンドプレス」「バリカッターブレイズ！」などのネーミングはみんなで考えて決めました。

——4人の役割分担としては?

深澤　イメージは前衛で闘うプレシャス、後衛の中長距離から攻撃するヤムヤム、防御のスパイシーです。フィナーレも前衛で、プレシャスと2トップ体制です。実際戦いになるとその限りではないのですが……。フィナーレの個人技「プリキュア・フィナーレ・ブーケ！」は、アイテムがあるため、玩具の仕様を受けて技名や見せ方を考えました。

——そして誕生した4人の合体技「プリキュア！ライト・マイ・デリシャス！」。コメコメの成長が、4人の合体浄化技に連動する形でした。

深澤　「コメコメの成長」は玩具会社さんからのご要望で、最初は物語にうまく絡められるのか不安な部分もありました。でも、キャラクターデザインの油布（京子）さんの「人の姿に化けたコメコメ」のデザインを見た時に、あまりにかわいくて、「これはいける！」と僕の気持ちもコロッと変わりまして（笑）。せっかく成長させるなら、ちゃんと意味を持たせたくて、成長したコメコメの力でパーティキャンドルタクトが生まれ、みんなが合体浄化技を放つという段取りになりました。

大人であるマリちゃんは乗り越えるべき「常識」

——先ほども話に出ましたが、マリちゃんはゆいたちの目線で悩みを聞いたりアドバイスしたりできる、理想的人物として描かれていますね。

深澤　子どもたちにとっての「楽しい気さくな年上の人」が欲しいというのがまずあって、それプラス「頼れる隊長さん」となるとベストだなと思いました。ただ、観てくれる子どもたちにはプリキュアやエナジー妖精たちを一番に好きになってもらいたいので、マリちゃんはあまり目立ちすぎないよう、その次くらいの存在になるといいかなとは思っています。

——シンプルにイケメンなお兄さんにしなかった狙いは?

深澤　女の子たちの仲間に加わるなら、細やかな気遣いもできて優しく、人生経験も豊富な人物がいいと思い、マリちゃんの人物像を提案しました。ただ、基本的にゆいたちに理解ある人ではありますが、場合によっては大人であるがゆえに「ゆいたちを止める立場」でもあります。たとえば第12話では、ジェントルーを助けたいというプレシャスを止めましたよね。「あまねさんを信じたい気持ちは分かる。でも……」と。第2話でも、マリちゃんの代わりに闘おうとするプレシャスを「もうやめて！」と止めようとしました。それらは、大人として当たり前の行動なんです。けれど、子どもたちは時に、そんな大人の常識を乗り越えないといけない。第34話でも、マリちゃんは「逃げて！」と言うけれど、プレシャスはあえて立ち向かい、それが事態の突破につながりました。マリちゃんは単純に「よき大人」なだけでなく、ゆいたちの成長の「障壁」でもあるのかなと。

——一般的なルールを提示した上で、それに留まらないゆいたちを見せているわけですね。では、拓海についてもお聞きします。ゆいが拓海の好意にまったく気づかないのは、ゆいの「花より団子」を強調するためですか?

深澤　それもありますし、ゆいが拓海に恋してしまうと、ゆいの心の多くの部分を拓海が占めちゃうなぁと思って。『デパプリ』が見せたい部分はそこじゃないので。それに、身近にいるカッコいい男の子が、実は自分のことを好いてくれているというのは、子どもたちにとっても夢なんじゃないかなと。幼稚園の年長くらいで、すでに恋愛要素のあるドラマや映画を観ているお子さんもいるので、小さい子でも異性を好きになる気持ちは分かるんだろうなって。それにこの設定のほうが、好きな子の笑顔のために闘うカッコよさが引き立ちますし。拓海は一見ぶっきらぼうだけど、面倒見も良くて、いいヤツですよね。最初からそんなキャラにしたいと考えていました。

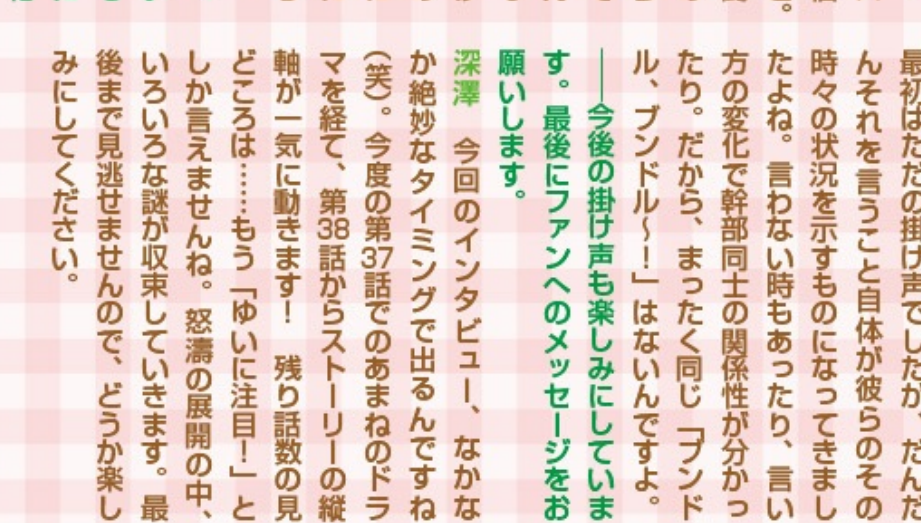
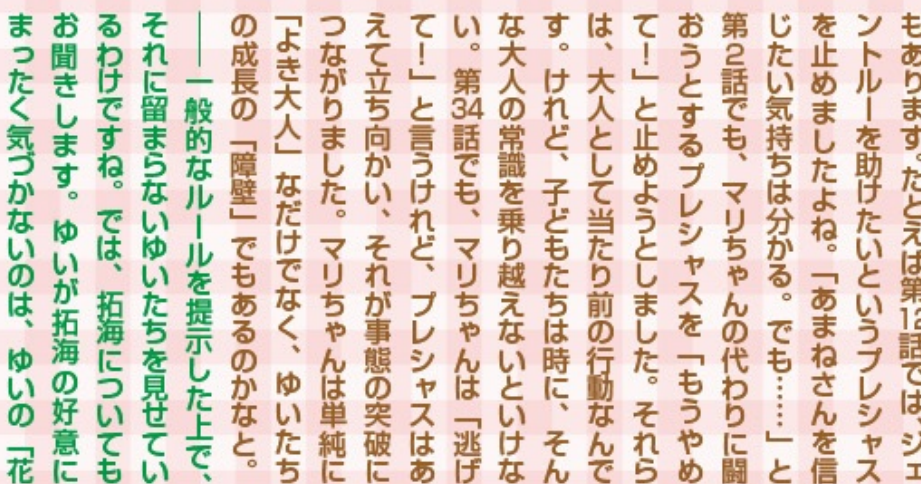
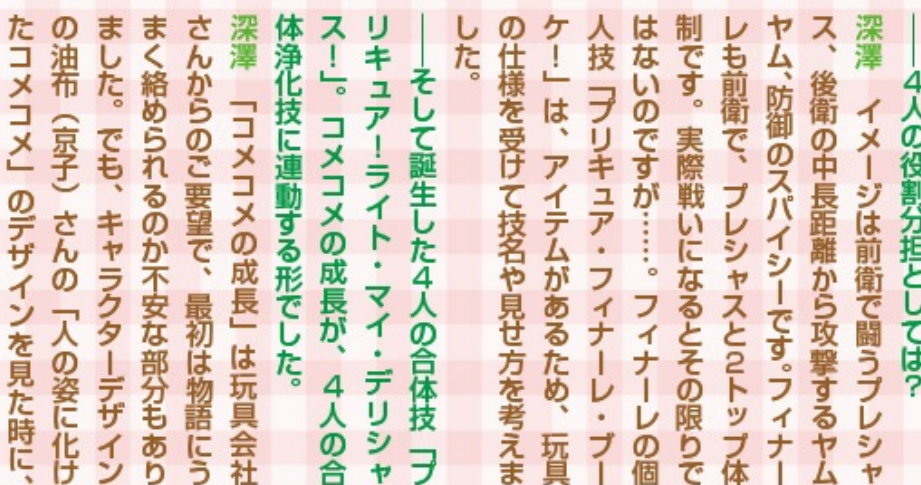
——そしてブンドル団ですが、掛け声をつけることは、深澤さんのアイデアだったそうですね。

深澤　観ている子どもたちが楽しめるように、敵側にも一癖あるといいなと思ったんです。

——掛け声の節回しは、声優さんにおまかせで?

深澤　いや、拳を振る動きに原画のタイムシートをつける都合もあったので、わりとしっかり設計しました。第1話の絵コンテ作業時に僕のほうで言い方を考えて、アフレコ時にジェントルー役の茅野（愛衣）さんとセクレトルー役の木下（紗華）さんに説明しました。最初はただの掛け声でしたが、だんだんそれを言うこと自体が彼らのその時々の状況を示すものになってきましたよね。言わない時もあったり、言い方の変化で幹部同士の関係性が分かったり。だから、まったく同じ「ブンドル、ブンドル～！」はないんですよ。

——今後の掛け声も楽しみにしています。最後にファンへのメッセージをお願いします。

深澤　今回のインタビュー、なかなか絶妙なタイミングで出るんですね（笑）。今度の第37話でのあまねのドラマを経て、第38話からストーリーの縦軸が一気に動きます！　残り話数の見どころは……もう「ゆいに注目！」としか言えませんね。怒濤の展開の中、いろいろな謎が収束していきます。最後まで見逃せませんので、どうか楽しみにしてください。

ゆいたちの様々なイベント服も

シリーズディレクター補佐
村上貴之

ハロウィン衣装
第33話

――今作はシリーズディレクター補佐という役職が新たに立てられましたね。村上さんはどのような経緯でこのお仕事を？

村上　僕は『Ｇｏ！プリンセスプリキュア』からシリーズに関わっているので、その流れもあって、今回お声がかかったのかなと思います。

――これまでは、スタジオガッツの制作協力回で演出をしていましたよね。

村上　そうなんです。『トロピカル～ジュ！プリキュア』以降はフリーとして参加しています。「プリキュア」は昨今数少ないアニメオリジナル作品で、１年やるので愛着も出ますよね。それに東映アニメーション作品は、他社作品よりも各話の絵コンテ・演出担当者の裁量が大きいんです。音響監督も各話演出がやるので、そういったやり甲斐もあります。

――シリーズディレクター補佐としての具体的なお仕事は？

村上　基本的には各話の設定の発注です。僕はアニメーター出身なので、自分でラフを描いてお願いしています。他には、上がってきた設定のチェックやコンテ修正の手伝いとか。バンク演出だと、「プリキュア・ヤムヤム・ラインズ！」、ナルシストルーのレシピッピ捕獲、スピリットルーのレシピッピ捕獲とウバウゾー招喚も僕がやっています。

――村上さんがラフを描いたキャラ表というのは？

村上　いろいろありますが、たとえば第 17 話のあまねの道着（P.72 参照）。運動するには髪のボリュームが大きいので、でかい三つ編みみたいにしました。第 20 話のゆいたちのお食事ドレスも僕がラフを描いて、青山充さんにデザインしていただきました。これは商品関連のドレスデザインを使ってほしいとのご希望がありましたので、それを多少整えつつ。第 25 話は、いつもの私服だとキャンプには厳しい感じがしたので、夏休み回らしい、見映えのするアウトドア服を調べてラフを描きました。

――第 30 話の浴衣や第 33 話のハロウィン衣装は？

村上　浴衣姿は油布さんが髪型のイメージを出してくださり、浴衣のデザイン自体はほぼ板岡錦さんにおまかせでした。ハロウィン衣装は、シナリオを元に僕のほうでラフを描きました。

――全体的にプリキュアの芝居付けで意識していることはどんなことですか？

村上　ゆいは、とにかく元気な子ですね。ここねとらんは、物語の進行に合わせてちょっとずつ変化するキャラなので、芝居付けに矛盾がないように。あまねは正義の心がポイントです。特に僕が直接絵コンテを担当した第 17 話では、あまねの人となりがそれまであまり描かれていなかった分、プリキュアにふさわしい子だと、ここで観ている人に伝わるよう意識しました。

――第８話も連名でコンテを担当していますね。

村上　ゆい・ここね・らん３人の食べ歩き回です。らんが仲間になって、ゆいとここねと本格的に絡み始めたばかりなので、３人の楽しげな感じが出るといいかなぁと。らんのキュアスタもちゃんと見せるようにしました。

――直近の絵コンテ回は第 32 話でしたが。

村上　くまモン回ですけど、珍しいタイプのゲストでしたよね。しゃべらないですし（笑）。レシピッピもいっぱい出てくる、かわいく楽しい回でした。また、メンメンが麺類のレシピッピたちの相談に乗ったり、実は麺占いができたりなど、彼の新たな魅力も出ていたかと。エナジー妖精やレシピッピとの絆も、あらためて感じていただけたかと思います。

――最後にファンへのメッセージをお願いします。

村上　「食べる」って当たり前のことですけど、それを楽しく見せようという作品で、個人的にもとてもいいなと思っています。ゆいの「ごはんは笑顔」のように、毎週日曜日に『デパプリ』で笑顔になってもらえたら嬉しいです。

TV

子どもたちの未来へのエール

シリーズ構成 **平林佐和子**

プロデューサー **安見 香**

お料理をおいしくいただくことは、誰にとっても暮らしの中心。「ごはんは笑顔」を出発点に、子どもたちに分かりやすくメッセージを届ける作品だ。

ごはんをいただく側の気持ちの問題として

――平林さんは『ヒーリングっど♥プリキュア』（各話脚本）に続いての『プリキュア』シリーズへの参加ですが、オファーを受けての感想は？

平林　まず「安見さん、大胆！」って（笑）。これまで数本ご一緒しましたが、シリーズ構成自体あまりやったことがない中、大役を……。この信頼と期待には、絶対に応えなくてはいけないなと思いました。

――それはプレッシャーですか、それともやる気ですか？

平林　両方です。ただ、このお仕事は絶対に受けたいと思いました。元々『プリキュア』も好きでしたし、食べることも好きなので、「ごはん」というモチーフにも強く惹かれました。「ありがとう」や「シェア」も共感できるテーマでした。

安見　実は以前、平林さんがお菓子を作ってきてくださったことがあって。「お菓子作りがお上手なら、きっとごはんも好きに違いない！」と思ったのもありました。

平林　確か、『ヒーリングっど♥プリキュアドリームステージ♪』を観に行った時ですね。私がプロットを書いたんです。久しぶりに安見さんにお会いするので、何か手土産をと思ったんですが、お目当てのお店がお休みだったから自分で作ったんです。

――平林さんは、よくお料理もするのですか？

平林　いや、それが全然で（笑）。私みたいに、食べるのは好きだけどお料理は苦手って人、多いと思うんですよね。そこは今後の物語にも関わってくるかもしれませんが、変に無理する必要ってないんじゃないかと思っていて。

――確かに、『デパプリ』は「手作りこそ至高」というようなお話ではないですよね。

安見　そこは、世の中のすべての、家事等されている方々の背中を押したいという思いもあります。もっとストレートに「レンチンでもいいんだよ！」みたいな話も作って切り込みたかったくらいですが、話数の関係上、そこまでは……。とにかく「ごはんは身近なものだよ」というのは伝えたかったです。

――『デパプリ』はグルメプリキュアを目指しているわけではないというのは、ちゃんと伝わっていると思います。

安見　そうですね、いただく側のお話にしたかったんです。おいしくごはんを食べることは楽しくて幸せなんだよって。一人でごはんを食べていたって、笑顔になれますよね。

――ごはん大好き主人公・ゆいの口癖が「デリシャスマイル～！」や「はらペコった～！」になった理由は？

平林　何か口癖があるほうが、子どもたちに覚えてもらいやすいかなと。ゆいがおいしいものを食べた時や、お腹が空いた時に出る定番の言葉として、どちらも安見さんが考えてくださいました。一番最初に、作品テーマを表す言葉として、「ごはんは笑顔」を決めたんです。その言葉を大切にしている子なら、食べた時にも何か一言あるといいよねと。

安見　おばあちゃんの「ごはんは笑顔」を、ゆいの言葉で言い換えたのが「デリシャスマイル～！」という考えで。それとセットで考えたのが「はらペコった～！」。「ちっちゃいお子さまが『はらペコった～！』って言ってくれたら、めっちゃかわいくないですか？」とご提案したんです（笑）。

――ゆいは、亡きおばあちゃんの名言を毎回のように言うのが定番です。

平林　それだけ、おばあちゃんが大好きだったんですよね。それと、作品テーマを何かのフレーズにしたほうが、お子さまに伝わりやすいし、覚えてもらえるかなと。子どもたちにとっては、ひょっとしたら『デパプリ』が最初の「プリキュア」かもしれないし、来年は観なくなっているかもしれない。のちのち、何かのきっかけでふと『デパプリ』を思い出した時に「あぁ、ゆいちゃんはこう言っていたな」となって、それで悩みを乗り越えても

らえるといいなと。お子さまたちの未来へのエールになるような、シンプルなフレーズを盛り込みたいと考え、おばあちゃんの一言はできるだけ入れていきました。

安見　ゆいは「ごはんは笑顔」を大切にしている子ですから、きっとほかにもおばあちゃんから聞いたたくさんの言葉を大切にしているだろうと。

平林　おばあちゃんの一言は、各話のライター（脚本家）さんに考えてもらうこともあったり、私から指定してお願いしたり。話し合って「こうしませんか？」みたいな時もありますね。

らんの食リポは各話で四苦八苦!?

——ここねはかわいいもの好きのおしゃれさんですが、これはゆいの「花より団子」なキャラクターとのバランスもあるのですか？

平林　身も蓋もない話ですが、お子さまが憧れるのはブルーの子のようで。なので、お姉さんっぽい設定にするのがいいだろうと。美人でちょっと近寄りがたい雰囲気がある子ならば、メイクにも興味があるだろうなと。

おばあちゃんの一言で悩みを乗り越えてもらえるといいなと

安見　また、「青の子はモデルみたいなスラッとした感じがいい」と深澤（敏則／シリーズディレクター）さんもおっしゃっていて。ただしクールで近寄りがたいというのはあくまで傍目からの印象で、本当は優しい子。そういう意外性がある子です。

——初期話数では、ゆいとの関わり合いに一喜一憂してしまう、かわいさもありました。

平林　そこは狙ったというより、自然にそうなりました。ここねは、一番最初にバックボーンがしっかり決まった子なんです。第23話のボールドーナツの回で語られたように、ここねは家族にワガママを言わないように、自立しようとしたために、周囲に甘えられない子になったんです。それで、家族とも距離がある感じになってしまったのですが、ゆいたちと付き合っていくことで、新しいことを学びました。ただ、実際に画になってみたら「こんなにかわいいんだ！」と、私も驚きました（笑）。

——らんは、独特の擬音を用いた感嘆表現がインパクトありますね。

平林　できるだけバリエーションを増やしたかったので、「はひふへほ」から始まる擬音であればOKという形にしたら、各話のライターさんがいろいろなパターンを書いてくださいました（笑）。むしろライターの皆さんは、らんの食リポのほうを苦労されていましたね。

安見　「独特な表現」にしなくてはならないというベースがありますから（笑）。ごく普通のリポートでは、「らんらしい表現」にならないので……皆さま頑張ってくださいました。

平林　さらに「具体的な体験になぞらえる」というのもありました。たとえば「まるで遊園地で乗ったあのアトラクションみたいな」といった言葉が入っているほうが、観ているお子さまたちもイメージしやすいだろうと。そういったところから、食べ物に興味を持ってもらえたらいいなと思ったんです。

——キュアフィナーレは、モチーフがデザートなのが興味深いです。

安見　食べ物の範囲の中で、お子さまが大好きで、分かりやすく一番映えるものということでデザートは入れたかったのです。

平林　だから4人目がお菓子、フルーツ等のデザートというのは、最初から決まっていました。

——フィナーレの変身中のセリフに「ジェントルに」という言葉が入っているのは？

安見　そこは怪盗ジェントルーの名称が先でしたね。敵側の名前は「ブンドル団だから「××トルー（盗る・捕る）」にしようということで決めていたんですが、あまねのルーツと資質を表せるということで「ジェントルに、ゴージャスに」としました。

ゆいたちに寄り添う絶妙な立ち位置に

——あまねは拓海と共に、ゆいたちより学年が一つ上ですよね。

平林　プリキュアにできるだけバリエーションを持たせたかったからです。それと、あまねにはお姉さんっぽい雰囲気も欲しかったので、3年生の生徒会長にしました。早い段階で女の子っぽくない口調も決まっていましたが、それはあまねのキャラ性で、ジェントルーありきというわけではないです。拓海については、もう単純に「幼なじみの男の子は一個上がいいな！」というのがあって（笑）。

「ごはん」って年齢性別問わずみんなが食べるもの

——男の子である拓海がプリキュアと一緒に闘うのも、今作の特徴です。

平林　「男の子も闘いに力を貸す」というのがまず決まっていて、それをどんな子にしようかと考えた時に、深澤さんが「ゆいのことが好きな幼なじみにしたい」とおっしゃって。そこから、お父さんがクッキングダム出身で、息子がその力を受け継いで、それで一緒に闘えるという設定になりました。

安見　「ごはん」って、年齢性別問わずみんなが食べるものですから、それに対して最前線で闘うのは女の子だけでなくてもいいのではないか……という思いがありました。みんなで分かち合うものとして。

——拓海がブラペになったきっかけが、「ゆいの笑顔を守りたい」という、等身大な感情なのが興味深いです。

平林　拓海は、ゆいに対するマリちゃんみたいな助言者が誰もいない状態で闘いに入っていく人です。となれば、そこは大義ではなくて、「絶対に守りたいもの」という揺らがないものがないと闘いに身を置けないだろうと。そこで「大切な幼なじみの笑顔を守る」ところからスタートしました。

安見　もちろん一緒に闘っていくうちに、「ごはんは笑顔」という想いにも共感しています。

——マリちゃんやフェンネルはクックファイターというクッキングダムの戦士ですが、この設定はどのように考えたのですか？

平林　まず、マリちゃんは闘う力を持っていて、第1話でそれを失うというのが決まっていました。そうであれば、王国の近衛騎士団みたいなグループがいるんだろうと。その名称として「クッキングダムだから……クックファイターとか？」と決まっていきました（笑）。

——マリちゃんは、ここまで人気が出ると予想していましたか？

安見　予想というか、そう信じていました。

平林　私はドキドキしていましたよ。でも、いい人にしたいという気持ちはすごくありました。

安見　ご覧くださる方にとってどんな印象になるのかなと思っておりましたが、「かわいい」「頼れる」「カッコいい」「面白い」といろいろなお声があって、マリちゃんの素敵さが、きちんと伝わっているんだなと嬉しかったです。

平林　私としては……マリちゃんは「頼もしい人」ですかね！　絶妙な立ち位置でゆいたちに寄り添ってくれていると思います。ちなみに、マリちゃんにも何か口癖が欲しいと思って、「〇〇盛り」という言い回しは私から提案しました。各話の脚本で、「盛り」のバリエーションも作ってもらいましたね。

セクレトルーの食にまつわる過去とは

——そしてブンドル団ですが、彼らの行いにより、食べ物にエラーが発生するというのが面白いですね。

安見　初期段階に深澤さんの要望として、敵の強さを段階的に見せたいというのがありまして。「だんだんすごいことになっているぞ！」みたいな。

平林　当初深澤さんは、あまねを「学校を掌握するミステリアスな生徒会長」の感じでイメージされていました。

安見　その時点では、あまねは市長の娘という設定だったかなと。でも、『デパプリ』は縦軸の話が多いシリーズでもあり、入れ込むのが難しいかなとなりまして……。事態の深刻さは、敵が引き起こす「食べ物のエラーの段階」として描くことにしました。

平林　そのエラーは、各幹部のバックボーンに関連づけています。

安見　ナルシストルーは、ひどい猫舌で好き嫌いも多くて、おいしく食べられるものが少なく、みんなの輪にもなかなか入れなかった……。それで「食べ物の大事な思い出」を奪うに至ったと。ジェントルーは、心を操られてしまい、「変えられちゃった」つながりで食べ物の味も変えるという設定にしました。

——スピリットルーは、食べ物の見た目を変えました。

平林　見た目だけでなく、完全に食べられない固い物質に変えてしまうんです。彼は「食べることは無駄。そんな暇があったら働け」みたいなスパルタタイプなので。

安見　開発者であるナルシストルーによって、「食べなくていい」という思想が埋め込まれている感じですね。そして、セクレトルーの「食べ物そのものの存在をなくす」というエラーにも理由が……。そこは今後をお楽しみにしていただけましたら！

——最後にファンへのメッセージをお願いします。

平林　放送がお休みになった時期がありましたが、再開後も変わらず観てくださる方が多く、とても励みになりました。いろいろとチャレンジの多い作品かと思いますが、その『デパプリ』が好きだと言ってくださる方がいるのは本当に嬉しいです。皆さんの気持ちに応えられるお話になっているといいなと思います。

安見　まだまだ大勢でごはんを食べるのがはばかられるご時世ですが、『デパプリ』を観ることで、ゆいたちとお友達になって、みんなで食べているような気持ちになってくれたら嬉しいなと思います。「ごはんは笑顔」がお子さまたちの心に、少しでも残りますように。今後もさらにいろいろな展開が待っていると思いますので、ぜひ、楽しみにしていてください。いつも応援してくださって、本当にありがとうございます。

ひらばやし・さわこ
フリーの脚本家。参加作品に『オオカミ少女と黒王子』（シリーズ構成）、『ホリミヤ』（各話脚本）ほか

やすみ・かおり
東映アニメーション所属。プロデューサー作品に『聖闘士星矢 セインティア翔』『ヒーリングっど♥プリキュア』

★お二人のインタビューはアニメージュ本誌1月号（12月9日発売）に続きます。

キャラクターデザイン

お料理のモチーフをしっかりと
油布京子

TV

和洋中＋デザートがモチーフになっている４人のプリキュア。ごはん屋さんを思い起こさせる、おいしさがあふれてくるようなデザインだ。

スプーンとフォークをイヤリングとロゴに

――元々、大の「プリキュア」ファンでもある油布さんですが、今回のお仕事は念願叶ってという感じだったのでしょうか？

油布　はい！　いつか「プリキュア」のキャラクターデザインを担当することが夢だったので、すごく嬉しかったです。キャラデザインのオーディションは、歴代シリーズにがっつり関わっていないとお声がかからないものだと思っていたので、お話をいただいてびっくりしました。

――オーディションで課題となったキャラは？

油布　プレシャス、スパイシー、ヤムヤム、コメコメ（エナジー妖精姿）の４キャラを描きました。ただ、プリキュア3人のデザインは、その後に調整が入ったので、決定稿とはかなり違っていますが。

――今作のプリキュアは、背中の大きなリボンが目を引きますね。

油布　オーディションで提出したデザインについて、「ちょっとアイドルっぽいので、もっとシルエットにメリハリをつけてほしい」と言われまして。で、メリハリを出そうとした結果、背中のリボンが大きくなったんです（笑）。髪型も、最初のデザインの名残はありつつ、出っ張らせたり引っ込めたりとデフォルメをきかせました。ご要望では、モチーフとして和洋中の要素を入れ、エプロンを着けてほしいとのことでした。初期3人の共通パーツであるフォークとスプーンのイヤリングは、「ごはん」のプリキュアということで、「いただきます」のモチーフをさりげなく入れたくて。その後、番組ロゴにも取り入れられました。

――プリキュアの髪のハイライトは、4人ともハート型ですね。

油布　「よくよく見るとハートになってる！」みたいな感じがかわいいかなと。『ヒーリングっど♥プリキュア』が、キャラごとに髪のハイライトの形が違っていたのがかわいくて、観ていいなって思っていたんです。

――変身後の瞳の塗り分けもきれいです。ガラス製のドールアイみたいで。

油布　最初からそういう感じにしたいと思って、塗り分けやハイライト、瞳孔の形を考えました。変身後は華やかにしたいので、目の色が明るくなって、色のついたハイライトが1つ増える形にしています。今までのプリキュアでも、ハイライトが増えるのが結構あったので、そこにも影響されていますね。色彩設計の清田直美さんのお力も大きいです。

――フィナーレの衣装モチーフは、実はパフェではないそうですね。

油布　そうなんです（笑）。「他の3人とは方向性が違うデザインで、ゴージャスなウエディングケーキみたいにしてほしい」というご希望でした。彼女のメインカラーはゴールドなので、そこにフルーツの要素も入れて、全体的にフルーツケーキっぽくしました。白い部分はバニラアイスではなくて生クリーム。スカートの赤い部分がいちご、紫がブルーベリー、緑はメロン、黄色はパイナップルです。そこにゴールドのラインを入れたり、靴もゴールドで合わせています。

当初はここねがロングらんがショートだった

――パーティアップスタイル（P.8〜15）については、プレシャスは完全に着物ドレスですよね。

油布　そうなんです。元々プレシャスは通常もこういった振袖風にしたいと思っていたんですけど、ハートキュアウォッチをきちんと見せる上で、結局腕を出して手袋になったんです。でも、パーティアップスタイルは豪華にしたいと思って。

――4人とも各パーツが大きくなって、和洋中＋デザートのモチーフがより強調されている感じがします。

油布　せっかくだから、お料理のモチーフや個性はしっかり活かしたいなと。あと、プリキュアはパワーアップフォームになっても、膝下を出すイメージがあったんですよね。だから後ろの丈が長い子も、前は短めにして脚を見せています。そのほうが抜け感が出て、軽やかに見えますから。

――頭の花冠が共通パーツになっています。

油布　これは玩具会社さんからのご提案デザイン、ほぼそのままです。ただ、フィナーレだけはお姫様感を加えたいと思って、ベールを付けました。

――変身前のデザインを作ったのは、やはり変身後が固まってからですか？

油布　そうですね。うっすらとプリキュア姿と同時には考えていましたけど、しっかりとデザインしたのは変身後ができてからです。髪型は、変身後

「プリキュア」のキャラクターデザインを担当することが夢でした

の感じを残しつつ、現実に再現できるくらいにしています。

——ゆいは、ツーサイドアップですね。

油布　これまでのプリキュアの主人公にもツーサイドアップのキャラが何人かいるんですが、ゆいは結んだ髪も結構長めで、結び目が目立ちすぎない形にしています。ゆいはたぶん、ファッションはあまり気にしない子だと思うんですが、観ているお子さまたちには憧れてほしいので、髪のリボンなどでかわいくしました。

——ゆいの服は、スカート丈が膝下と長めですね。

油布　そうですね。今までのプリキュアの主人公ちゃんたちは、そんなに長めのスカートの子はいなかったかなと。それと、近年は現実でも長めのスカートが流行っていますし。ゆいはよく食べる子なので、ウエストがあまり締まりすぎないようにしつつ、やや裾広がりなシルエットにしています。

——ここねは青プリキュアには珍しいショートボブです。

油布　初期案ではロングヘアをポニーテールにしていたんです。らんは元々ショートヘアの予定でしたが、ここねがショートヘアになったのでロングにし、三つ編みを輪っかにしました。浴衣の時はポニーテールです。

——ここねは春服がタイツで、夏服はタイトなロングパンツ。逆にらんは常に脚を出しています。

油布　ここねはあんまり生足は見せたくない子なんじゃないかなという、私の勝手なイメージです。逆に、らんは脚を出して元気なイメージにしています。他のみんながスカートなので、バランスを見て、らんはショートパンツ固定です。

——あまねの服装は、一番お嬢さんっぽいですね。

油布　あまねはゴシックな雰囲気にしたかったんです。最終的には紫メインで作られましたけど、私としては全体的に黒系のイメージで考えていました。

——キュアフィナーレに変身すると、一気に明るい色になりますね。

油布　そう、ガラッと変わる感じにしたくて。黒髪のゴシックな女の子が変身して、白いドレスを着て華やかになるって素敵かなと。それで、変身前はドールっぽい服装になり、髪は黒髪イメージの濃い紫に落ちつきました。当初はここねのイメージだった「黒髪美少女」はあまねに引き継がれ、みんなの憧れの黒髪ロングの生徒会長さんになりました。「外国人っぽい顔立ちの子」という話もあったので、ウェーブヘアにしています。ただ、あまねの時にもゴールドの要素をどこかに入れる必要があるため、星飾りのカチューシャを考えました。

オーディション合格はコメコメのおかげ？

——エナジー妖精については？

油布　白キツネ、犬、ドラゴンの姿なのは、最初から決まっていました。コメコメはオーディション時はヒゲがあり、まつ毛がなかったです。変化としてはそのくらい。コメコメのデザインで私を選んでもらえたみたいなので、本当にコメコメのおかげですね！　玩具の仕様として、おむすび、サンドイッチ、どんぶりの姿になることも最初にお聞きしていたので、おむすびフォームもオーディションの時に描きました。

——パムパムは、ホットドッグからDog＝犬になったそうですね。デザイン的にもパンっぽいです。

油布　まさにサンドイッチフォームに合うよう、茶色くて丸い犬種にしました。頭のお花は玩具会社さんのご要望で後から付けました。

——メンメンはどのようにデザインしましたか？

油布　一番苦労しました。ドラゴンをかわいくするのが難しくて。でも、色のおかげもあって、なんとかかわいくできました。ドラゴンらしく、ちっちゃい羽も付けてみたり。火を吹くとも聞いたので、キャラ表にそんな絵も描きました（P.36）。

——コメコメは人の姿にもなりますね。

油布　化けたコメコメも、最初に出したものがほぼそのまま決定稿になりました。5形態デザインしましたが、最後の11歳の姿を一番最初に作って、そこから逆算して、ちっちゃい姿を作りました。11歳の姿の次に、赤ちゃん姿を考えたんだったかな。とにかくプリキュアとは違った方向で、かわいくしたいと思って描きました。コメコメらしさを残しつつ人の姿にするというのは難しかったです。

——化けコメ時のロンパースやケープは、エナジー妖精姿の時に付けている赤い布が変化しているんですよね？

油布　そうです。妖精姿の時の布は、フードなんですが、11歳の姿ではケープみたいな感じでもいいかなと。服装はバルーンスカートになりました。

ブンドル団との差別化でブラペはリボン多めに

——ブンドル団のデザインについてもお聞かせください。

油布　みんな名前や立ち位置が先に決まっていました。最初にデザインしたのはジェントルーです。フィナーレをまず考えて、あまねとジェントルーを同時に作りました。セクレトルーやナルシストルーはその後なので、覆面などの共通パーツはジェントルーがベースになっています。

——ジェントルーはあまねと違ってお下げ髪ですが、これは変装だからでしょうか？

油布　そうです。最初はあまねとほぼ同じ髪型にしていたんですけど、シリーズディレクターの深澤（敏則）さんたちから「あまりバレバレにしすぎないように」とのことで。

——セクレトルーとナルシストルーのデザインで気をつけたことは？

油布　セクレトルーの見た目の年齢感は30代半ば。名前の通りカッコいい秘書のお姉さんイメージです。「他の二人よりは位が高いのでちょっと強そうな感じで」と言われました。

——ナルシストルーのデザインは？

油布　見た目の年齢感は20代半ばくらい。自己愛が強いキャラだと思ったので、気高く美しい感じを出しました。八重歯はトゲのイメージです。

——拓海とブラペはどちらを先にデザインしたのですか？

油布　拓海です。拓海のデザインを作って、ちょっと経ってからブラペの依頼が来て、「どうしよう？」と（笑）。

——ブラペもなんとなくブンドル団の衣装と雰囲気が似ていますよね。

油布　ブンドル団もブラペも、自分の素性を隠していて覆面姿だからかなと思います。でもブラペはプリキュアの仲間ということで、リボン多めです。マントの裏地もピンクにしています。「全体的にはカッコいいけれど、よく見るとかわいらしい感じ」にしたかったんです。

——ブラペもマリちゃんも、ベルトの菱形バックルが共通していますね。

油布　マリちゃんのベルトに菱形のバックルを付けたのが先です。そこから、クックファイターやクッキングダム関係の人の共通パーツとして、菱形をつけることにしました。

——マリちゃんは、インナーにある「C」の模様が気になります。

油布　最初は模様はなかったんですけど、「おいしーの『C』、Cookingの『C』で、『C』の文字を入れるのもいいかも」と安見（香）プロデューサーたちから言われて足しました。マリちゃんはとにかく素敵な人ですよね。みんなを導いてくれる大人なので、頼りがいのあるイメージで、がっしりした体型になりました。

——ではファンへのメッセージをお願いします。

油布　1年間という長いシリーズを全部観てくださる方々には本当に感謝しています。残り話数は少なくなりましたが、ここからいろいろな謎が明かされていく見逃せない展開になっていきます。最後まで観ていただけたら嬉しいです。

変身前後の瞳の変化

和実ゆい → キュアプレシャス

芙羽ここね → キュアスパイシー

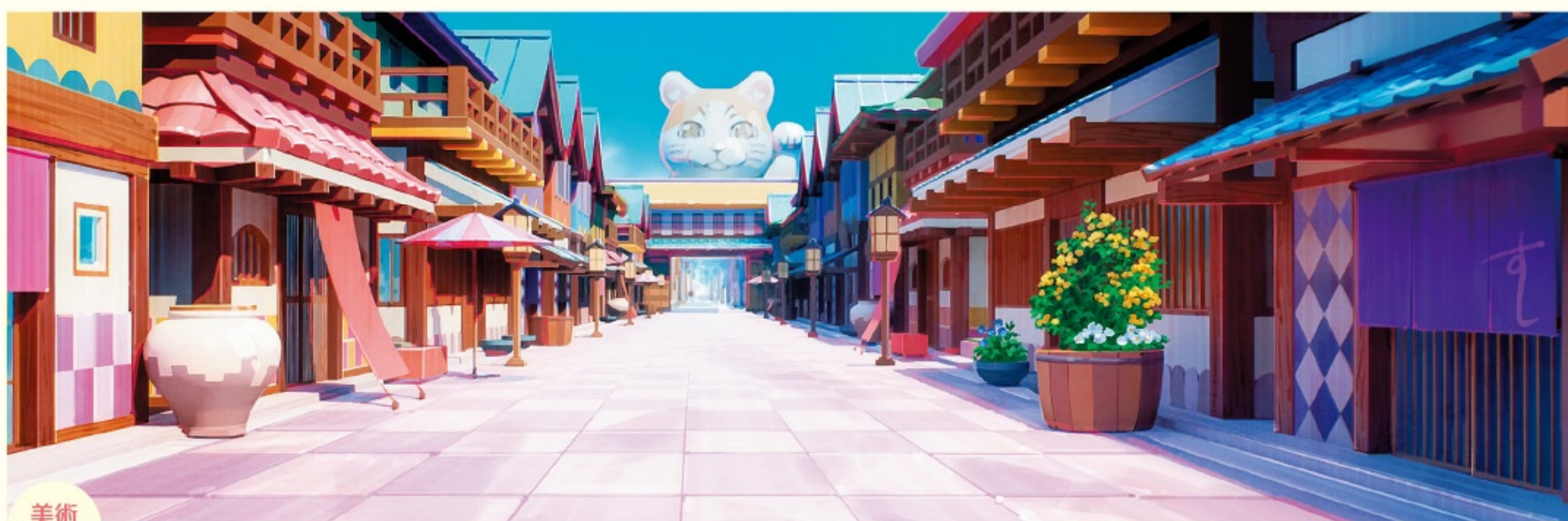
華満らん → キュアヤムヤム

菓彩あまね → キュアフィナーレ

みんなを見守る気持ちで

ナレーション 宮崎美子

美術ボード

おいしーなタウンの和食ストリート。奥には巨大な招き猫が

和実家の庭。ゆいがおばあちゃんを思い出す時は、よくこの場所が出てくる

今作の新機軸の一つが、「プリキュア」シリーズ初となるナレーション。宮崎美子さんの温かい声は、ゆいたちの日常を包み込んでくれるよう！

みやざき・よしこ
1958年12月11日生まれ／熊本県出身／ホリプロ所属／女優としての近作は『最果てから、徒歩5分』（マーガレット）、auのCMシリーズ『意識高すぎ！高杉くん』（おばあちゃん）ほか

楽しみの一つであるおばあちゃんの金言

——宮崎さんがナレーションで出演とは、驚きました。

宮崎　実は、私が仕事で一番好きなのはナレーションなんです。アニメの1年のシリーズでのレギュラーは初めてですが、すごく楽しんでいます。とはいえ、アニメの現場はズブの素人みたいなものだから、最初のアフレコでは「新人ですがよろしくお願いします！」と皆さんにご挨拶しました。

——新人というと、ある意味、菱川花菜さん（和実ゆい役）のような気持ちってことでしょうか？

宮崎　いえいえ、菱川さんの方が先輩ですよ！　彼女は、最初の頃はまだ高校の制服姿で現場に来ていたので、「子役の方かな？」なんて思っていたら、まさかの主役でびっくりしました。それが大学生になって、雰囲気も大人の女性になってきています。最初は頑張って背伸びしていた感じだったのが、今は主役としての緊張感は持続しつつ、多少余裕というか、演じることを楽しめている感じがして。どんどん成長している姿を見させてもらっていますね。

——ゆいのおばあちゃんのよねさんみたいな視点ですね（笑）。

宮崎　本当にそう！（笑）　菱川さんは若くてみずみずしい声で、ゆいちゃんにぴったりだと思います。中学生らしい元気な感じも出ています。ゆいちゃんはまだ拓海くんへの恋愛を意識していませんけど、そういった感じもすごく出ているなぁって思っています。

——ゆいが「おばあちゃんの一言」を言うのも本編の定番です。

宮崎　そこも毎回楽しみです。私が気に入っているのは「ご飯かパンだけで悩むな。迷った時はうどんもある！」。ちょっと笑っちゃうけど、つまり「視野を広く持とうよ。選択肢はいくらでもあるよ」ってことですよね。なんていい言葉だろうと思って。おばあちゃんは毎回いいことを言っていて、そこに物語のヒントがあるんですよね。

——宮崎さんのナレーションは、セリフっぽさのある温かい語りですよね。

宮崎　いわゆる番組ナレーションみたいに喋ってしまうと、落ち着きすぎちゃうと思ったのと、ちょっと面白味に欠ける気がして。最初に方向性を相談したら、「あまり意識はせずに、ちょっとだけ声を作って、普段の感じで柔らかく読んでくだされば大丈夫です」と。それで、多少声を低めにして、ひしゃげて老けた感じにして読んではいます。本当にもう、ゆいちゃんと周りの人たちの日常がかわいくて！　この子たちをまさに見守っている気持ちが、そのまま口調に現れていると思います。

——ナレーションをやる上で苦労していることはありますか？

宮崎　普通ナレーションは座って台本を読むんです。なので、アフレコのマイクの前に立って喋るのは、最初はなかなか慣れなくて。勝手が違って、つい声を張って、窮屈なお芝居になってしまったりとか。それと、アニメはナレーションも尺がきっちり決まっているんですよね。ちゃんと尺に収められるかだけでドキドキしましたが、今はようやく慣れてきました。

声優さんたちとの交流が嬉しい！

——作品モチーフの「ごはん」という点についてはいかがですか？

ゆいちゃんと周りの人たちの日常が本当にかわいい

宮崎　「プリキュア」はシリーズごとにテーマがありますよね。今回、よく「食」というテーマに目をつけたなぁ！という感じでした。おむすびを食べて頑張る女の子が主役だなんて、素敵ですよね。この番組を観て、「しっかりごはんを食べよう」と思ってくれる子どもたちが増えたら嬉しいです。

——ゆいを含めたプリキュアの面々の印象も教えてください。

宮崎　とにかくゆいちゃんは、みんなを引っ張っていくところがいいですよね。ここねちゃんは、映画でドリーミアのパンのアトラクションを見て、「パン！　みんなパン！」って感激していたシーンがかわいくてツボでした。普段はクールなのに、めちゃめちゃ実感がこもっていて。これぞここねちゃんって感じがしましたね。ここね役の清水（理沙）さんにも伝えました（笑）。らんちゃんは、あの「はにゃ〜」という口調を真似したい（笑）。ちょっととぼけた感じでかわいいなぁって。もう台本のセリフを見ただけで、井口（裕香）さんの声が聞こえてくるようです。あまねちゃんはカッコいいですよね。生徒会長で大人って感じがして。茅野（愛衣）さんは優しい女の子の声もできるし、あまねみたいなキリッとした女の子もできてすごいです。

——映画に出演してみて、いかがでしたか？

宮崎　ドリーミアが、まぁ楽しいですよね！　もうキラキラ！　子どもたちは「行ってみたい！　遊びたい！」って思うんじゃないでしょうか。お話自体は、楽しいだけじゃなくて、ケットシーの生い立ちを推し量ると……ね。劇中で明言してはいませんが、子どもたちにケットシーみたいな思いをさせてはいけないってことですよね。だから、私たち大人が観て、とても考えさせられる映画だなと思いました。

——ちなみに宮崎さんは、プリキュア役をやってみたい気持ちもあったりしますか？

宮崎　実はちょっと真似っこしています（笑）。やっぱり女の子なら……私の歳でおこがましいですけど、やっぱり憧れますよね。女の子たちが仲間と一緒に、まっすぐな気持ちでみんなのために闘う……なんてきれいな世界なの！ってワクワクします。プリキュア役のキャストオーディション情報を会社で見かけた時も、一人で練習したりしていました（笑）。

——『デパプリ』に関わって、楽しいと感じることは？

宮崎　声優の皆さんと直にお会いして、仲良くさせてもらうのはこれが初めてなんです。「あのアニメのあの声の方は、こんな感じなのね！」って感激しています（笑）。マリちゃん役の前野（智昭）さんは、『はたらく細胞』の白血球さんですよね。茅野さんは「『斉木楠雄のΨ難』の心美の人〜！」ってなりました。しかも、前野さんと兄妹役で！　そんな方々と一緒にお仕事できて、すごく光栄です。もちろん、菱川さんやエナジー妖精の子たちとも仲良くお話させてもらっています。この「プリキュア」という大きな輪の中に入れていただけたこと、声優さんの仲間に加えてくださったことに、本当に感謝でいっぱいです。

——ちなみに拓海の父・門平役は「サラリーマンNEO』で共演された池田鉄洋さんですね。

宮崎　そうそう！（笑）　まだこの現場では会えていないんですが、門平さんは今後も出てくるでしょうから、早くお会いしたいですね。「サラリーマンNEO』はコント番組だったじゃないですか。それがねえ、まさかのイケメンお父さん！　放送を観てびっくりでした（笑）。

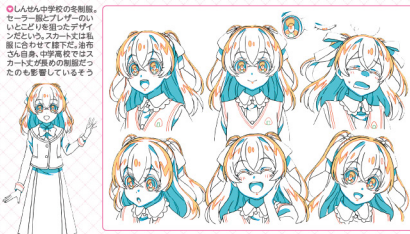
——最後にファンへのメッセージをお願いします。

宮崎　小さなお子さんだけでなく、「プリキュア」を観て育った若いお母さん、そのお母さんが子どもの頃に一緒に観ていたおばあちゃん。それに「プリキュア」は男の子が観てもカッコいいですよね。もう、みんなで観て応援してもらいたいです。子どもたちにも分かりやすく、変わらない大切なことが語られています。理屈っぽく説明するのではなく、観ていると自然に「そうだよね」と受けとめられるように作られていて。大人が厳しく言うのも必要だけど、そうじゃない方向から「食べることのすばらしさ」を教えてもらえる、素敵なお話です。「ごはん」という大切なものを扱う作品に関われてとても良かったと思います。作中に出てきたお料理を実際に作ったりもして、楽しんでもらいたいです。

TV 設定資料 SELECTION

他のページで未掲載のものを中心に、TVシリーズの主なキャラクター表(線画設定)をご紹介!

和実ゆい/キュアプレシャス

しんせん中学校の冬制服。セーラー服とブレザーのいいとこどりを狙ったデザインだという。スカート丈は私服に合わせて膝下だ。油布さん自身、中学高校ではスカート丈が長めの制服だったのも影響しているそう

ゆいの表情集。中央下は「デリシャスマイル～!」、右上は「はらぺコった～!」の表情だ

制服の上着をとると、白いひらひらブラウス

自宅等でお料理する際に着用する、玩具連動のエプロン姿。『プリキュア』の主役には珍しく私服のスカート丈が長いことがエプロンの丈によって明確に分かる

夏制服。冬服がブレザーの要素が強いのに対して、夏服はセーラー服の要素が強め。青緑系の色合いは、当初冬制服の候補色でもあった

夏私服に、玩具連動のエプロンを着けた姿。夏服もスカート丈が長めなのは変わらない

パジャマ姿。キュアプレシャスのモチーフの三角が小さく全体にあしらわれている

第8話で、ここね&らんと食べ歩きをした時に使ったポシェット。斜め掛けがゆいらしい

しんせん中学校の通学カバン。形状自体は男女共通だが、女子用はフリル付き

女子用

男子用

しんせん中学校のオレンジ色の体育用ジャージ。ゆいは上着のジッパーを完全に上げてハーフパンツ。学校のシーンで使う機会がなく、第26話のピーマン農家さんを訪れた時に初お披露目

キュアプレシャスの三面図。胸のリボンが水引風で、上着の合わせが右前など、和の要素を入れている

親指が分かれている靴もポイント。キャラクターデザインの油布京子さんが、「足袋ブーツ」を取り入れてデザインした

キュアプレシャスの表情集。はつらつとした印象

ゆい、ここね、らんのハートキュアウォッチ。レシピッピの危機を知らせてくれ、救出後のレシピッピはここに入っていく

第10話から登場のミキサー型の浄化アイテム・ハートジューシーミキサー。エナジーを込めてウバウゾーに放つ!

マリちゃんがゆいたちに友情の証にくれたパーティグラス。EDダンスでも用いられる

タクトと共に使うパーティアップ リング

第28話から登場のパーティキャンドルタクト。コメコメのエナジーが生み出す

タクト使用時はハートキュアウォッチも華やかなパーティアップver.となる

芙羽ここね／キュアスパイシー

制服姿。冬服（上）は茶系、夏服（下）が青緑系とシックな色合いなのは、ここねのお嬢様設定も鑑みてのこと

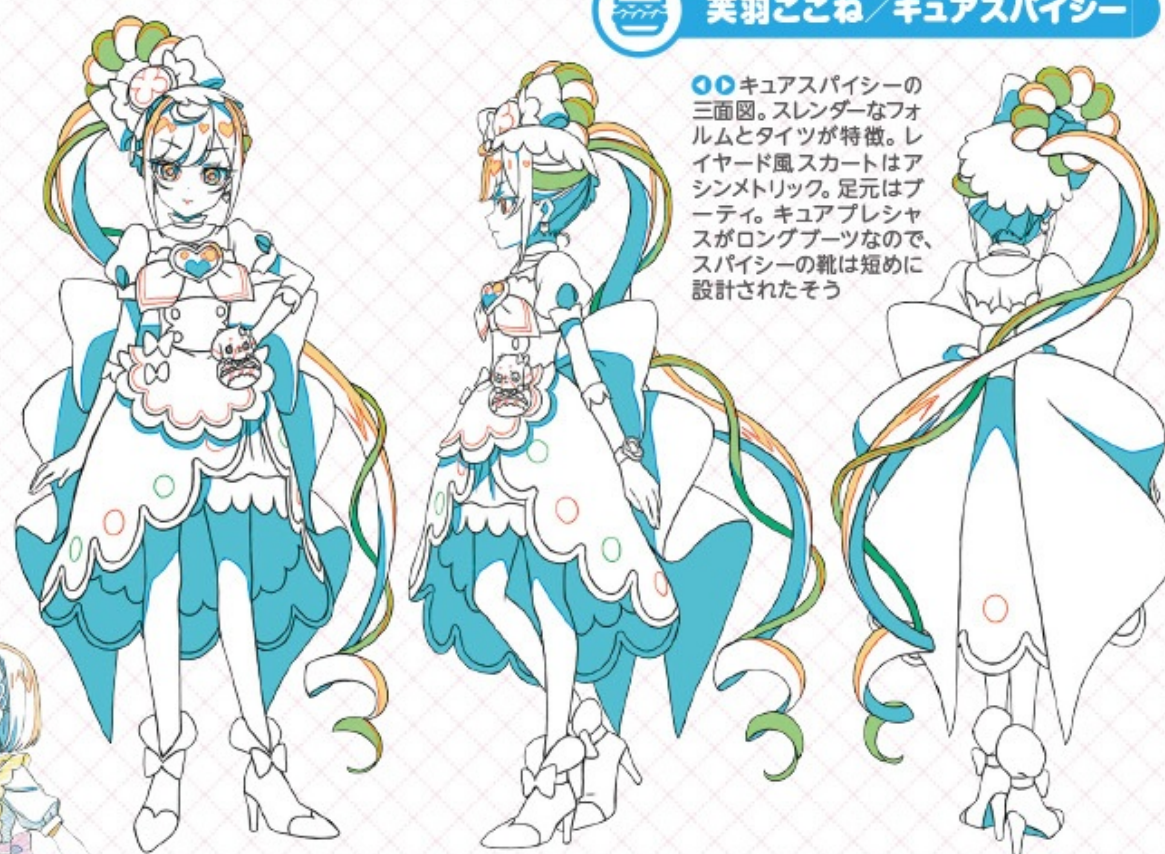
ここねの表情集。落ち着いた顔が多い中、焦った表情が目を惹く

キュアスパイシーの三面図。スレンダーなフォルムとタイツが特徴。レイヤード風スカートはアシンメトリック。足元はブーティ。キュアプレシャスがロングブーツなので、スパイシーの靴は短めに設計されたそう

中学のジャージ姿。ここねはロングパンツを着用

玩具連動エプロン姿＋夏私服

玩具連動エプロン姿＋春私服。スカートはほぼエプロンに隠れる

お姉さんっぽいショルダーバッグ。丸いマークはキュアスパイシーの形状モチーフから

キュアスパイシーの表情集。全体に知的で優しい印象

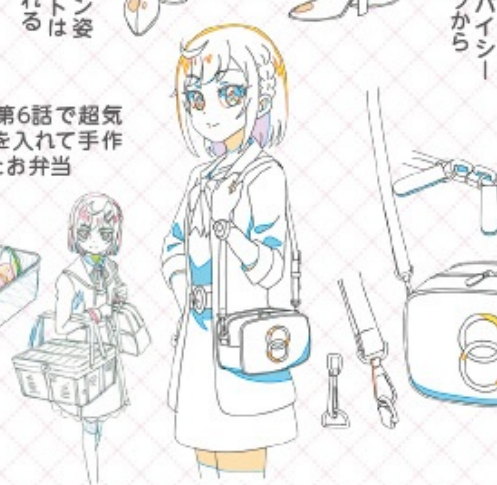
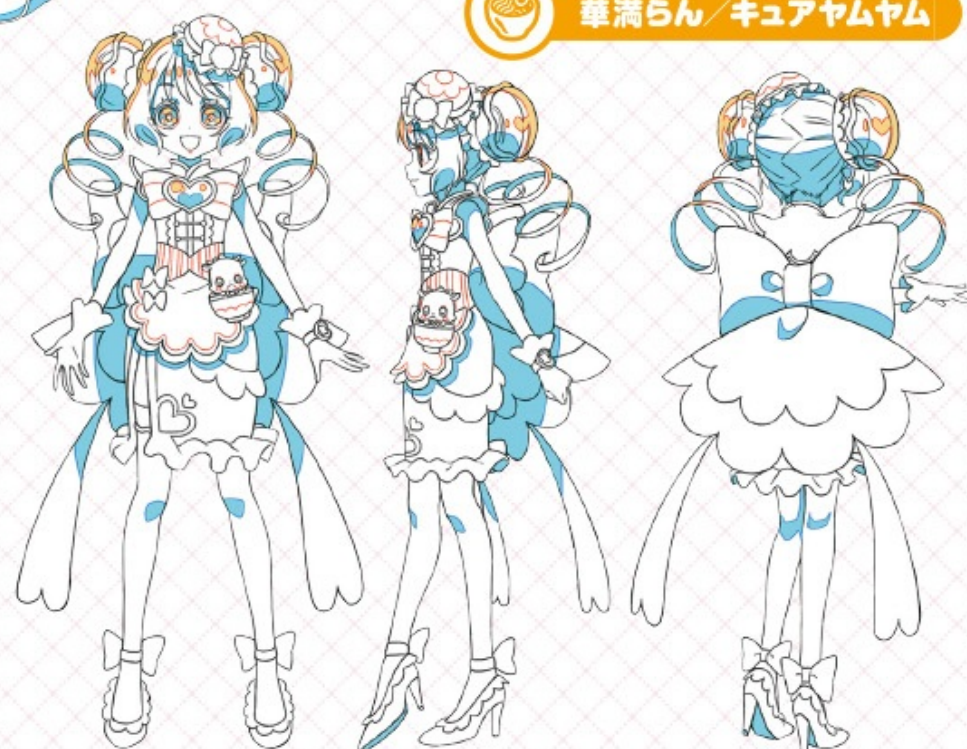
第6話で超気合いを入れて手作りしたお弁当

幼少期。第26話のピーマン大王のイメージシーンでも登場したのは演出の土田豊さんのアイデア

華満らん／キュアヤムヤム

中学のジャージ姿。上着のジッパーを開いてハーフパンツ姿

冬制服。黄色のカーディガンを重ね着。スカート丈は夏冬共に膝上

らんの表情集。ムードメーカーで表情豊かだが、ギャグ顔は描かれていない

キュアヤムヤムの三面図。チャイナドレスがモチーフ。足元もカンフーシューズ風だが、並びのバランスでヒールをつけてある。シンボルマークであるライン形状は、胸のリボンや腰部分のストライプの塗り分けに活かされている

らんが出前で使う特製の「出前５号」

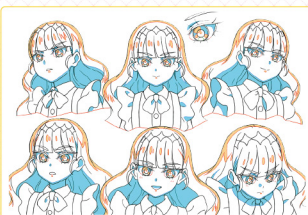
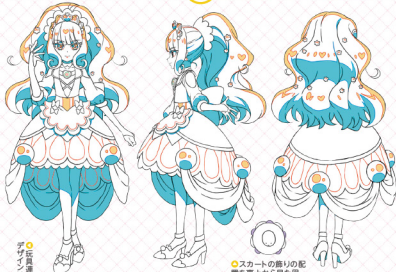
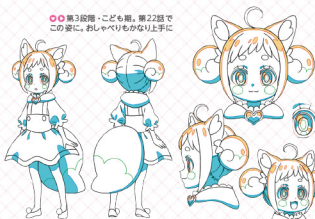
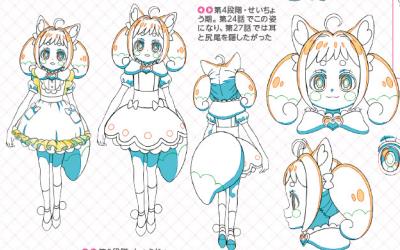
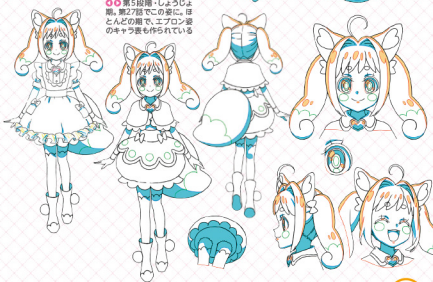
第27話の白衣姿と、らんの発明品である食べられるシャボン玉を出すステッキ

玩具連動エプロン姿＋夏私服

第27話でらんが作った、化けたコメコメ風の耳と尻尾

第８話のリュック。パンダのワンポイントも

玩具連動エプロン姿＋春私服

キュアヤムヤムの表情集。怒り顔やガッカリ顔など、4人の中でもあどけなさが漂う

菓彩あまね／キュアフィナーレ
冬制服。薄紫のラインが入った白いカーディガンを重ね着
あまねの表情集。凛とした整った顔立ち。ジェントルー時代のあまねも表情集は同一で、ハイライトの数と瞳の色が異なる
キュアフィナーレの三面図。シンメトリックなデザインのフリフリのドレス。ヒールパンプスなどで少し大人っぽい雰囲気も出している
スカートの飾りの配置を真上から見た図
夏制服姿。スカート丈は夏冬共に膝下で、ゆい&ここねと共通
ジャージ姿のあまね。ロングパンツを着用
玩具連動エプロン姿＋夏私服
玩具連動エプロン姿＋春私服。エプロンのデザインは4人共通で、胸元の飾りが異なる
キュアフィナーレの表情集。キリリとした風貌
幼い頃のあまね。この頃からパフェのレシピッピが見えていた
あまねのスマホ。プリキュアになって以降、フルーツ柄が追加
フィナーレ専用の浄化アイテム・クリーミーフルーレ。クリームの搾り器がモチーフ
変身アイテム・ハートフルーツペンダント。ハートキュアウォッチと同等の機能がある
品田拓海
ブラックペッパー姿の拓海。白基調なのは、怪盗ブンドル団の黒っぽい衣装が先にデザインされたため。白基調で差し色に黒を使用
本編未登場の夏制服。一般男子の夏制服設定としても使われている
冬制服。男子の制服は普通のブレザーで、拓海は全体に少し着崩し気味
スウェットのルームウエア。第13話、1年前の父との回想シーンで着用
お料理をする時のエプロン姿
拓海の春私服(ジャケットなし)。拓海の設定画には「幼くなりすぎないように気をつけましょう。私も気をつけます」という油布さんの注意書きも
ブラックペッパー
第20話、レストラン・デュ・ラクでの正装
ブラペの帽子に付いているデリシャストーン。父から預ったもので、拓海がクックファイターのような力を発揮できるのはこれのおかげ
第34話の草野球でのユニフォーム姿
夏私服。右手には革のブレスレット。ズボンは裾を折って少し肌見せ
ブラックペッパーの表情集。驚き顔や照れ顔など、コミカルな表情もしっかり想定されている
22

コメコメ
ゆいのペアとなるエナジー妖精
第3段階・こども期。第22話でこの姿に。おしゃべりもかなり上手に
コメコメが化けた時は、どの段階でもおキツネさまっぽい麻呂眉が特徴。やや現実離れしている顔立ちにし、プリキュアと差別化している
第4段階・せいちょう期。第24話でこの姿になり、第27話では耳と尻尾を隠したがった
化けたコメコメ第1段階・赤ちゃん期。第3話でこの姿に変化。おしゃべりはできない。設定画では立っているが、まだハイハイ
玩具連動エプロン姿。頭は三角巾で和テイスト
第20話で正装してランチに出かけた時のドレス姿
第33話のハロウィンパーティでのオバケの仮装
第5段階・しょうじょ期。第27話でこの姿に。ほとんどの期で、エプロン姿のキャラ表も作られている
第2段階・ようじ期。第9話でこの姿に。ヨチヨチ歩きができるように
パムパム
ここねのペアとなるエナジー妖精
メンメン
らんのペアとなるエナジー妖精
第33話のハロウィンパーティでのオバケの仮装
第20話での正装姿。チャイナ風衣装に蝶ネクタイ
玩具連動エプロン姿。ねじりハチマキがかわいい
第33話のハロウィンパーティでのオバケの仮装
第20話での正装姿。コメコメとおそろい
玩具連動エプロン姿。帽子がおしゃれさん
36

ローズマリー

第30話の屋台メシグランプリに「やきそばマリちゃん」として出店した際のはっぴ姿。下駄履き

第20話での正装。スカーフとポケットチーフで大人の雰囲気

上着をとった姿。シャツの柄（ライン）がよく分かる

マリちゃんの表情集。まつ毛が長い美形。まぶたのアイシャドウ、下唇のリップの塗り分けは赤のラインで指定

レシピボン捜索のためにやって来たクックファイター。「美の伝道師」を自称するが、そこについてはゆいは完全スルー

第33話の魔法使いの仮装スタイル。ハロウィンパーティ用にレンタルショップで自ら見立てた

マリちゃん愛用のがま口。「G」の字は、師匠のジンジャーの財布だったことの証

エナジー妖精を運ぶためのバッグ。おいしーなタウンに来た際に使用

クッキングダムの人々

別の世界に存在する、食べ物の王国。妖精「レシピッピ」にとっての楽園で、王国の人々はほかほかハートの力を使って、おいしい食べ物ができる技術を長年研究開発している。

クックイーン

クッキングダムの女王様。穏やかな女性で、王様より多少風格がある

クッキング

クッキングダムの王様。人なつっこい雰囲気で鷹揚な性格。「クック、クック」という笑い方が特徴

セルフィーユ

クックファイター見習いの女の子。第29話ではゆいたちを案内してくれた

レシピボン。クッキングダムの宝であり、あらゆるお料理の作り方が記された貴重な本

スペシャルデリシャストーン。マリちゃんとフェンネルが片方ずつ持っている、特別なデリシャストーンだがマリちゃんのほうは第1話で壊れた

フェンネル

クッキングダムの近衛隊長。なでつけた髪が特徴。マリちゃんとは頻繁に連絡を取り合っている

品田あん
拓海の母。ゲストハウス・福あんを経営。門平とは遠距離ながらラブラブ
品田家
和実あきほ
ゆいの母。おいしーなタウンで定食屋「なごみ亭」を切り盛りする。快活で明るい性格
和実家
ヒザにはパッチワーク
品田門平
拓海の父。20年前にクッキングダムからやって来た人物で、おいしーなタウンの住人になった
和実よね
ゆいの祖母。ゆいが大事にしている言葉「ごはんは笑顔」は、よねから伝えられたもの。幼いゆいに寄り添っていた
和実ひかる
ゆいの父。漁師であり、門平と一緒に遠洋漁業に出ている。定期的にリモートで家族と連絡を取り合う
芙羽家
飲食店経営で世界的に知られる、ここねの両親。二人とも世界を股にかけて活躍しているため、ここねに寂しい思いをさせていないか気にしている。
芙羽しょうせい
ここねの父。レストラン・デュ・ラク他、高級レストランを経営。お料理の腕も抜群
芙羽はつこ
ここねの母。レストランメニューの開発や食材の買い付けを担当。「神の舌」と呼ばれる味覚を持つ
華満こしのすけ
らんの父。ラーメン屋さん・ぱんだ軒の主人。ラーメンスープを作るため、家族と共に旅をしたことも？
華満つるね
らんの母。こしのすけと一緒に店に立ち、共に働く
華満家
ぱ
ぱ
菓彩家
おいしーなタウンでフルーツパーラーKASAIを営む。そこで働くゆあんとみつきは妹のあまねを溺愛しており、あまねが恥ずかしがることも。夫婦と子ども3人の5人家族だそう。
華満るん
らんとりんの弟。第27話でりんと共にコメコメと仲良しになる
第27話で着た、りんとおそろいのパンダ柄エプロン
第27話で、ゆいや化けたコメコメと一緒にアイスを作った時のエプロン姿
華満りん
らんの妹。らんのことは、るんともども「らんちゃん」と呼ぶが、発明が得意な姉を尊敬している
菓彩みつき
双子の弟。ゆあんとは逆に、甘い雰囲気。二人は目尻のホクロが対称位置にある
菓彩ゆあん
双子の兄。硬めの口調が特徴。空手の黒帯で、第17話ではあまねに稽古をつけていた

サブキャラクター

本間ともえ

第14話に登場した、ゆいとは別のクラスの2年生。拓海に意を決して告白した

長瀬えな・遠藤いろは・高田りさ

ゆいのクラスメイトの仲良しトリオ。高嶺の花のここねと同じクラスになれて喜んでおり、その後ちゃんとお友達になった。カーディガンの子がえな、お下げの子がいろは、カチューシャボブの子がりさ。えなはクラスで一番背が低い設定

轟

芙羽家で運転手を務める紳士。ここねの登下校時にも運転しており、ここねを身近で見守ってきた人物。実はらんも一目置く食リポをSNSで公開中

櫻井麻恵

第22話登場。陽佑の幼なじみで、子どもの頃から彼の優しさに気がついていた。ケガで入院中だった

湊 陽佑

第22話登場。にこにこ青果店の若店主。意中の麻恵のために、伝説のクレープを作ろうとした

高木晋平

第16話に登場したゆいのクラスメイト。らんが一人で食リポをしているのを目撃し、クラスで面白おかしく話してしまう。周囲からはホラ吹きと思われていたが……。モブクラスメイトとしてデザインされた男子の一人が、そのままゲストキャラに。ニキビ跡が特徴

山倉もえ

第17話に登場した生徒会副会長。ピアノに自信を失っていた時に、あまねにフルーツポンチをごちそうになって前向きになれたことを恩義に感じている。第31話では、あまねと一緒にマイラ王女を出迎えた

浅井宏輔

又三郎の孫。野球が大好きだが、祖父に食べ歩きに連れ回され不満だった。ゆいに一目惚れして、拓海に恋のライバルとして勝負を申し込む

浅井又三郎

以前おいしーなタウンで料理店を開いていた。よねとは旧知の仲で、秘伝の味を二人で編み出したほど。昔気質の元板前で、少々頑固者

マイラ・イースキ

第31話に登場したイースキ島のプリンセス。イースキ島に寄った門平からおいしーなタウンの話を聞いて、訪日日程にわざわざ組み込んだ。見た目はゆいそっくりだが、清楚な立ち居振る舞いで朗らか。第35話にも登場。服装イメージは第31話の演出・門由利子さんが考案

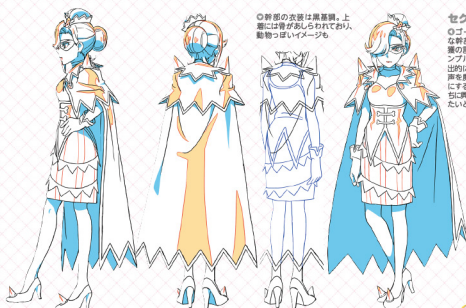
松山咲枝

おいしーなタウンに古くからある和菓子屋さん・はごろも堂の店主。お店の閉店をなんとかしたいらんの気持ちには感謝しつつ、閉店の気持ちは変わらなかった。第21話に登場

怪盗ブンドル団

すべての料理を支配しようとするゴーダッツの下、レシピッピの捕獲を使命とする怪盗団。主においしーなタウンに出没している。

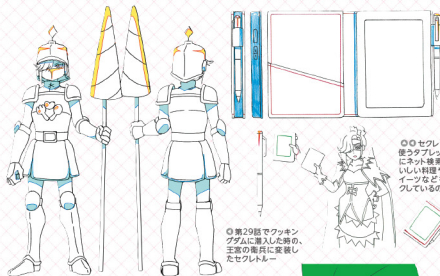
▼幹部の衣装は黒基調。上着には骨があしらわれており、動物っぽいイメージも

セクレトルー

◀ゴーダッツの秘書的な幹部。レシピッピ捕獲の言葉は「ゼンブルゼンブルブンドル〜」。演出的には、これらの掛け声を魔法の呪文のようにすることで、子どもたちに興味を持ってもらいたいという狙いがある

◀帽子は怪盗らしいシルクハット。リボン飾りはプリキュアのモチーフでもあるが、ジェントルーのリボンはギザギザ型。デザイン時にはファルファッレ（蝶々型のパスタ）をイメージしたという

ジェントルー

▲▶最初に登場した、生真面目な少女幹部。「ブンブンドルドルブンドル〜」と唱えてレシピッピを捕獲箱に収める

▲◀セクレトルーが使うタブレット。普通にネット検索して、おいしい料理や限定スイーツなどをチェックしているのが愉快

◀第29話でクッキングダムに潜入した時の、王宮の衛兵に変装したセクレトルー

◀▶ナルシストルーが作った濃い紫色の強化捕獲箱。形は猫の顔型。第10話から登場

▶▲ジェントルーが使うグレーのレシピッピ捕獲箱。デザインモチーフは弁当箱

スピリットルー

▼4番手に登場したロボ幹部。「ドンドントルトルブンドル〜」と唱えてレシピッピを奪う。ロボットだけど熱い応援魂を持っているために、スピリットルーと命名されたそう

▲背中のマントの下にはバーニアが

▶◀ブンドル団の服はトゲパーツが多い。他者を拒絶するような意味合いでデザインされた

ナルシストルー

▼◀3番手で登場した露悪的な青年幹部。「トルルントルルンブンドル〜」と唱えてレシピッピを捕らえる。食べることを拒絶しているイメージで、トゲっぽい八重歯も

▲マントを上げた状態の背中側。構造的には上半身と下半身を上下に開くことができる

◀モットウバウゾーを応援するスピリットルー。ブンドル団のマーク入りの扇子は手首から出し入れできる

▼第13話からのレシピッピ探知レーダー付きの黒い捕獲箱。底部のスリットは、左右がスピーカーで中央がUSBのような接続端子

◀ミニスピリットルー。第33話から登場した小型ロボ群。彼らもナルシストルーがチマチマ作ったそう。「便利に使える小型ロボのイメージ」でデザイン発注された

▲第28話からの強化型捕獲箱。色味は白に

MOVIE

映画デリシャスパーティ♡プリキュア 夢みる♡お子さまランチ！

共に生きていける世の中に

たとえ今が幸せでも、心が粉々になることは誰にだって起こりうる。「ごはんは笑顔♡」を信じるゆいは、笑顔だけでなく涙も分かち合えるヒーローに！

今作の舞台は、お子さまランチのテーマパーク・ドリーミア。しかしその楽しさとは裏腹に、内在するテーマは、とてもシリアスでデリケートなものだ。

監督の座古明史さん、脚本の田中仁さんによると、園長のケットシーはいわゆる社会的弱者をイメージしたという。家族の愛を知らず、自分を無下にしてきた世間の大人たちに強い敵愾心を抱いている。ドリーミアの従業員が全員ロボットなのは、発明家らしいテクノロジーの結晶という以上に、大人は信用ならないという気持ちの現れだ。

と同時に、自分自身も純粋さを喪失した大人だと自覚していて、子どもたちには憧憬的な想いで優しく接する。ここドリーミアでは、すべての子どもたちを分け隔てなく、お腹いっぱい夢いっぱいにしてあげたい……。そんな心理が複雑に共存している。

屈折したケットシーと、「ごはんは笑顔」をモットーにすこやかに生きてきたゆい、大人への憧れを持つコメコメ。3人が相対し、心をシェアし、未来への一歩を踏み出す――。様々な人の存在を認め、心を通い合わせることができれば、世界はもっと豊かになるのかもしれない。

絵コンテパート
K＝貝澤幸男
T＝手塚江美
Z＝座古明史

1 ゆいはコメコメのヒーロー K

プリキュアの4人の紹介も兼ねた土鍋ウバウゾー（デザインはTVと同じ春山和則さん）とのバトルから始まる。戦いが終わって、コメコメはハツラツとしたゆいに尊敬の眼差しを向け、その後を泳ぐような動きでついていく。映画全体の内容をこの始まりのシーンで見せたいという座古監督の意図を汲み、絵コンテの貝澤幸男さんが考えたものだ。「コメコメが凛々しい顔でみんなを追い抜き、先頭を歩くゆいと並び立つ。この1カットで、この映画が何を表現したいのかが一発で分かる、大変すばらしいカットです」（座古）。

監督
座古明史

ざこ・あきふみ
1975年生まれ。東映アニメーション所属。シリーズディレクター作品に「HUGっと！プリキュア」（共同）、「トリコ」、「フレッシュプリキュア！」（共同）

2 ゆいの幼い頃の夢 T

お子さまランチの思い出が、ゆいの夢で描かれる。「雨の中を一人とぼとぼ歩く寂しそうな子ども。すれ違う人たちは、その姿に全然気がつきません。傘のせいで見えていないのですが、これは『可視化されていない貧困』のイメージです。『苛酷な中での美しい出会い』を見せたかったため、玉ボケなどの効果を使い、幻想的に描きました」（座古）。ゆいはその子を家に招き、お子さまランチもどきを振る舞う。ゆいが旗に描いた拙い猫の絵は、キャラクターデザインの松浦仁美さんが左手で描いたものだ。ケットシーの心が緩んだところに草花の情景カットが入るのは、座古監督お得意の心情描写。草花はカラスノエンドウで、絵コンテの手塚さんが選んだもの。「未来の幸せ」という花言葉がある。

3 ドリーミアへレッツゴー T K

朝起きたゆいは、ドリーミアの宣伝パレードの「食べ放題」の言葉に大興奮（ここまでが手塚パート）。なごみ亭に集まった仲間たちと共にさっそくドリーミアへ。送り出したマリちゃんのスペシャルデリシャストーンは不安げに光るが……。入場時には、なんとパムパムとメンメンがロボットの光線で人の姿に。もはや発明を超えて魔法の領域？喜ぶここねやらん、駆け寄ったコメコメと手を取り合ってはしゃぐエナジー妖精たちの仕草は、貝澤さんが考えた芝居だそう。

大人が大人として機能していない現代

――食べ物ネタといえば、座古さんという感じがありますね（笑）。

座古　（笑）。すっかりそういう印象がついていますよね。私自身も監督のオファーを受けて「あ、また食べ物のお話だ」なんて思いました（笑）。最初から題材はお子さまランチと決まっていましたけど、レストランのメニューの花形の一つだと思います。たぶんこれまで、お子さまランチがメインのモチーフという作品はなかったんじゃないですかね。「プリキュア」シリーズの各話でも、たぶんなかったと思います。

――コメコメがヒーローであるゆいに憧れる心情がドラマの一つの軸になっています。

座古　ゆいって「やらなくちゃ！」と思って動くタイプではないですよね。ごく自然にヒーローっぽい振る舞いをするというか。誰から見ても「ゆいって、いい人だな」と思えるように描ければ、観ている人はコメコメの心情に寄り添えるのではないかと思いました。

――そこは、迷子のお世話をするシーンにも現れていますよね。

座古　そうですね。ほかにも、アバンのバトルが終わったところで変身を解

5 ドリーミアをエンジョイ Ⓚ

和・洋・中＋デザート、それぞれのモチーフのアトラクションを7人で満喫する。「ドリーミアが子どもたちにとって幸せな場所であることを、ここでしっかり表現しておく必要がありました。それと美術設定を作る際は、食べ物そのものを玩具にして遊んでいるように見えないよう注意しました」（座古）。ごはんアトラクションのスタンプラリー的なアイデアも、企画当初から出ていたという。

4 コメコメ最初のなでなで Ⓚ

入場パスでもあるドリーミアリングが配られ、上空から園長のケットシーがご挨拶。園内をどう巡るかではしゃぐコメコメは、みんなにお子さま扱いされてふくれっ面。このコミカルな鼻息ブシューはいかにも貝澤演出だ。パムパムとメンメンは、ご機嫌をとるためにコメコメをなでなで。コメコメはお子さまっぽく、無邪気に喜ぶ。「頭をなでる＝子ども扱いされているのに、つい素で喜ぶコメコメをかわいく表現していただきました」（座古）

コメコメをゆいと並び立つ存在に

6 お子さまランチは子どもっぽい？ Ⓚ

ドリーミアに友達と来ていた拓海。実は彼もドリーミアを怪しいと感じていたというのは、のちのち分かる。拓海がゆいに放った一言から、コメコメはお子さまランチが子どもっぽいものだと感じしてしまい、「おっきい子はお子さまランチなんて食べないコメ！」と強がってしまう。

8 警備ロボットに追われて地下に転落 Ⓚ

ドリーミアを回っている7人の前を、警備ロボットに追われるマリちゃんが駆け抜ける。マリちゃんもドリーミアのことが気になってやってきたのだが、警備ロボットにゲートで囲まれ、園内側に逃げてしまったのだ。勢い余ってダストシュートに落ちていくマリちゃんとゆいたちをドタバタ感満点で見せる。地下でも警備ロボットに囲まれ、ゆいたちはやむなくプリキュアに変身して抵抗。

7 迷子の女の子とゆい Ⓚ

迷子の女の子のお姉さんを、懸命に探してあげるゆい。コメコメにとって、ゆいがいかに憧れの存在かを示すシーンだ。女の子を抱き寄せて落ちつかせたり、おんぶして探し回ったり……。お姉さんと会えたのを見た時の安堵の微笑みなど、ゆいの「頼れるお姉さんぶり」が、コメコメの主観も入れて強調されている。

いて、「ごはん食べに行こう！」とみんなを誘ったりとか。本当の意味のリーダーというのは、気がつけば周りを引っ張っているじゃないですか。ゆいもそういう人なんだろうなって。それとコメコメから見たら、ゆいは歳の離れた憧れの存在なので、そこの意識の違いがきちんと見えると分かりやすいかなと思いました。

――今回の敵キャラとなるケットシーは、子どもには優しいけれど怨みを持っているという二面性が特徴です。

座古　物語を作る上で、まずお子さまランチというモチーフがあって、「そのお子さまランチに憧れているゲストキャラが出てくるといいのでは」という案が、かなり早い段階に出てきたんですね。じゃあどうして憧れているのかをみんなで考えていく中で、「それを食べたい年齢の頃に、何らかの事情で食べられなかった子なんだろう」という話になりまして。そして、ありとあらゆる大人や社会の支援の手からこぼれ落ちて、幸せに生きることができないでいたケットシーという人物が生まれたんです。ケットシーは子どもには優しく、大人には敵愾心を抱いているので、一見両極端です。けれどケットシーの中ではちゃんと筋が通ってて。つまり、周りの大人に優しくしてもらったことがないわけです。

――ケットシーは、大人から見捨てられていたということですね。

座古　そういうことです。でも、お子さまランチを振る舞ってくれたゆいという存在がいたので、子どもに対しては信じてもいいと考えている。ゆいの「ごはんは笑顔」というワードによって一度は笑顔になったんだけど、結局悪い科学者に利用されて裏切られて、ますます大人を信じられなくなってしまった。今現在、我々が暮らしている社会もそうです。社会を支えて動かすべき大人がいかにダメであるか。大人が大人として機能していないのではないかと、早々に田中仁さんと意気投合しまして。民主主義は形骸化し、歴史修正主義がはびこるこの世の中。芸術や科学に対する軽視は、人間の軽視です。僕は「弱い人がどれくらい生きやすいか」がその文明社会の成熟度を示す一つの尺度だと考えているのですが、じゃあ現代はどうであるか。

――十分に成熟しているとは、言いがたいですね。

9 マリちゃんがぬいぐるみに！ Ⓚ

マリちゃんの「一点突破よ！」の言葉にヒントを得て、警備ロボットを撃退したプリキュア。しかし頭上からクレーンロボが襲来。コメコメたちはロボの中に吸い込まれ、ビームに当たったマリちゃんはぬいぐるみに変化。フィナーレは、変身が解けたゆいたち3人を文字通り抱えてドリーミアの地下をさまよう。この一連のバトルは、カッコよさの中にもユーモラスさがあるのが特徴だ。コメコメたちは地下のチューブを流れ、園長の部屋に辿り着く。

10 ケットシーのクッキングショー Ⓚ

コメコメたちはケットシーと対面。ここでコメコメは即座にケットシーの姿が猫だと言い当てた。喜ぶケットシーは3匹のためにお子さまランチを用意する。ドリーミアリングを光らせたのを合図に、ロボ楽隊の音楽に合わせて調理ロボットが料理していく。これは田中仁さんの脚本段階からあるイメージで、ステージショーのような楽しい画面に。別の場所にいるゆいたちも、その音楽に自然とリズムをとってしまうのは、絵コンテで考えられた描写。のちの「通じ合い」を示唆したものだ。

12 奇妙な子ども部屋 Ⓣ

ブラペの助けもあって、警備ロボットの追跡をかわしたゆいたちは、奇妙な子ども部屋のような場所に入り込む。ぬいぐるみなどがどれも巨大なのは、ケットシーが小さかった頃のイメージ（幼児の主観）だからだ。壁に描かれた落書きは、幼い頃のケットシーのつらい記憶そのもの。「手塚さんが描いた絵を、美術さんがクレヨン画調で仕上げました。この絵の中には『なごみ亭を出た後のニコニコ顔のケットシー』もあって、その終着点にお子さまランチの絵があります」（座古）。そのお子さまランチの絵を見たゆいは、ケットシーが誰なのか気がつく。

11 ケットシーのお子さまランチ Ⓚ

ケットシーが作ったお子さまランチを、パムパムとメンメンが堪能。それに向けたコメコメの羨望の眼差しや、そっと一口食べてうっとりする表情芝居が愛らしい。「コメコメの口元にカメラを置き、主観でカメラに向かって料理を投げ込んでいくようなカットも貝澤さんのアイデアで、面白い見せ方でした」（座古）。きれいに食べ終え「しまった！」となるコメコメだが、ケットシーに頭をなでられる。お子さまランチを食べたい気持ちと、大人になりたい想いの両方を肯定してくれたのだ。「今の君のままで夢は叶えられるんだよ！」という一言に、コメコメは勇気づけられる。

座古　自分も大人になってみて、きちんとした世の中を作ってこられたのだろうかという忸怩たる思いがあるんです。困難を抱えている人……経済的事情や、身体的・心因的事情で困っている人は世の中にたくさんいるし、どんどん増えています。そこに対しては、もっと救いの手を差し伸べてほしいし、何より気がついてほしいという想いが第一にあるんです。今風の言葉で言う「自助で生きろ」では決してなくて。

誰もがお腹いっぱい食べられる世界に

——物語の最初のポイントが、幼いゆいとケットシーの出会いのシーンです。

座古　ケットシーは、社会のセーフティネットから漏れてしまった存在です。そうした「可視化されていない困窮者」って、大人も子どももたくさんいます。ケットシーはそうした人たちの代表なんです。彼らの何がつらいのかって、「助けて」と言えないところ。言ったところで、なかなか助けてはもらえない。あらゆる苦難を背負い、なんとか生きてきたけど、明日も生きられるかは分からない。

——そこで自然に手を差し伸べられたのが、ゆいなんですね。

座古　そこは本当に純粋な気持ちですよね。元気がない人を見たら「どうしたの？」って声を掛けてあげるとか。「だったらごはん食べようよ」って。弱い立場の人を見たら、「お前の努力が足りないからだ」と自己責任論で斬り捨てるのではなくて、目線を合わせて「話を聞くよ」って、一緒に生きていける道を探そうとする。そういう世の中であってほしいんですね。

——もうこの時点で、ゆいはヒーローですよね。

座古　そうなんです。本当にナチュラルボーンヒーローというか。道で出会った知らない子を、いきなり家に上げてごはんを食べさせてあげるって、普通は思いつかないですよね。「ごはんは笑顔」という言葉を大切にしているゆいとしては、元気がなさそうな子を見かけたので、「じゃあごはんを食べて元気になろう」と思ったんでしょうね。その純粋さがケットシーに響いたんでしょう。

——幼い頃のケットシーが独りぼっち

16 プリキュアvsドリーミアロボ Ⓩ

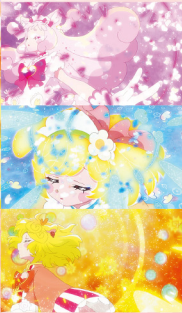
マリちゃんと拓海とも再び合流。暴走するケットシーは、ドリーミアをロボ形態にして砲撃開始。そのミサイルは、移動用ドローンと同じ見た目のエビFLYだ。「平和利用としてのドローンと、兵器である砲弾という両極端のものを同じデザインにしています。自分の発明を大人たちに軍事転用されるという悲しみを抱えているケットシーですが、それを使用する自分もまた、矛盾した汚い大人であると苦しんでいます」（座古）。ケットシーに想いを馳せるゆいとコメコメは、自分たちにもやれることがあるはずだと決意！

ケットシーの目的 Ⓣ 13

園長の部屋にやってきたゆいたちに、満腹でお腹パンパンのコメコメたちがへばりつく。手塚さんが考えた、コミカルなギャグ演出だ。だがこの直後のケットシーは、マリちゃんを元に戻してほしいというゆいたちの言葉を聞き入れないどころか、純粋な世界には大人は邪魔だと歪んだ内面を露わにする。そして、ゆいが昔会ったお子さまランチの女の子だと知って激しく動揺し、警備ロボットをけしかけてきた。

闘えないゆい Ⓣ 14

変身して応戦するスパイシー、ヤムヤム、フィナーレだが、ケットシーが何者なのかを知るゆいと、自分の想いを応援してもらったコメコメはその場から動けずにいた。ここでケットシーは特別イベントが始まると園内にアナウンス。子どもたちを避難させるため、気球で空へと逃がすのだ。「ケットシーは、子どもたちには純粋に楽しんでもらいたいんです。子どもたちも一度も怖い思いはせずに一日を過ごしました」（座古）。そして、エンジンの中にあるスペシャルデリシャストーンを発動。それにより、ケットシーの想いが幻となってあふれ出る。

一緒に生きていける道を探そうとする世の中であってほしい

15 ケットシーの悲しい真実 Ⓩ

ケットシーの過去は、幻想的な影絵調で描かれる。発明したエネルギーをみんなの幸せのために使おうとしていたのに、悪い大人たちに裏切られたという内容だ。「ケットシーは怒りのあまり、科学者たちをぬいぐるみにし、悪意に呑まれてしまいました。苛酷なシーンなので、ファンタジーな方向にして寓話的な見せ方にしています」（座古）。科学者たちはケットシーの才能を利用するために養育してきた。「君を家族のように育てた甲斐があったな」というセリフは、それを明確に見せるために座古監督が付け加えたものだ。

17 お子さまランチドレスに変身 Ⓩ

ドリーミアロボのビームで、プリキュアもぬいぐるみに変えようとするケットシー。その前に、コメコメたちが小さな身体で立ちはだかった！　ビームが想いの力でエネルギーに変わるのなら、『なりたい自分になる』という強い想いも、このビームに作用するのではと……。見事、エナジー妖精もお子さまランチドレス姿に変身した！

だった理由は、劇中では特に言及されていませんね。

座古　僕のイメージでは、親からのネグレクトです。ただ、「弱い立場の恵まれない子ども」というのは伝わったかと思います。ドリーミアの地下にある子ども部屋の落描きを見て、大人が想像力を働かせればなんとなく分かるという範囲に留めています。

――一方、映画中盤のお子さまランチを振る舞われるシーンはとても明るいですね。

座古　コロナ禍でミラクルライトでの応援ができない中、プロデューサーからの要望でもあった「アトラクション感」をどう入れ込もうかと。そこで、料理を作るシーンで音楽を流し、客席で手拍子できたら、きっとお客さんの一体感が出るだろうと思いました。つまり「誰もがお腹いっぱい食べられる世界」というドリーミアの「善」の部分を見せる意図でもあります。この園長の部屋のやりとりで、コメコメにとってのケットシーは「自分の気持ちを分かってくれる味方」となりました。

発明王になるのは本意ではなかった

――そんなコメコメはお子さまランチドレスに変身後、プレシャスと共に大活躍します。二人のコンビ感に目がいきますね。

座古　決意した二人がギュッと手をつなぐのは、田中仁さんの脚本にも入っていました。この映画は、ゆい、コメコメ、ケットシーの三者が軸で、ヒーローとしてはコメコメはゆいと共に並び立つ存在。なので、やはりこの二人に集約するようにバトルの流れを組み立てて、そこが引き立つように演出しています。

――コメコメがいきなり「2000キロカロリーパンチ！」を出せたのは驚きました（笑）。

座古　確かに前振りなく出しましたね（笑）。でも、ドリーミアのスペシャルデリシャストーンの力で、コメコメは自分がなりたかったコメコメになれましたからね。それに、ケットシーを助けたいと思った時点で、コメコメも十分ヒーローだと思います。

――終盤、人の姿のケットシーと共に光のお子さまランチを食べるシーンが、テーマ的な帰結点ですね。

夕景での親子の再会 Ⓚ

ぬいぐるみにされていた大人たちも元に戻り、何も知らない子どもたちとドリーミアを後にする。「たくさんの親子が仲良く帰っていく姿は、ケットシーにとって大切なことが一つ分かった瞬間です。この光景をケットシーがどんな想いで見つめていたのか、想像していただければと。ケットシーがずっと求めていたものが、ここにありました」（座古）

20

18

2人技からの7人技！ Ⓩ

スパイシー＆ヤムヤム、パムパム＆メンメンが、プレシャス＆コメコメを勢いをつけて送り出す。そして二人で放つ「4000キロカロリーパンチ！」がドリーミアロボに炸裂！　ロボが張ったバリアを破壊した。「ケットシーがやったことは、決していいことではありません。なので、そこに対する落としどころとして、バトルの爽快感は意識しました」（座古）。そのまま7人そろっての大技「プリキュア！プレシャスエターナルドリーミア！」へ。ケットシーの心を癒す技というコンセプトも、脚本段階から決められていた。なお、菱形でドリーミアロボを囲う画は、玩具のパーティキャンドルタクトで描ける図形と連動させている。

21

感謝と決意と激励 Ⓚ

罪を償うと言って去って行くケットシーに、コメコメは感謝の気持ちと将来への決意を懸命に口にする。それを聞いたケットシーは「ありがとう……それは素敵だね」とコメコメの頭をなでる。これは、なでられるのが好きなコメコメにとって嬉しいことをしてあげた、いわば感謝と激励の意味合い。「計3度のなでなでは、すべて貝澤さんのつけた芝居ですが、その意味を大きく変えてつなげたのも見事でした。ラストシーンの絵コンテをお願いしたのはわりと後だったのですが、逆算されたかのようにうまく着地しました」（座古）

ケットシーがずっと求めていたものがここにありました

22

ケットシーの再出発 Ⓚ

なごみ亭でお子さまランチデーが開催。ドリーミアでお子さまランチを食べなかった拓海も、意外なおいしさに満足気。そんなゆいたちの元へケットシーから手紙が届き、レストランを開いたことが知らされる。ゆいの描いた猫の旗を掲げるケットシーのショットは、座古監督による愛情あふれる追加カットだ。

19

悲しみも分かち合いたい Ⓚ

素顔のケットシーとの対話。プレシャスとコメコメが寄り添うことで生まれた光のお子さまランチを、3人でもぐもぐと味わう。立場の違う者同士の「心のシェア」だ。「抽象化された『人の心』を頬張るイメージです。プレシャスの変身シーンにもちょっと似ていますね」（座古）。まばゆい光の空間の中、ケットシーの後方で過去の映像がダークに渦巻きながら流れるのは貝澤さんのアイデア。プレシャスの涙が光のお子さまランチに変化するのは、座古監督が加えたシーンだ。

座古　そうです。これまでずっと「ごはんは笑顔」とか「シェアリンエナジー」と言ってきたゆいが、「笑顔だけじゃなく、今がつらいという現状も共有（シェア）する」んだということです。ここに着地させることは、一番最初のプロットから決めていました。

――ゆい自身はこれまで家族や地域に恵まれ、笑顔いっぱいで暮らしてきました。けれど、いつかどうしようもないことが「誰にだって起きるのかもしれない」という気づきですね。

座古　メインスタッフみんなのやりたいことが一致していたからこそ、ここに辿りつけたのかなという気がします。

――EDのケットシーはシェフになっていました。科学者の道からは卒業ですか？

座古　ケットシーの生きる力の原点は、ゆいからのご馳走なんです。ドリーミア自体、その具現化ですからね。ただ、科学者の悪意を実現するための研究に加担させられた結果でもあった。だから今度はシェフとして、自分がかつてなごみ亭でゆいに幸せにしてもらったのと同じような形で、直接子どもや大人たちを幸せにしたい。そういう仕切り直しの気持ちだと思うんです。

――この映画を2度3度観る上でのポイントは？

座古　映画を見終わった後に、ケットシーがプリキュアと一緒に笑顔でお子さまランチを食べている宣伝スチール（P．7参照）を見ると、ぐっとくると思います。ケットシーはコメコメにあーんして食べさせてもらっていますが、これまでの人生でこういうことは一度もなかったのかもしれません。そういった視点でもう一度映画を観ると、かなり感じ方が変わると思います。ケットシーの純粋な気持ちや、それゆえの悲しみを、皆さんとも分かち合えたら嬉しいです。

MOVIE

本当は大人だってやり直せる

脚本 **田中 仁**

多くの人々が物質的、精神的に生きづらさを抱える現代。すぐそばにいる人たちへの温かなまなざしや、心をシェアする大切さをあらためて感じたい。

八方塞がりな世の中で苦しい思いをする人々

――扱うお料理がお子さまランチで、そのテーマパークが舞台というのは、村瀬亜季プロデューサーからの最初のお題としてあったようですが。

田中　『映画スター☆トゥインクルプリキュア 星のうたに想いをこめて』でも村瀬さんとはご一緒しましたが、最初にきちんと要望を言ってくださる方ですね。パムパムとメンメンが人の姿になることも含め、子どもたちが観たいものが提示されていました。その上で僕なりに考えたことがあって……ここから結構重い話になっちゃうんですけど（笑）。

――大丈夫ですよ（笑）。

田中　『プリキュア』である以上、子どもたちが楽しめるものであることは必要ですが、僕は映画を通して訴えたいテーマを考えてしまうタイプなんです。それで、今の時代や今の社会状況ってどうだろうかと考えた時に、ここ10年ほど、経済的に極めて苦しい人や、社会からこぼれ落ちて、這い上がれないでいる人が増えている気がして。この脚本を書いた２０２１年末頃から、それをより顕著に感じるようになりました。僕はロストジェネレーションと呼ばれる世代で、20代の頃はまさに就職氷河期の就職難でした。それが現在の状況の遠因にはなっているんですけど、今はそこからさらに悪い方向へと進んでいて。

――世の中の閉塞感は、確かに大きいですね。

田中　どんなに努力しても八方塞がりで、みんなもう自分の将来が見えなくなっている。これは、もはや個人や家庭の頑張りではどうしようもなく、社会システム自体が壊れているってことなんですね。今年の映画のテーマを考えるとしたら、ここしかないのではないかと。そして監督の座古（明史）さんも、僕と近しい思いを抱いていたようで……。

――座古さんは、以前から社会的弱者への目線を大事にしていますからね。

田中　そうなんです。脚本には当然、座古さんの意向も反映されるわけですが、一緒に話をしていく中で、「座古さんなら、僕が気にかかっている社会問題を絡めたテーマを、いい形で描いてくれるのでは？」と、自然と思えたんです。アニメは集団作業なので、それぞれの描きたいものを結びつけて形にするんですけど、今回は最初からそこが一致していた気がします。

――そこがケットシーとして結実したわけですね。

田中　ええ。ケットシーのバックボーンには今回のテーマを託していますが、プリキュア側はその真逆、つまり幸せな状況に置かれている人たちです。苦しい人たちが増えていると言いましたが、一方で幸せな人たちもたくさんいる。つまり両方が併存していることを描きつつ、それぞれの立場からお互いに寄り添っていくということです。「社会全体がガラッと変わってすべてが幸福になる」というのは、さすがにファンタジーの世界でも描けません。ならば、答えが見つかるまではいかなくても、せめて心を通わせることができれば、それはとても大きなことなんじゃないかと……。そこを映画の落としどころにしようと考えました。

一緒に食べることは気持ちを分け合うこと

――プリキュア側の軸としては、コメコメのゆいへの憧れ。それをお子さまランチに対する葛藤という形で描いていますね。

田中　そこは、村瀬さんからのお題をまとめる上で、もっとも苦労したところです（笑）。扱うお料理と物語がちゃんとリンクしないと、どうにも構成がまとまらないので。そこでTVチームの皆さんにヒアリングしたところ、コメコメのゆいへの憧れは、第1話の出会いの時点から始まっていると。ならばそこを出発点にして、コメコメの話を膨らませようと、早い段階で決まりました。

――コメコメが、お子さまランチを本心では食べたいけど、子どもっぽさを気にして「食べない」と言ってしまうのは、お子さまあるあるな感じです。

田中　そういった描き方は、普遍的な子どもの感情を持ってきました。先ほど、テーマとしては大人の社会の問題だと言いましたが、やはり暮らしを営む上で、大人と子どもの関わりは切っても切れません。そこを踏まえた上で、「お子さまランチは誰が食べてもいいんだよ」というふうに持っていきました。大人になったら社会に出て、様々な問題に立ち向かわないといけない。でも、子どもの頃に大切にしていた思いを、すべて捨て去る必要はないということ。実際、お子さまランチは大人が食べてもおいしいですからね。

――むしろそういった心こそが原動力になったりするのかもしれません。

田中　さらに村瀬さんは、『デパプリ』の作品テーマの一つでもある「シェア」も入れたいと。つまり物理的に食べ物を分け合うだけでなく、心を分かち合うということですね。そこが最後の対話でのプレシャスの言葉になっています。

――自分はお子さまランチを食べる「資格がない」とケットシーが言ったのは、純粋な子どもではなくなってしまったことへの悲嘆なのでしょうか。

田中　そういうことです。ケットシーは、「大人をぬいぐるみに変えてしまう」という自分の行為を、一応客観視できているんです。それが暴力的で非道であると認識した上で、でもそうせざるをえない。そんな自分は、もはやコメコメのように純粋に夢や憧れを語れる存在ではないから、お子さまランチを食べる資格がないと。そういうギリギリなところに追い詰められている心境なんです。

――ネットスラング的に言うところの「無敵の人」を思い出します。

田中　表面化しているそういう人はごく一部かもしれませんが、現実には結構いると思うんです。そこも意識して書きました。いわゆる「失われた30年」って、多くの人が「自分の夢を叶えるために社会に出て頑張る」ではなく、もっとサバイバル的に「食べるために社会に出て頑張る」ことを強いられてきた時代です。そして、そのしんどさから抜け出せずにいる人が大勢いる。どうやって生きていくのか、どうすれば生きられるのか。その答えが見つからず、苦しさはどんどん大きくなる一方なんです。

地下の子ども部屋はケットシーの深層心理

――劇中でケットシーと多く接点を持

つのは、ゆいではなくコメコメですね。

田中　そこは、コメコメが一番「純粋な子ども」だからです。今のゆいは、子どもと大人の中間の存在です。ゆいは幼少期にケットシーと出会い、その後は順調に大人への道を進んでいる。一方、今のコメコメはケットシーと出会った頃のゆいの精神年齢に近く、ヒーローのようなゆいに憧れている。元々ケットシーを知っていたゆいと、今ケットシーと知り合ったコメコメが、それぞれの心情を重ねながら、未来に思いを馳せるという構図にしました。

――ケットシーは何歳くらいの想定なのですか?

美術ボード

ドリーミア全景

お料理を模した様々なアトラクションがたくさん。しかもフードコートではどんな子どもも食べ放題という、どこか巨大子ども食堂のようなニュアンスも感じさせる。なお、田中さんによれば、このドリーミアは元々ロボット形態で飛来し、おいしーなタウンのはずれに着陸したという。

おむすびタワー

パンの観覧車

ラーメンコースター

プリンのトランポリン

田中　20歳は越えているイメージです。ただ、幼い子どもであるコメコメとも通じ合える部分はたくさんあります。昔の大人は今よりも立派に見えて、子どもは大人に守ってもらうという認識がありました。だから「子どもは大人の言うことを聞きなさい」といった感覚があったと思います。でも今はそれが崩れています。その理由の一つに、大人たちが自分に自信を持てなくなっているというのはあるでしょう。僕自身も40歳を越えてみて、言うほど大人になってないなって思いますしね（笑）。

――ケットシーをドリーミアの園長にした狙いは?

田中　この映画の全体的なイメージとして、『チャーリーとチョコレート工場』（ロアルド・ダール著『チョコレート工場の秘密』）があったんです。『チャーリー』のウォンカ社長の工場のように、ケットシーのしたいことが具現化したのがドリーミアなので、そのオーナー的存在ということで園長にしました。地下にある部屋はケットシーの深層心理の世界です。ドリーミアの内部に進んでいくと、その心に近づいていく。表は子どもたちを純粋に楽しませたい世界で、裏はケットシーの苦しみが具現化している。子どもたちには見せたくないものだから地下深くにしまっていたのに、アクシデントでゆいたちが踏み入ってしまった。

――奇妙な子ども部屋みたいな場所でしたよね（P. 43）。

田中　ぬいぐるみなどの子どもっぽいものが詰め込まれている、ケットシーの一番コアな部分です。そこでケットシーとしては「見られてしまった！」という思いが強く出て、意図をばらしたわけです。そこは『チャーリー』とは違う部分ですね。『チャーリー』のウォンカ社長は、あくまで歪んだ思想の中で「これが楽しいだろ?」という感じでもてなしましたから。

猫の着ぐるみはヒーローへの変身

――ケットシーの名前の由来は?

田中　北欧神話の猫の妖精です。幼い頃のゆいがお子さまランチの旗に何の絵を描くかを考えた時、「猫かな?」となって。でも猫そのものだと、ドリーミアでケットシーを見た瞬間に気がついてしまう。それで、幼いゆいが描いた猫の絵がかなり拙くて、まるで妖精のように見えたというのはどうかなと。当時のケットシーには、ゆいが作ってくれたお子さまランチも含め、その旗がとても幻想的で夢があるものに見えたんですね。

――ケットシーはゆいの絵を元にした猫をテーマパークのイメージキャラクターにし、さらに着ぐるみの中に自分が入ったわけですね。

答えが見つかるまではいかなくても、せめて心を通わせることができれば

田中　着ぐるみは「本当の自分を隠す」という意味合いからです。ゆいに作ってもらったお子さまランチは、ケットシーにとって「みんなを幸せにしたい」と思う、大きなきっかけとなりました。そしてあの猫は、その志の象徴でもありました。大人に裏切られたことで挫折してしまったものの、それでも「せめて未来ある子どもたちだけは」と思い続けている。ケットシーは、ゆいのようなヒーローになりたかったんです。でも悪い科学者たちに加担して、しかも彼らをぬいぐるみに変えてしまった今の自分は、もはやヒーローではない。猫の着ぐるみは「素の状態では悪の自分が、ヒーローになるためのコスチューム」なんです。

――大人たちを子どもに戻すのではなく、動かないぬいぐるみに変えてしまうという考えは、どこから出たのでしょう?

田中　ケットシーの中では、大人に対する憎悪が大きすぎるんです。「大人はやり直せないし救えない」と。でもそれは、ケットシーの勝手な思い込みです。実際、ケットシー自身がラストで再出発していますよね。自分の原点に立ち返り、一歩を踏み出すことができました。つまりその意味で、大人も子どもと変わりはないんです。大人だって、いくらでもやり直せるんです。

――もしケットシーの大人排除計画が完遂されていたら、大人であるケットシーは自分自身をどうするつもりだったのですか?

田中　そこは、最終的に自分を排除していたと思います。すでに自己否定はしているんですけど、それ以上の手段をとったはずです。すべての大人をぬいぐるみにした後で、自分も同じ道をたどるつもりだったのでしょう。

――最後に、映画を観たファンへのメッセージをお願いします。

田中　ケットシーの話をたくさんしてきましたが、主人公はあくまでもゆいとコメコメで、プリキュアがケットシーの心を救う王道ストーリーには違いありません。子どもたちには、あくまでゆいたちの目線で映画を楽しんでもらいたいです。でも、ケットシーの気持ちは大人には分かると思うんです。物語を全部知った上で何度か観ると、きっとケットシーの心情を理解できるのではと思います。僕らが忍ばせたテーマを、今の子どもたちに全部感じてもらいたいとは思っていません。でも、もし成長してこの映画を見返すことがあったら、作り手たちが世に訴えたかったことはこういうことなのでは」と気づいてもらえるかもしれないなと。そんな意味でも、子どもたちに向けた作品であると思っています。子どもも大人も、作中のお子さまランチのように、ぜひこの映画を楽しんでもらいたいです。

美術ボード

園長の部屋

地下の一室。会議室のようにズラリと赤ちゃんロボットが並ぶテーブルはインパクト大。一見ファンシーだが、カットによってはホラー調で、ケットシーのダークな部分も見せている。椅子が大人サイズの幼児用ハイチェアであるのも、子ども時代への屈折した憧れを感じさせる。

たなか・じん
1976年生まれ。フリーの脚本家。シリーズ構成作品に『ゆるキャン△』『ラブライブ！虹ヶ咲学園スクールアイドル同好会』ほか

コメコメ 人の姿
子どもらしいハイウエストのワンピース。ゆいに憧れているためか、大きな襟やリボン靴などゆいの映画用私服との双子コーデ感も。「ちなみに裾に付いているのはキツネマークです」（松浦）

パムパム 人の姿
お嬢様っぽいフリフリのワンピース。おしゃまなイメージだ。パムパムとメンメンの人の姿は、声優の芝居やTV本編のキャラ性を念頭に描かれた油布さんのラフが元になっている。「パムパムはここねとのおそろい要素として、ハイソックスも検討しました」（松浦）

メンメン 人の姿
サスペンダーのハーフパンツがかわいい。「チャイナボタンも油布さんの原案そのままです」（松浦）。なお、エナジー妖精の映画用私服はすべて半袖で統一されている。

和実ゆい 映画私服
トップスは大きな付け襟とふんわりした袖。ボトムは膝上スカートだが、ハイウエストなので、丈が短い印象にはなっていない。「参考用に小中学生のファッション誌も読み漁り、大きな襟がアニメ的でかわいいと思ったので取り入れました」（松浦）

芙羽ここね 映画私服
「ここねはアニメ本編だと子どもらしさがあって、すごく純心な子という感じだったから、テーマパークに遊びに行く時くらいは子どもっぽい服装でもいいのかなと」（松浦）。ふんわりした上着の下は、裾広がりの長いブラウスと短いキュロットだが、フォルムとしてはミニのワンピースにも見える。

華満らん 映画私服
パンダ推しのゆったりしたパーカースタイル。「ほかにもクールなポップスタイルとかもあったけど、パンダパーカーが好評で（笑）。腰の辺りについてるパンダはポケットなんです」（松浦）。スカート丈は膝下だが、裾広がりで活発な印象。フードはドリーミアの地下を歩くシーンでかぶっているが、助監督の手塚江美さんがこの設定をうまく生かした。

菓彩あまね 映画私服
全体にスラッとしたフォルム。デザイン時はまだTV本編ではジェントルーだった頃で、性格や嗜好がつかめず、どんな服が着たいキャラなのか苦労したとか。「春私服がお嬢様ドレスっぽいので、それに合わせてフリフリにしてもよかったんですけど、一人だけ浮きそうだったのでカジュアルに」（松浦）。ロングスカートの裾がシースルーなのが凝っている。

猫さんとの夢の国

総作画監督・キャラクターデザイン 松浦仁美

まつうら・ひとみ
フリーのアニメーター。「プリキュア」シリーズではTV・映画の作画監督のほか、『映画プリキュアミラクルユニバース』のキャラクターデザインを務める

MOVIE

複雑な内面性を持つケットシーと共に、一見楽しいドリーミアにも様々な側面が。プリキュアとエナジー妖精は、ランチョンマットを背負ったような鮮やかなエプロンドレスで、世界を明るく照らしてくれた。

TVの私服設定とのバリエーションを

——映画の総作画監督のオファーを受けての感想は?

松浦　とても光栄でした。総作監をまかせてもらえるというのは、それだけ信頼いただき、実力を認めてもらえているってことなので、ありがたいです。私としても、監督が座古（明史）さんだと聞いて「これはお受けせねば！」というのはありました。私は（座古さんがシリーズディレクターを務めた）『フレッシュプリキュア！』の大ファンなので！

——そうなんですね。

松浦　放送当時からずっと『フレッシュ』の大ファンなんですよ。だから座古さんをすごく尊敬しています。座古さんにも直接『フレッシュ』のあの回の絵コンテのこのシーン好きです！」とかお伝えしました。座古さんが監督された『映画Go！プリンセスプリキュア パンプキン王国のたからもの』にも原画で参加しましたし、『映画プリキュアオールスターズ 春のカーニバル♪』も、『フレッシュ』のMVパートで参加させてもらいました。でも「プリキュア」シリーズは、基本的に仕事をお願いされたら断れません。

——映画用のゆいたちの私服はどのようにデザインしましたか?

松浦　座古さんからは特に注文はなかったので、わりと自由にやらせてもらいました。私は元々、子ども向けの服のデザインを描いたり見たりするのが好きなので、若い女の子のファッションのお店を見に行って、今の流行りを調べたりしました。ただ、ちょっと現実感のあるデザインになってしまった気も。

——確かに現実感はありますが、どれもおしゃれな秋色ですよね。

松浦　TVの私服と同じような色合いだと、新設定感がないので、本当は全然違う色にしたかったんです。ただ、キャラカラーから外れることはできなかったので、トーンを変えただけというか。化けコメの服も、私が最初に描いたデザインだと、もっと落ち着いた色味でした。小学校の入学式で着るようなフォーマル服っぽい色で。

——パムパムとメンメンの人の姿は、TVのキャラクターデザインの油布京子さんが原案だそうですが。

松浦　はい、そうです。ただ、油布さんの原案はウエストショット一枚だけだったので、そこから全身や表情参考などの設定を私が作りました。最後にお子さまランチドレスになるので、本当は落差を出すために、パムパムは映画のコメコメと同じような現実味のあるシルエットでそろえたい気持ちもあったんですが。

——3匹がそろって人の姿で出てくるのは映画オリジナルの展開ですが、作画時に意識したことなどは?

松浦　人の姿でドリーミアで遊ぶシーンの絵コンテは貝澤（幸男）さんでしたが、めちゃめちゃ楽しくてイキイキしていたんですよね。この子どもらしい楽しさをしっかり再現できていてありがたかったです。妖精姿だと、園長の部屋でコメコメがケットシーに持ち上げられるところが一番かわいくて好きです。

ケットシーの性別は観た人それぞれの解釈で

——ケットシーのデザインのポイントを教えてください。

松浦　設定としては着ぐるみですが、生きているように動くので、表情参考やポーズ集で面白さを出そうと思いました。

——『不思議の国のアリス』のチェシャ

お子さまランチドレス
プリキュア

背中にあるギンガムチェックの巨大なリボンが特徴。集合カットでは、リボンは小さめにアレンジして作画された。「柄も含めて、ランチョンマットみたいなイメージです。空を飛ぶと映えるだろうと思ったんですが、集合カットでは大きすぎて邪魔でした。ちなみにスパイシーのトップの髪はクロワッサンになっています」（松浦）

お子さまランチドレス エナジー妖精

コメコメとパムパムはスカートやブーツなど共通する要素が多い。メンメンはその男の子版。「コメコメの羽は、プレシャスに対する憧れから、通常変身のプレシャスの胸のリボンに寄せています。メンメンはどこまでかわいくしていいのか悩みました。防具っぽく足にどんぶりを付けたらダサいかなと思いつつ、恐る恐る出したら『いいじゃないですか』と言われました。イヤリングは、みんなペアのプリキュアとおそろいです。せっかく変身したので、パムパムとメンメンももっと描きたかったです」（座古）

猫みたいな雰囲気もありますね。ニンマリ笑う感じとか。

松浦　ケットシーは猫の着ぐるみですからね。「顔が怖い」と言う人もいますが、私としては、かわいいと思って描いています。ケットシーのぬいぐるみ、作ってほしいです。着ぐるみの構造としては、現実のテーマパークとかにいるマスコットキャラクターなので、頭の部分は普通に外れます。園内で子どもたちに風船とかを配って、人気者になっているイメージです。背中に大きなチャックが付いているのは、座古さんのアイデアです。

——ケットシーが乗っているエビフライ型ドローンのアイデアは？

松浦　私が考えました。正式名称は「エビFLY」です。もう一つの案として、タコさんウインナー型メカのデザインもありました。普通のメカよりは面白いほうがいいと思いまして。エビFLYが採用された後の改訂版コンテでは、そこからシャボン玉が出たりとか、貝澤さんがさらに、謎のギミックを足してくれました。

——ドリーミアには従業員ロボットもたくさん登場します。

松浦　ほぼ私のデザインです。頭がキューピーみたいなのは、座古さんが描かれた大ラフでそうなっていたんです。警備ロボットの赤い目はサングラスではなく、液晶みたいなモニターが光っている設定です。本編ではずっと赤い怒り目でしたが、一応そこで表情変化がつくように考えていました。

——人間姿のケットシーのデザインで意識したことは？

松浦　まず私は、男だと思ってデザインはしていないです。男か女かは言及しないと指示に書かれていたので、どちらにも見えるようにしたつもりでした。映画を観た人が感情移入しやすいほうで捉えてもらえればと。体格は、男性としては小さいけど、女性としては大きめです。子どもの頃から栄養不良でしたが、もし女性だとしたら、その割には成長できた感じはあります。ただ、対比的に大人に見えないといけないので、ここねより背を低くはできなかったんですね。服であいまいにしていますが、ガリガリにやせています。とはいえ、ゆいたちも全体的に細いから、そこまで目立った細さに表現できませんでした。本編の作画では、ふっくらして見えないように修正を載せました。

——子ども時代のケットシーは、大人の姿からの逆算ですか？

松浦　そうです。でも、もっと髪を長くしたほうが中性的な感じになったかな。髪はボサボサで長さも非対称だし、なぜかサイズの合わない靴と服を身につけている、やせた子どもです。観た大人にはいろいろ伝わってほしくて。

かなり気合いを入れた子ども時代と対話シーン

——クライマックスのお子さまランチドレスも工夫が凝らされていますね。

松浦　連動玩具の都合でプレシャスとコメコメを先に作ってほしいと言われたんですが、その段階ではプレシャスのモチーフはオムライスでしたね。結局おむすびになりましたが。スパイシーのモチーフがフルーツサンドで、ヤムヤムがナポリタンなのもレシピッピに合わせています。それぞれのシンボルマークである三角、丸、棒（ライン）も入れてほしいという、TVのプロデューサーからの要望も入れ込んでいます。フィナーレはデザートのプリン。キュアカスタードや、キュアマジカルのトパーズスタイルもちょっと頭をよぎりましたが。背中には4人ともチェックの大きなリボンをつけてあります。

——エナジー妖精のお子さまランチドレスは、背中に羽が生えますね。

松浦　コメコメの羽は紐リボンで、パムパムはそのまんまパンです。メンメンは元々生えているドラゴンの羽が大きくなった感じです。実は、おむすびフォーム、サンドイッチフォーム、どんぶりフォームのプリキュア化のようなイメージなんです。コメコメのスカートやおむすびパーツについているのはキツネマークです。

——この他、松浦さんがデザインしたものは？

松浦　原画マンさんにお任せしたものはお料理くらいで、あとはほとんど私のデザインがあります。ドリーミアでのお皿とかのプロップ周りも、ほとんど起こしました。

——松浦さん自身が作画監督に入ったパートはどこですか？

松浦　私の作監量が一番多いです。総作監という肩書ではありますが。一番じっくり向き合えたのは、子ども時代

ケットシー（大人）

人の姿のケットシー。下げているパスケースには、幼い頃のゆいが描いた猫の絵がある。「デザイン含めて、男女どちらでもないイメージです」（座古）。「下はタイツではなくズボンです。緑髪にしたのは、単純に「デパプリ」に緑のプリキュアがいなかったからです。でも、TV の敵キャラたちが緑でかぶってしまったので、赤か薄紫の髪でもよかったなと今では思っています」（松浦）。ED では後ろで髪を一つにまとめている。

ケットシー（子ども）

ゆいと出会った時のケットシー。ゆいのお子さまランチを食べたことで、目に光が宿る

エビ FLY

ケットシーが園内を移動するのに使うドローン。田中仁さんの脚本でも、発明王らしくドローンに乗って移動する記載がある。「エビフライ型かタコさんウインナー型かは貝澤さんと相談して決めましたが、エビフライのキャラ表がすごく面白くて。エビ FLY って名前もいいなと思いました」（座古）

お子さまランチのレシピッピ

お子さまランチのレシピッピの作画用デザイン。「とても愛おしいです」（松浦）

ぬいぐるみ化したマリちゃん

「これまで実際に発売された『プリキュア』のぬいぐるみに雰囲気を合わせました。私物のキュアアースのぬいぐるみを参考にして、全体のバランスやデフォルメ感を取り入れています。実際のマリちゃんのぬいぐるみ商品は、このデザインとは関係ないです」（松浦）

拓海の友達

品田拓海 映画用私服

拓海は春私服と同系色だが温かそうな装い。ドリーミアに一緒に遊びに来ていた友達二人は、ED のなごみ亭のシーンでも登場している。「拓海の服も TV と色を変えたかったんですが、同系色からは逃げられませんでした。ウインナーのパーカーは、灰紺に紺で隠し味ぐらいに入れ、カッコいいパーカーのお遊び要素のつもりだったんですが……」（松浦）

ドリーミアロボ

テーマパーク形態から移動・戦闘用ロボットに変形。実はドリーミアは可変メカだった。デザインは『ガンダム』シリーズの MS デザインで知られるカトキハジメさん。「足がもう、実にカトキさんですよね！　移動できるロボにしたいというのは、田中仁さんの案です。足が生えた要塞みたいな形状だけど、ケットシーが操縦している場所は分かるよう顔を付けました。最初は巨大なケットシーの頭部がそのまま乗っているデザインだったんですが、ちょっと怖すぎたので板状にしてもらいました（笑）。蝶ネクタイ部分が操縦席で、カメラが寄った時にはケットシーの表情が見えます」（座古）

▲ドリーミアロボを上から見た図。エビ FLY をミサイルとして周囲から発射！

迷子の少女とその姉

幼い女の子がドリーミアで迷子になっており、ゆいがお姉さんと引き合わせてあげた。「貝澤さんの絵コンテで、姉妹おそろいの大きなキャスケットをかぶっていたんです。それがすごくかわいくて！　ただ、キャスケットだとちょっと渋いかなぁと思ったので、ケットシーをイメージしたフワフワな帽子にしました」（松浦）。そこから、この帽子をドリーミアのグッズと位置づけて、モブの子どもたちもかぶることとなった。

の美しい思い出のところ。クオリティも高く、「今、映画の仕事をしているんだ」と実感したシーンです。

――エンドクレジットでは、作画監督の筆頭に廣中美佳さんのお名前がありますね。

松浦　最初から作監に決まっていたのは、私と廣中さんのみです。おかげで楽しいアニメになりました。ものすごく感謝しています。

――松浦さんと廣中さんは原画でもクレジットされていますが。

松浦　私は、ラストバトル後のイメージ空間でプレシャスとコメコメがケットシーと対話するシーンを担当しました。レイアウトを全部自分で描いて、ポイントになる表情カットの原画を描きました。廣中さんは、ゆいたちがマリちゃんと一緒にダストシュートに落ちた後の一連のシーンの原画を描いてくださいました。

――EDでは、シェフ姿のケットシーも登場しますね。

松浦　本当はもっとヘアアレンジしたかったのですが……緑の髪だから誰か分かるだろうと思って。でも座古さんから、「もっと面影を残してほしい」と言われまして。ラストのケットシーと仲間の設定も作ったのですが、そちらでは小さくしか映らなかったロボも笑っていますし、ケットシーの親くらいの歳のおばちゃんもいて、「大人に頼れるようになった」という心の成長を表しています。

――最後にファンへのメッセージをお願いします。

松浦　ケットシーが開発したドリーミアのロボットは子どもたちの味方です。真面目にお仕事をしただけで、悪いことはしていないんですよ。私にとってケットシーは悪役ではなく、ゆいたちに助けられるヒロインポジションでした。もちろん主役はプリキュアとエナジー妖精なので、その活躍を楽しんでいただけたら何よりです。ドリーミアに来ていただき、ありがとうございました。

ケットシーの気持ちは複雑に絡み合っている

ケットシー役 花江夏樹

はなえ・なつき
6月26日生まれ／神奈川県出身／アクロス エンタテインメント所属／「鬼滅の刃」（竈門炭治郎）、「機動戦士ガンダム 水星の魔女」（エラン・ケレス）ほか

ケットシー
子どもたちを幸せにしたい思いでドリーミアを作ったが、それは世の中への敵愾心の具現化でもあった。大人たちをぬいぐるみ化しようとする

ケットシー（着ぐるみ）
約2頭身。着ぐるみではあるが、生き物っぽい喜怒哀楽を見せる。後半のダークな状態では、牙のような八重歯も。「この尖った歯はケットシーが持っている狂気の象徴です」（座古）

――出演が決まった時はいかがでしたか？

花江　あの「プリキュア」に、しかも指名でオファーをいただき、嬉しく思いました。今作でとても重要なポジションの人物なので、監督から収録前にお話を聞いてキャラクターを作っていきました。ケットシーの想いをうまく表現できたらなと思いました。

――ケットシー（着ぐるみ姿）のデザインを見ての印象は？

花江　かわいいですね！　表情も豊かで、見ていて楽しい気持ちになりました！　でも、よく見ると目がちょっと怖い……（笑）。

――人間姿のほうはどうですか？

花江　人間姿のデザインがとても好きで、カッコよさとかわいさが両立していて、儚い感じがとてもいい。色も鮮やかで……。グッズ化してくれないかな～と思ってます（笑）。

――ケットシーは、あえて男女の設定がないそうですが、演じる上ではどのように考えましたか？

花江　初めにディレクションがありましたが、あまり意識しすぎても変になっちゃうし、指摘されたら直そうと思って、あえて男性的にとか女性的にというのは特段気にせずに自然体でやりました。

――ケットシーは、ストーリーの中での感情の起伏が多い人物です。それについてはいかがでしたか？

花江　ケットシーの中には自分の正義があり、それを信じてきたのだけど、本当にこれでいいんだろうかという気持ちもどこかにあって……そういった気持ちが複雑に絡み合って、いろいろな感情を生み出しているのではないかなと思います。着ぐるみ時は、まだどういったキャラクターなのか視聴者が分からない部分もあるので、意識的に怪しく見えるように切り替えている部分もあります。ただ、基本的にはケットシーが持つ信念に則って演じました。なので、「ここの気持ち、分からないなぁ」等はあまりなくて、演じる上でも悩みすぎることはなかったかなと思います。

――ケットシーは心に深い傷を負っており、大人たちを排除する行為へと向かいました。

花江　そういう気持ちを抱いても仕方ないと思いますし、僕もケットシーのような経験をしたら、たぶんそうなってしまうのかなと。なので、ゆいと再会できてよかったなと思いました。

――エピローグで、洋食屋として再始動したケットシーを見て、どのように感じましたか？

花江　少しでもその後の姿が描かれていて嬉しかったですし、ホッとしました。これからケットシーがどう歩んでいくのか、いろいろ想像してしまいますね。

――ほか、ケットシーの注目シーンを教えてください。

花江　バトルのラスト、みんなでごはんを食べるところですかね。ケットシーの心からの気持ちがあふれたシーンだったので、観ていて心が揺れました。

――ケットシーのファンへのメッセージをお願いします。

花江　素敵なキャラクターを演じられて幸せです！　ゆいやコメコメ、ケットシーの想いをこの先も大切にしてくださると嬉しいです！　ありがとうございました！

ドリーミア内で登場する様々なロボットたちも松浦さんのデザイン。「シンプルで懐かしい感じのデザインをお願いしました。ケットシーはやや退行願望があるので、ロボットのデザインもキューピー的です」（座古）、「本当は警棒はレインボーに光らせたかったです」（松浦）

『デパプリ』のヒーロー感を大事に

プロデューサー 村瀬亜季（東映アニメーション）

――映画全体として、エナジー妖精のフィーチャー度合いが高いですよね。

村瀬　クライマックスに3匹ともお子さまランチドレスになるので、そこまでのドラマを描いておかないといけなくて。パムパムとメンメンは、コメコメより年齢感が上なので、コメコメをそばで見守りつつ、コメコメの変化に一番気がつく役どころにしました。それに小さなエナジー妖精が大きなスクリーンで頑張るって、映画を観た方が感覚的に楽しめると思いまして。この3匹を活躍させるというのは、当初から私の要望として入っていました。

――コメコメがゆいのことをヒーローと捉えているのがポイントですよね。

村瀬　TVチームに「『デパプリ』はどういうプリキュアなんですか？」と最初にヒアリングしたときに、深澤（敏則／シリーズディレクター）さんが「ヒーロー感を大事にしています」とおっしゃっていたんです。それでストレートに「ゆいみたいなヒーローになりたい」とコメコメに言わせることにしたんです。

――脚本を田中仁さん、監督を座古明史さんにお願いした理由は？

村瀬　仁さんについては、元々70分フルの作品で考えていたので、ドラマ性がとても大事になるだろうと思ってのことです。いろいろな仕事でお忙しい中「大丈夫です」と快諾してくださいました。座古さんは、社内の製作部との相談でお願いしました。座古さんは、少女マンガみたいなキラキラ感もお上手な方だと思います。アクションもばっちりで、正攻法な緩急をつけるし、さらに聖母のような温かい慈愛の雰囲気も作ってくださいます。実は座古さんは、ごはんアニメが得意だったんですよね。『トリコ』のシリーズディレクターもされていたのを私が思い出したのは後からだったのですが（笑）。宣伝用スチールの段階から、座古さんはごはんのおいしそうな描き方にこだわられていました。

――後本萌葉さんの主題歌「ようこそ、お子さま♡ドリーミア」は、フルで聴くと8分という長尺の組曲風ですね。

村瀬　お子さまランチのテーマパークの歌を作りたい気持ちがあって、イメージが固まってきたところで音楽チームと話し合いをしました。ドリーミアは、地上の楽しい場所と、ケットシーの心に近づいていくような地下の場所という2面性があるのを、曲にも盛り込んでもらいました。そうしたら、びっくりするような長尺で作ったくださって（笑）。挿入歌、ED曲として複数個所で使用したので、皆さんの耳に残ってくれたのではないかなと思います。

MOVIE

最後はみんなのお子さまランチに

注文の多い料理店ならぬ、注文の多いお客さん!? オーダーを受けてのドタバタぶりが愉快痛快なお話だが、実は『デパプリ』らしいテーマもしっかり盛り込まれている。

監督・脚本

山元隼一

やまもと・じゅんいち
フリーのアニメーション作家。他の監督作品に『夫婦以上、恋人未満。』『彼女が公爵邸に行った理由』ほか

同時上映 わたしだけのお子さまランチ

『デリシャスパーティ♡プリキュア』『トロピカル～ジュ！プリキュア』『ヒーリングっど♥プリキュア』『スター☆トゥインクルプリキュア』の4世代のプリキュアが共演する同時上映パート。実はこれは2部構成で、長編映画『夢みる♡お子さまランチ！』がその間に挟み込まれた構成になっている。

映画全体のファーストシーンは、『わたしだけのお子さまランチ』の主人公＝「わたし」の入店。『デパプリ』チームがコックを務める「レストランシアター・プリキュア」へやって来た「わたし」は、まず店内で長編本編を鑑賞する。見終わると、再びレストランにカメラが戻り、『わたしだけのお子さまランチ』本編に突入するという凝った仕掛けだ。

映画を観た後のお出かけ気分で、「わたし」は「いまだ食べたことのないお子さまランチ」をオーダーする。その内容に、キュアプレシャスたちは四苦八苦。そこへ歴代プリキュアが手伝いにやってくるシチュエーションを、ギャグタッチで矢継ぎ早に見せていく。深いテーマのメインディッシュ（長編）に対して、まさに食後のデザートといった味わいだ。

プリキュアのみんなに会いに来ている感覚で

——今回の監督のオファーを受けての感想は？

山元　僕は深夜アニメとかの年齢層が高めのアニメファン向けの作品に関わることが多いので、ニチアサ作品を作れるのがまず嬉しかったです。それに自分自身、東映アニメーション作品を観て育ったし、これまでの『プリキュア』も観ていましたから、「まさか自分が関われるとは！」となりました。

——脚本としてもクレジットされていますね。

山元　最初は監督のお話だけでしたが、脚本の経験もあると話したところ「それなら脚本も」と。短編尺なので、話をまとめるのも自分で書いたほうがいいかなと思いました。プロデューサーの村瀬（亜季）さんからのオーダーは、「4シリーズをつなぐバトンタッチムービーみたいにしてほしい」というのと、「長編映画のモチーフである、お子さまランチを題材に」でした。あと、おおよそCG作品と決まっていたので、その表現の方向性を考えるところからスタートしています。

——構成としては、前説パートと同時上映パートの間に長編を挟む形です。

山元　村瀬さんとCGプロデューサーの横尾（裕次）さんと、最初3つプランを考えまして。1つはプリキュアが画面から現れて、女の子が寝ている間にお子さまランチを作ってくれる話。2つ目はプリキュアがお料理競争みたいな感じでお子さまランチを作っていくもの。3つ目がホームビデオみたいな感じで、リモート環境で各プリキュアが自撮り風の映像でお子さまランチを作っていくものでした。その中でピンときたのが、3つ目の自撮り風の映像というもの。主観映像みたいな要素があるので、VR映像のようにできたら面白いかもしれないなと。子どもたちは、TVにしろ映画にしろ『プリキュア』という作品を観る」という

プレシャスがお席へご案内

女の子＝「わたし」がお店に入って行く場面がファーストカット。「わたし」は観客自身なので、顔が見えるカットは一切ない。「最初に俯瞰のカメラから、ぐっと女の子の背中に寄って、そのまま女の子の体の中に入ってしまうようなカメラワークにしてあります」（山元）。また、この前説パートは映画全体の導入部でもあり、コメコメが差し出すメニューであらかじめ３部構成が明記されている。

キュアサマーのギャグ顔

「ここ、超トロピカってる～！」という言葉と共に、キュアサマーが登場。べちゃっと窓に貼り付くように、厨房の中を覗き込むのがいかにもサマーらしい。「『トロプリ』シリーズディレクターの土田豊さんから『こんな表情はどうでしょう』とラフ画をいただきました（笑）」（山元）。この表情は、さすがにCGモデルでは再現できず作画で対応。原画は中谷さんだ。

前説パートはアナログっぽく

映画を観る時のおやくそくパートは、『トロプリ』キャラクターデザイン・中谷友紀子さんが作画を担当。「全体的にハーモニー処理を行って、アナログ感を出しています。3Dだとデジタルライクなので、作画の部分はアナログチックにして対比にしました」（山元）。エナジー妖精とお料理をかわいくあしらったカウントダウンで、長編映画がスタート！

4世代登場の欲張り企画

プロデューサー 村瀬亜季（東映アニメーション）

——当初は70分フルで長編一本の予定だったそうですね。

村瀬　長編の脚本作業に入る段階で、併映作品も作ることが決まりまして。ダンスにするのかミニドラマにするのかといった方向性は、脚本を話し合う中で決めていきました。

——CG作品にした狙いは？

村瀬　やっぱり長編との差別化が大きいです。もし作画アニメにする場合も、特殊な処理を入れてちょっと雰囲気を変えたくて。それならばCGでやりましょう、という流れになりました。一部作画のカットもあるので、フルCGではないんですけどね。CG部分は、TVのEDダンスも手掛けているダイナモピクチャーズさんの仕切りで、表情付けも素敵にしていただけました。

——2017年の『映画プリキュアドリームスターズ！』以降、直近3世代が集まる映画は多かったですが、今回は『スタプリ』までの4世代が登場します。

村瀬　3シリーズまでだといつもの感じなので、さらに増やしたいという欲張り企画です（笑）。そもそも絶対3シリーズでなくてはいけない理由もないので、そこを崩してみたいという気持ちもありました。あと、『トロプリ』も春のコラボ映画がなかったので、個人的にキュアサマーたちを歴代プリキュアと共演させたくて。

——監督は社外の山元隼一さんですね。

村瀬　もし作画でやるにしても、面白い処理を考えてもらえる方にお願いしたくて、いろいろ調べているうちに、CGプロデューサーの横尾が山元さんを見つけてくださって。山元さんは、最近の挑戦的な作品にいろいろと携わっている方で、「プリキュア」は初参加でしたが、楽しいアイデアをたくさん出してくださいました。

完成形からの逆算で

「わたし」の要望は、「世界に一つだけのわたしだけのお子さまランチ」。そんなムチャ振りに応じて、歴代プリキュアがリレー的に食材を盛っていく。「4世代出すのはマストだったので、『スタプリ』ならコスモグミや宇宙要素、『ヒープリ』はオーガニックな要素、『トロプリ』はトロピカルな要素、これらを全部盛り盛りにした完成版を考えました。そこからの引き算で、各段階のお子さまランチのデザインを作ったんです」（山元）。オーダーの言葉の中に歴代のキーワードを入れることで、次に登場するプリキュアへの期待感も高める作りだ。「わたし」が描いたお子さまランチの絵は、イラストレーターのおおぬきかおりさんが担当。

★おおぬきさんは映画公開を記念したLINEスタンプのイラストも担当！
https://store.line.me/stickershop/product/20818747/ja

トロピカルな感じをプラス

そこにヒーリングっどな盛り付けも

隠し味に超キラキラな感じの宇宙を

厨房での会話劇

話の大半は、厨房内であれこれ相談する『デパプリ』チームの会話劇。「わたし」のシーンはハンディカメラ的に画面が動く主観映像であるのに対して、厨房内は固定カメラの客観映像。これらを交互に出し、さらに厨房シーンでは画角も使い分け、テンポ感を増している。「ヤムヤムが『さっき公園でトロピカルな子を見かけたよ～！』と言う時に吹き出しを使いましたが、言葉だけではなくハイビスカスを大写しにして、絵で見せました。それから効果音ですね。『トロプリ』なら波の音が聞こえてきたりとか。そうした細かい連携は、演出が音響監督もやる、東映アニメーションだからこそできた部分でもあります。画面と音の両面でリズムを作りました」（山元）

より、「プリキュアに会いに来ている」感覚だと思うんですね。

——そうかもしれません。

山元　ならばそこを最大限生かし、特化する形で、VRっぽく演出するのがいいのではと。「わたし」は自分（観客）のアバターにして感情移入しやすくし、プレシャスが語りかけてくれたり、手をつないでくれたりして、TV以上に「会いに来る」というイベント体験をより強くできるかなと。それで、メインとなる長編をシアターでプレシャスと一緒にまず観て、その後に……という構成を考えました。僕は『リトルウィッチアカデミア』のVRゲーム制作にも携わっていたんですが、せっかくの3Dだから主観映像にして、プレシャスとやりとりしながら話が進む形にすると楽しいかなって。

——4世代をつなぐバトンタッチムービーというお題については？

山元　そもそも尺が前説と合わせて8分ほどと、最初からきっちり決まっていまして。前説に2分使うので、本編尺は6分くらいしかない（笑）。その中で4世代をしっかり見せるには……ということで、ちょっと荒技を使いました。それが、『デパプリ』チームが要望を聞いて悩んでいる時に、歴代の子が即座に現れるというやり方です。

店の外にいたのが、名乗りポーズのカットを挟んで、次はもう部屋の中にいるという（笑）。そういう省き方で尺を稼ぎ、テンポ感を上げました。一人目のキュアサマーがお助けに現れた流れで「この作品はこういうルールです」と提示する。そうすれば、観ている子どもたちも「あ、きっと次も……」と先回りしてくれ、文字通り「かくかくしかじか」で全部いける（笑）。おかげで、説明を端折っても破綻なく進められたと思います。

——「わたし」が「こんなお子さまランチを」と次々ムチャ振りしていくアイデアは？

山元　仕事をしていて、クライアントから予想もしてなかった追加オーダーが入ることってありますよね。その都度、四苦八苦するけれど、それによって自分が思いもしなかった面白い結果や表現に結びついたり。きっと大人なら、誰しも経験があると思うんです。そういう実感を盛り込めば、お子さんと一緒に観に来た保護者の方も共感できるんじゃないかなと（笑）。

タイトルの変化は主人公の成長の現れ

——EDで、『わたしだけのお子さまランチ』から『みんなのお子さまランチ』とタイトルが変化していますね。

山元　「わたしだけのお子さまランチを作ってほしい」って、結構エゴな発想なんです。でも『デパプリ』のテーマは「喜びをシェアしたい」。ならば、そこに沿うよう、「厨房にいるみんなも一緒に食べよう」というラストにしました。「わたしだけの」から「みんなの」という、主人公の精神性の変化ですね。歴代プリキュアの想いが集まったからこそです。

——お子さまランチ自体は『スタプリ』要素が加わったバージョンが完成形ですが、テーマ的な意味では、それを複製してみんなで食べるのが完成形と？

山元　そういうことです。料理を作っておしまいではなくて、みんなでシェアして楽しく食べることで、お子さまランチが完成したんです。プリキュアと一緒に過ごす時間の中で、「わたし」もちょっと成長したわけです。

——プリキュアと妖精たちが勢ぞろいする絵は圧巻ですね。

山元　できることなら全員見せ場を作ってあげたかったんですが、尺の問題でなかなか難しくて。そこで、最後にズラッと出てもらいました。そんなこんなで、約6分という短距離を一気に駆け抜けました（笑）。

——EDのクレジットが、シアターの

場所は前期EDのホール

「レストランシアター・プリキュア」の店内は、実は前期EDでプリキュアが踊っているホールそのままで、そこに後期EDの椅子を持ってきている。既存モデルの流用だが、まるで前期EDのライブハウスのランチ営業時間のように感じられて楽しい。レストランの外観は新規CGモデルで、店内の形状に沿った丸い建物。「ドラマ『王様のレストラン』みたいな、まさにプレシャスな体験ができる、お高いフランス料理店のイメージにしています。『今日は特別な体験をしにきたんだ』という、お出かけの雰囲気を感じられればと。ホールに向かう廊下は、壁の絵を冒頭とラストで差し替えています」（山元）

天窓から降り注ぐ光

厨房のデザインは、キュアサマーが様子をうかがう窓や、キュアグレースが入ってくる勝手口など、ストーリー的に必要な要素を決めた上でモデリングされた。「窓と勝手口、あとは天窓ですね。画面だと天井のショットがないので分からないんですが、天窓があって、そこから陽射しが降り注いでるんです。あまり暗い部屋にならないようにしたいと思ったので。もちろん、キッチンらしい調度品や小道具も置いています」（山元）

キュアスパイシーCGモデル　キュアフィナーレCGモデル　キュアプレシャスCGモデル　キュアヤムヤムCGモデル

ご都合展開のメタギャグ

「わたし」の注文を調子よく聞き入れてしまうプレシャス。「デパプリ」チームは頭を悩ませるが、そのたびに都合よく歴代プリキュアがやってくる、繰り返しギャグだ。最後に、「隠し味が宇宙」の言葉が出た時に、スパイシーが開き直ったように、「超キラキラで宇宙な方、いらっしゃいませんかー？」と呼びかけるのが傑作。「『この世界のルールはこうなんだな』ってみんな分かりますよね（笑）。そしてやっぱりキュアスターが来てくれて……もう「世界」が応えてくれている感じ。ご都合主義を、愉快なギャグとして描きました」（山元）

アクターの尽力も

歴代も含め、各プリキュアの動きは手付けではなくモーションキャプチャがベースだが、作画っぽく見えるような動きを追加している。「CGアニメーターさんがモーションキャプチャのいい部分は残しながら、作画的なメリハリを加えてくれました」（山元）。モーションアクターを担当しているのは、キャラクターショーでプリキュアを演じているアクターの方々。「本当にお上手で、変身シーンのポーズも、モーションキャプチャ収録のその場で尺に合わせて調整してくださり、名乗りの最後の部分だけうまく使う形になりました」（山元）

コメディならではの表情芝居

——実作業はダイナモピクチャーズですが、どんなやりとりを？

山元　自分としては、かなり足並みそろえて作れた感覚がありますね。まず脚本ができた段階で一度打ち合わせをしたところ、ダイナモさんからモーションキャプチャでいきたいという話が出まして。それであれば、むしろ作画っぽいメリハリある感じに……話がコメディである分、表情も変化するので、そこを意識してもらいました。ずっと動き続けるのではなく、止めるところは止めることで作画っぽく見せ、キャラの表情付けもしっかりやりたいとお願いしました。作画の長編アニメを観た後にそのままCG作品が始まるので、モーションキャプチャでよくある滑らかすぎる動きだと違和感が出るだろうなと思ったんです。ダンスムービーならいいんですけどね。

そこまで一度詰めたところで、僕のほうで絵コンテ作業に入り、コンテが上がったところでまた打ち合わせ、という感じでした。

——山元監督が表情付けでこだわったところは？

山元　口元ですかね。CGは横顔が難しいので、横顔で口を開けた時とか。他には、プレシャスが「アフタヌーンティーいいなぁ」というカットの、少し変形させた口の形ですね（写真左）。また、『デパプリ』キャラクターデザインの油布（京子）さんの描く口は丸っこいんですが、CGだともう少し鋭角的なので、全体的に油布さんのデザインに近づくように調整してもらったり。あと、プレシャスが「超キラキラな感じの宇宙が欲しい!?」とびっくりした顔（写真下）は、瞳を小さくして、ギャグ顔にせずにコミカルに見えるよう、こだわりましたね。

みんなでシェアして食べることでお子さまランチが完成した

看板やメモ類に書かれているのもおしゃれです。

山元　最近のアニメのOP映像は、映像の中にテロップを埋め込むってよくあるじゃないですか。あれのED版ですね。本編中で出てきた小物に載せてみました。

——テロップのカットは、ハーモニー作画っぽいふんわり調ですね。

山元　全部CGです。レタッチや撮影処理を入れて、その上から文字を載せています。止めのカットなので、入射光などの凝った質感も入れてもらいました。イメージとしては、18人のプリキュアと「わたし」がワイワイお子さまランチを食べた後の、静かな夕暮れの店先です。そんな情景にテロップが載っているとエモいかなって。

——作品が完成しての手応えは？

山元　かなり自由に作らせていただきましたね。分業が基本のアニメにあって、監督、脚本、コンテ、音響監督、演出処理とやれる範囲のことはほぼ全部やったので、作品としてもまとまりが出たと思うし、自分のやりたいこともできたかなと感じています。今やキッズアニメは「プリキュア」をはじめ、数えるほどしかないですから、それに関われて、映画館で実際に子どもたちの反応を見ることができた経験も貴重でした。今回のお仕事は「子ども向けってなんだろう?」とあらためて考えさせられましたね。

——山元さんは「プリキュア」シリーズにはどういうイメージをお持ちでしたか？

山元　今回だと「ごはんの大切さ」、「HUGっと！プリキュア」だと「子育て」とか、作品ごとにテーマがありますよね。子どもたちに向けた、哲学や思想を持っているシリーズだと感じます。あと、僕は『スタプリ』の柳川あかりプロデューサーとは以前からの知り合いで、今回「『スタプリ』をよろしくお願いします」とメッセージをもらいまして、まるでよその大事なお子さんを預かるかのような気分になりました。とにかく各作品のスタッフさんの愛情がすごく深いんですよね。放送が終わってからも、ずっと作品を愛して大事にされているのが伝わってきて、「これは頑張ってやらねば！」と引き締まりました。この感じこそが、村瀬さんの言う「バトンをつなぐ」ってことなんだろうなと。

——最後にファンの方へメッセージをお願いします。

山元　本当にたくさんの方に観ていただけて嬉しいです。僕としては、映画って気づきがあるというか、見終わって映画館を出た時に、「映画の中で出てきたあれをやってみようかな」という体験につながると思うんです。今回はお腹が空く映画だと思うので、映画を観た後には家族や友達と食事して、思い出を作ってもらえたら嬉しいです。

ここからは「アニメージュ」2022年3月号〜11月号の記事を再録！
みんなのおいしい笑顔を守る、ゆいたちの活躍を振り返ってください。

DELICIOUS PARTY♡PRECURE ×Animage

※各再録ページの扉側面に初出の月号が表記されています。
※再録されていないページもあります。

アニメージュ2022年3月号 再録
ごはんは
謎の人物
マスクやマント、つばの広い帽子が優雅でミステリアス。彼（？）は、一体何者なのか？
メンメン
麺のエナジー妖精でドラゴンの姿をしている。ヤムヤムとペアの、のんびり屋さんだ
パムパム
パンのエナジー妖精で犬の姿をしている。スパイシーとペアで、とってもおしゃべりな子
キュアスパイシー
芙羽ここね
メイクやかわいいもの好きのおしゃれなクールビューティ。口数が少なく周囲にとっては高嶺の花。お家は高級レストランを経営する
キュアヤムヤム
華満らん
キュートでおしゃべり。食べ物への好奇心が強く、様々な料理店の食レポをSNSのキュアスタに投稿している。お家はラーメン屋さん
コメコメ
お米のエナジー妖精で白キツネの姿をしている。プレシャスとペアで3匹の中で一番幼い
キュアプレシャス
和実ゆい
のびのびとしたまっすぐ元気な中学生。運動神経抜群で力持ち。様々な運動部の助っ人を務めたりも。お家は定食屋さんで生野菜好き
食べ物の妖精レシピッピ
妖精レシピッピが怪盗ブンドル団に捕らえられると、そのお料理にエラーが発生し、味が変わってしまうという。視聴者が食べ物を嫌いになってしまわないよう、食べ物自体が怪物化するのではなく「大切なものが奪われて目の前で大変なことが起こる」（安見）という方向性から生まれた設定だ。
2022年の新しい「プリキュア」シリーズが2月6日スタート。食べることやみんなでシェアする喜びをテーマにした『デリシャスパーティ♡プリキュア』だ。
この世のお料理を司る、おいしくて幸せな世界クッキングダム。その世界で守られてきた、すべてのお料理の作り方が書かれたレシピボンが、怪盗ブンドル団に盗まれてしまった！ ブンドル団が次に狙うのは、人間界の様々なお料理に宿る妖精レシピッピ。そのレシピッピを守るのが、ひょんなことからプリキュアになる、和実ゆい、芙羽ここね、華満らんの3人だ。
第1話では、レシピボン捜索隊隊長のローズマリーやコメコメたち3匹のエナジー妖精が、人間界のおいしーなタウンにやってきた。そこへブンドル団が出現し、中学生のゆいがローズマリーたちに協力。ゆいのごはんへの強い想いにコメコメが反応し、キュアプレシャスが誕生した！
同じ街に住む、ここね&らんの活躍もこれから徐々に描かれていく。どのようにゆいと絡んで、初変身へとつながっていくのかも楽しみだ。
デリシャスパーティ♡プリキュア
●毎週日曜日●朝8時30分●ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP●https://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/
©ABC-A・東映アニメーション

笑顔

シリーズ第19弾のプリキュアは、みんなの「おいしい笑顔」を守るために闘うヒーロー。込められているのは「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとう」の気持ち！

ゆいの正義感

ゆいは食いしん坊な分、お料理を大切に思っている。そしていろいろな部活の助っ人をしており、困ってる人を放っておけない性格と分かる。この2つの要素が、自発的にプリキュアになる流れに説得力を与えている。ローズマリーの展開する結界「デリシャスフィールド」に力ずくで入っていく姿も象徴的。

クッキングダムのマリちゃん

プリキュアのサポート役を務めるマリちゃんことローズマリー。プリキュアを探しに来た人ではなく、レシピボン捜索隊隊長としての活動中にゆいと出会った形だ。「今回はプリキュアに寄り添う存在を、人間の姿をしたキャラクターにしたくて。年齢は30代半ばのイメージです」（安見）

食べることって楽しい！

プロデューサー **安見 香**（東映アニメーション）

—今作のテーマとして、料理、特に食べることを選んだ狙いとは？

安見　お子様にとって身近なものをテーマにしたいというのがありました。実は『ヒーリングっど♥プリキュア』の企画を考えていた頃から、ごはんをテーマとして扱いたい気持ちがずっとあったんです。『デパプリ』を立ち上げたのはコロナ禍まっただ中の2020年の夏頃なのですが、「楽しく食べること」の意味を、あらためて考えさせられる時期だったかもしれません。

—確かに、コロナ禍で今、飲食店はどこも厳しい状況だと思います。子どもたちにも黙食が言われている昨今ですからね。

安見　単に、私が食いしん坊なだけということもあるかもしれませんが……（笑）。小さい姪っ子がいるのですが、とても小食だったんです。こういう子たちにも「食べることって楽しいんだよ」と概念的に伝えられたらと。そういうところからの発想もあります。

—タイトルに「パーティ」という単語が入っているのは、「みんなでワイワイと食事する」という意味合いですか？

安見　そうですね。「パーティ」という単語には「人が集まってくる」意味もあるので、その言葉にいろいろな思いを込めたいと考えていました。なので根底的なテーマとしても、「パーティ」は大切な要素です。「デリシャス」についても、作品に欠かせない味わいやおいしいに関する単語をたくさん挙げた中で、語感も良くてかわいい、そして「パーティ」と合う言葉にしました。

—メインスタッフの起用はどのように？

安見　『デパプリ』は楽しい話にしつつ、根底には優しさが流れていてほしいと思っていて、平林佐和子さんにシリーズ構成としてお声がけしました。『ヒープリ』の各話脚本でも楽しい回が印象的でしたし、にぎやかで温かくお話を紡いでいただけそうだなと。深澤敏則さんについては、監督された『映画プリキュアミラクルリープ みんなとの不思議な1日』を観て、ぜひシリーズディレクターをやっていただきたいなと。深澤さんも「ごはん」というモチーフに共感して、引き受けてくださいました。

—キャラクターデザインの油布京子さんは大抜擢ですね。

安見　油布さんは「プリキュア」シリーズに深い愛を持ってくださっていて、これまで原画でご参加もくださっていましたし、お声がけさせていただきました。オーディションでのお題はプレシャスたち3人とコメコメでした。コメコメも、力を分けてくれる大切なキャラクターですので。

—3人のプリキュアがそれぞれ和食・洋食・中華がモチーフというのが面白いです。

安見　それぞれに対応するエナジー妖精が、お米・パン・麺になっているんです。食べ物からエナジー（Energy）を分けてもらい生きる力になる、パワーがみなぎってくるというのを、「エナジー妖精から力を分けてもらう」という見せ方にしていて。それが感覚的にお子様たちに伝わってくれたらいいなと思います。

—エナジー妖精が変身アイテムになり、各プリキュアと対になる関係なのですね。

安見　一人ずつペアになるというのは、初期から検討していました。こういった「小さきもの」ってかわいくて個人的にも好きですし、お子様にも親近感を持っていただけるかなと。力を分け与えてくれる、すなわちエナジーに関わる小さき妖精が、いつもプリキュアのそばにいる形にしたくて。その設定を、玩具会社さんが変身アイテムへと広げてくださいました。

—各プリキュアの色については？

安見　まずプレシャスが「あつあつごはんで、みなぎるパワー」というキャラクターなので、ぱっと見、温かい感じの色。そうなるとピンクかなと。2人目はクールビューティと決めていたので青。3人目は中華なので黄色がイメージしやすいかなと。深澤さんも、分かりやすい色味がいいとおっしゃってくださったので、微妙な色合いを探りながらですが、結果として「プリキュア」ではおなじみの色になりました。また、差し色としてはプレシャスだと赤で、和テイストにつながるかなと。スパイシーにはおしゃれに紫や黄色、ヤムヤムには個性的に赤や緑を入れました。差し色で変化を出す工夫をしています。

—敵はブンドル団ですが、その目的はあくまでレシピッピを奪うことなんですよね。

安見　「独り占めしようとする人」と「分かち合いたい人」との闘いにしたかったのです。「奪うことはよろしくないよ」というのを伝えるために、「レシピッピが奪われるとエラーが起こって味が変わってしまう」という描き方にしています。「ありがとう」と「シェア」がテーマですので、身近なものへの感謝の気持ちや、分かち合う喜びを感じてもらえたらなぁと思いました。

—シリーズへの意気込みをお願いします。

安見　「ごはんは笑顔」を大切にしていくシリーズですが、タイトルの「パーティ」に込めた意味合い……みんなで食卓を囲む楽しさや、「いただきます」「ごちそうさま」に気持ちを込められるような、アツく温かいお話にしていきたいと思っています。1年間、応援していただけたら嬉しいです。どうかよろしくお願いいたします！

アニメージュ 2022年4月号 再録
デリシャスパーティ♥プリキュア
●毎週日曜日●朝8時30分●ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP●https://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/
©ABC-A・東映アニメーション
ひしかわ・はな
5月19日生まれ／東京都出身／プロ・フィット所属／2020年デビュー。本作が初のレギュラー出演
しみず・りさ
9月9日生まれ／神奈川県出身／アクセント所属／「ルパン三世 PART6」（マティア）、吹替で「エミリー、パリへ行く」（エミリー）ほか
いぐち・ゆか
7月11日生まれ／東京都出身／大沢事務所所属／「本好きの下剋上 司書になるためには手段を選んでいられません」（マイン）、「無職転生 ～異世界行ったら本気だす～」（キシリカ・キシリス）ほか
キュアスパイシー
芙羽ここね役
清水理沙
キュアプレシャス
和実ゆい役
菱川花菜
キュアヤムヤム
華満らん役
井口裕香
元気いっぱいなキュアプレシャスに続き、クールビューティなキュアスパイシーも堂々誕生。３人目のプリキュア・キュアヤムヤムの本編登場にも期待大！
なあつまれ！
いただきます!!
撮影＝江藤はんな

みん

お米のエナジー妖精コメコメから力を分けてもらい、キュアプレシャスに変身した和実ゆい。第2話ではレシピボン捜索隊隊長マリちゃんの思いも知り、第3話ではコメコメの初めてのおつかいに感謝する。そんな中でゆいが出会ったのが、同じ街に住む芙羽ここねだ。パンのエナジー妖精パムパムは、ここねに強く感じるものがあり、第4話でここねはパムパムの力をもらってキュアスパイシーに変身！

クラスメイトにもなり、積極的に仲良くしようとするゆいに対して、友達付き合い初体験のここねは、ちょっとおっかなびっくり。それでも、ゆいの家で一緒に料理を作ったり、マリちゃんとも仲良くなりたいとリップをプレゼントしたりと、一歩ずつ距離を縮めているところだ。

まさにコトコト煮込むかのように、ゆいたちの関係性をじっくり描いているのが今作の特徴の一つ。華満らんがキュアヤムヤム変身に至るドラマも、きっと丁寧に描かれていくに違いない。

ここねと仲良くなりたいと思い、積極的にアプローチ。パンを分け合って食べるなど、ここねの心にぐいぐいと入り込んでいく

キュアプレシャス
和実ゆい

Producer's Eye たぎる熱さを力強く

「ゆいを描く上では、のびのびした感じを大切にしています。無垢さや爽やかさもありながら、闘う時にはバネもある。見た目はかわいいですが、熱くてカッコよく、まさに『みなぎるパワー』の持ち主です。彼女の気持ちのいい人柄に惹かれて仲間が集まってきます。演じる菱川花菜さんは、ピュアでのびやかな声をお持ちです。そしてキュアプレシャスのたぎる熱さを力強く表現してくれたことが決め手になりました」（プロデューサー・安見 香）

「だって『ごはんは笑顔』だから」は何回も練習しました

ゆいちゃんは、ここねの心にぐいぐい入り込んできてくれた

オーディション時からすでに作品に思い入れ

――まずはキャストオーディションの話からお聞きしますが、菱川さんはゆい役だけを受けたのですか？

菱川　はい、最初のテープオーディションの時から、ずっとゆい一筋でした。オーディションでの印象的なセリフは、原稿の最後にあった「レシピッピはおばあちゃんとの大切な思い出。いつも笑っててほしい。だって『ごはんは笑顔』だから」ですね。第1話の台本を見て、「うわぁ、オーディションにあったセリフだ！」って、すごくすごく嬉しかったです。オーディションの時、「ここは絶対に大切に演じないと！」と思って、何百回、何千回と練習したセリフだったので。でも本編では「練習した感じ」は出さないように、ゆいが思ったままの言葉として出せるように、自然になるように頑張りました。あと、第2話での、「マリちゃん、私あきらめないよ」ってセリフもオーディション原稿にあったんです。でもその時点では、どういう展開なのかも、マリちゃんがどんな人かもよく分かっておらず……。

――そうですよね。

菱川　とても気になったので、「これは受からなかったとしても絶対に放送を観よう！」と思っていました（笑）。実はこのセリフ、こんなに素敵なマリちゃんの、こんなに温かい思いを受けての言葉だったんですね。本編では、オーディションの時よりも気持ちを乗せて言えたんじゃないかなと思います。

――清水さんも、ここね一本で受けていたのですか？

清水　はい！　もう、「ゆいちゃんとらんちゃんは私には演じられない！」と思いまして（一同・笑）。オーディションで演じた中では、第3話のコメコメとのお買い物シーンが印象的です。ここねはクールで、一見近寄りがたい感じもある子ですが、困っているコメコメに優しく語りかけて、「じゃあ私、買ってくるね」と助けてあげて。そこにここねの温かさが表れている気がしたので、大切に演じようと思いました。

井口　私も、らんらん一本でオーディションに行ったんですが、「このキャラも演じてみてください」と、メンメンの原稿もその場で渡されまして。

キュアスパイシー
芙羽ここね

一人の時間を好むタイプ。高級レストランのお嬢様ということもあり、これまで学校では「芙羽様」と呼ばれ、距離をおかれていた

Producer's Eye 相手への優しさや温かみ

「ここねは一人で過ごす時間が好きな子ですが、ゆいと関わっていくことで違う価値観も知っていきます。また、ここねを通じて「一人で楽しむ」ということについても描いていけたらと。演じる清水理沙さんは、透明感のある声が素敵です。ここねが人と関わる中で出てくる、相手への優しさや温かみを表現していただけそうだなと感じました」（安見）

菱川・清水 へぇ～！

井口 それでメンメンも演じたんですけど、「ああ、メンメンもいいなぁ」って（一同・笑）。「こんなにかわいいキャラクターもいるのかぁ～。しかも男の子かぁ～。いやいや私はらんらんで行きたい！　でもメンメンも……」とか頭の中で渦巻きながら、緊張しつつもこの2役を受けました。（笑）。らんらんのオーディション原稿で印象的だったのは、セリフというよりもシーン全体ですね。彼女は食べることに一直線で、表現も独特なので、好きなものにぐっと行きすぎたりするのかなと。単に元気なだけじゃなくて、これから葛藤しながら成長していく子のように感じたので、そこを演じたいなと思いながらオーディションを受けていました。

らんらんも葛藤しながら成長していくんだろうな

キュアヤムヤム
華満らん

おいしーなタウンにある様々な料理店を巡っては、舌鼓を打ちつつ食リポをキュアスタに投稿。自分のことを「らんらん」と呼ぶ

Producer's Eye
よく喋る明るい子

「らんは、よく喋る明るい子で、味のこだわりを独特の表現でワーッと喋る子です。そこから見える、お料理への愛の深さに注目していただけたら嬉しいです。とにかく楽しくて個性の強い子ですね。井口裕香さんは、ご本人もらんの雰囲気にぴったりだなと思います。声を一度聴いただけで「あ、ヤムヤムだ！」と分かる、そういう印象がありました」（安見）

まるでゆいそのもの？　運動も食べるのも大好き

――晴れてプリキュア役に決まり、本編のアフレコに取り組む中で意識していることや、シリーズディレクターの深澤敏則さんからお願いされたことを教えてください。

菱川 ゆいはとってもパワフルな女の子なので、私はあまり静かにならないようにと思っています。なので、ガーッ！て感じで収録には臨んでいるんですけど、第1話ではガーッと行きすぎちゃって「突っ走っているだけで、緩急がないふうに聞こえてしまうよ」と深澤さんに指摘を受けました。ゆいの役作りはしつつも、まずは自分の中にある「ゆい要素」を出していく感じだったので、収録を重ねながら、和実ゆいという人間をしっかり掘り下げたいなと思うようになりました。

――ご自身の中にある「ゆい要素」というのは？

菱川 私も陸上部やサッカー部に入っていたので、じっとしているより身体を動かしていたいほうなんです。それによく食べるんです（笑）。ただ、ゆいは「私が大好きな女の子」のイメージだったのもあり、どこか私の理想を足して捉えている面がある気がします。だから逆に、ちゃんとこの作品の和実ゆいという人物を知っていきたいと思っています。

井口 でももう、ゆいにそっくりです！

清水 そう、本当にそのまま。ここにゆいがいる感じ！

菱川 ありがとうございます（笑）。

清水 ここねについては、一人で過ごす時間が大好きな子で、私も実は一人の時間を毎日大切にしているんです。でもここねは学校でも一人で、あまりコミュニケーションが得意ではなく、みんなからは近寄りがたい高嶺の花と思われていて……。なので、ここねを演じる時は、心の開け方や閉じ方を調整するよう心がけています。完全に心を閉じている時は一人でこもるし、ゆいちゃんが話しかけてくれたら少し心を開ける。そこをすごく意識しています。

――クールで知的な女の子ですが、第3話、4話はそこよりも、友達付き合いが分からず戸惑っている面にスポットが当たっていましたね。

清水 「どうやったら人と仲良くできるのかが分からないし、一人が好きだからいいや」となっていたところに、ゆいちゃんがぐいぐい入り込んできてくれて（笑）。ここからお話が進むにつれて、ここねも変化していくんだと思います。

井口 らんらんは、見た目通り元気いっぱいで「ザ・黄色」みたいな子（笑）。なので、明るく元気なところを意識しています。ただ、深澤さんからは「作りすぎず、自然なかわいさを」というお話もあったので、変にうるさい子にならないように注意しています。まだキュアヤムヤムの変身回までアフレコが進んでいないので、らんらんは今のところはもっぱら食事要員です（一同・笑）。私自身も食べることが好きなので、そこについては役作りをする必要もなく。毎話、らんらんが食べるお料理をアフレコ前日の晩ご飯にするくらいで。

――いいですね！

井口 なので最近はメニューに困らないです。「今日は何食べよう？」と思ったら、『デパプリ』を観ればＯＫみたいな（笑）。

らんらん変身回を今か今かと待機中！

――キュアプレシャス誕生編の第1話、2話を観るに、ゆいは自分から巻き込まれにいくタイプのようですね。

菱川 そうなんですよね。でも私、第1話は緊張しまくっていて、そこを意識するどころじゃなくて……！（笑）

清水・井口 （笑）

菱川 第1話はほとんどのシーンでゆいが出ているので、台本のページをめくってもめくっても「ずっとゆいのセリフがある～！」って。

――そこはもう、主役ですからね。

菱川 「こんなにセリフがある役、初めて！」って。あまりにも緊張しすぎて、本当にどうセリフを言ったのかとか、全然覚えていないんです。でも、実際に第1話を観て「ああ、和実ゆいはこんなふうに考えて、こんなふうに行動するんだ！」と分かった気がします。

――マリちゃんのデリシャスフィールドに、無理やり入り込んできたのもすごかったです。

清水 本当にね！（笑）

菱川 身体が先に動いちゃうところがゆいなんです！　第2話は、ゆいもマリちゃんも愛があふれていましたよね。マリちゃんはゆいを危険に巻き込みたくないと思っているし、ゆいはマリちゃんを助けてレシピッピもお料理も守りたくて。お互いの愛がいっぱいで、オーディションで想像していたより何倍も尊い作品だなと、あらためて思いました！

――ゆいとマリちゃんの関係もとても素敵ですよね。続く第3話、4話はキュアスパイシー誕生編。先ほど話に出た「心の開き具合」がポイントでもありました。

清水 ほんと、ゆいちゃんに巻き込まれちゃって（笑）。

菱川 えへへ（笑）。

清水 「あれあれ？」って感じで、いつの間にか、ゆいちゃんと一緒にごはんを食べていて。その後もいろいろと引っ張ってもらってね。

菱川 そうですね♪

清水 ゆいちゃんに出会ったことで、ここねが変わっていって、どんどんゆいちゃんを好きになっているんです。でもここね自身はそこがよく分からなくて、「この気持ちってなんだろう？」となっていて。

菱川 ゆいちゃんはぐいぐい、心を開

きにいきますからね（笑）。
清水 特に私が好きなのが、第4話でゆいちゃんとロールパンサンドを半分こしたシーンです。
菱川 私も大好きなシーンです！
清水 それまではずっと一人で食事してきたここねに、ゆいちゃんが気さくに「半分どうぞ！」って分けてくれて。そこで感じた、おいしいものをシェアし合う、ほかほかした幸せ……。私自身も、とても温かい気持ちになっちゃいました。
——井口さん演じるらんらんは、今のところは「毎回お料理を食べている子」ですね。
井口 はい！ レシピッピが捕らえられた瞬間の味の変化に気がつく女です（笑）。（キリッと）「あれ、いつもと味が違うぞ？」って。
菱川 確かに（笑）。
——食事シーンでの個性的な言い回しは、テンション高く演じていますね。
井口 そうですね。美味しい物を食べて「ふにゅ～♥」って笑ったりとか。でも、独特のらんらん用語、口にしてみると意外と自然で、スルスルと出てくるんですよ。なので、自然でかわいいなと思ってもらえたら嬉しいです。あとは、ゆいとここねのクラスメイトではあるので、第4話だと（らん風の口調で）「食堂にいるんじゃない？ らんらんも行こ～」みたいな。
菱川・清水 かわいい～。
井口 楽しいところに一直線なところがいいですよね。
——でも、まさか第5話になっても変身しないとは意外でした。
井口 ですよね～！
菱川 確かに！
井口 もう少し、お待ちください（笑）。二人を見ていると「いいなぁ、私も早く変身したい！」って気持ちと、緊張との半々なんです。どんなきっかけで、どんなふうに変身するのか、私もわくわくしています。今年はいきなりプリキュアに変身せず、ちょっとずつ各キャラクターがどんな子なのかを見せていくスタイルのようです。よりそれぞれへの思い入れが強くなる感じがしますね。らんらんの変身がまだなのはちょーっとじれったいですけど、その「ちょっとずつ見えてくる」今を噛みしめつつ、初変身する回を今か今かと待ち続けています！

変身後はキリリとヒーローっぽく！

——すでにプリキュアになっているお二人は、変身後は凛々しい感じの芝居を意識しているのですか？
清水 そうですね、変身前と変身後で、上手く差も出せたらと頑張っています。深澤さんからも、「スパイシーに変身したら、カッコよくやってください」と言われました。文字通りのクールビューティで、すごく凛々しくて品があって、アクションシーンの画もカッコいい！ 私も、自分自身が闘っているイメージで、マイクの前に立っています。
——プレシャスは気合いが入るシーンだと、とても漢前な声になりますね。
井口 うん、カッコいい！
菱川 ちょっとトーンは変えています。プレシャスは見た目はかわいいんですけど、動いている姿はむしろ勇ましさやカッコよさにあふれていて、頼りになる感じだなぁと。「ああ、私が観ていた『プリキュア』だ！」ってなるので、その意味で『デパプリ』かわいいよね」って言われないように。
清水 かわいいって言われないようにするプリキュア（笑）。
菱川 ヒーローっぽいところはがっつりヒーローで。肉弾戦も「きゃあ！」みたいに叫ぶ時もあるんですけど、できるだけ「あ゛あっ！」みたいに濁音気味の声を入れて、泥臭く闘う感じを意識しています。
——「私が観ていた『プリキュア』」というと？
菱川 『フレッシュプリキュア！』です。あとは『Yes!プリキュア5GoGo!』『ハートキャッチプリキュア！』も。どれもめちゃめちゃカッコよかったです！
——『プリキュア』シリーズと同い年（2003年度生まれ）というだけありますね！ 井口さんも、玩具の音声録りではすでにヤムヤムを演じていますよね？
井口 はい、玩具録りでは、やりました。決めゼリフくらいですけどね。らんらんは、変身前後で声のトーンのスイッチが切り替わる感じはあまりない気がします。ただ、今の段階でそう思っているだけなので、果たしてどうなのか。らんらんの「一直線さ」が、より強くなる感じはあるかもしれないですね。「おいしいの独り占め、ゆるさないよ！」が決めゼリフなので、彼女なりの正義感で闘っていくんだろうなと思います。
——では、作品への意気込みやメッセージなどをお願いします。
井口 今回のシリーズは「ごはん」がモチーフです。大人も子どもも、食べることは大切です。ゆいちゃんをはじめみんなが、おいしい笑顔のために闘って、最後は「ごちそうさま」で終える作品になっています。「ごはんは笑顔」というキャッチコピーの通り、日曜の朝、笑顔で一日を始められる作品になるように頑張ります。この先もぜひぜひ楽しみにしていてください。
清水 ゆいちゃんをはじめ、本当に素敵な登場人物と、おいしいお料理にまつわるほんわかするストーリーは、私も観ていて幸せになります。この幸せを皆さんに届けられるよう、精いっぱい演じていきます。
菱川 『デパプリ』を観ると、絶対にお腹が空くと思うんです。でも見終わった後にはお腹いっぱいな、幸せな気持ちになると思います。
——とてもよく分かります。
菱川 ですから、ぜひ毎週楽しんで観ていただけたら嬉しいです。それから、まだ私たちキャストにも知らされていない、物語の謎もたくさんあるみたいです。そうした部分も楽しみにしていてもらいたいです。よろしくお願いします！

※写真は2月20日（日）のファミリー公演より

1年間おつかれサマーストライク！
トロピカル～ジュ！プリキュア感謝祭

2月19日(土)・20日(日)にJ:COMホール八王子にて行われた恒例のプリキュア感謝祭（いずれも昼夜2回公演）。20日（日）夜のプレミアム公演の様子をレポートしよう。

イベントの前半はキャラクターショーで、第42話Aパートのサイドストーリーだ。まずは主題歌アーティストのMachicoさんが登場し、ライブステージが始まる……かと思いきや、いきなりヤラネーダにやる気パワーを奪われるというメタな始まり。それを颯爽と救出するキュアサマーたち。Machicoさん＆吉武千颯さんから、「トロピカる物語」で演じる際の大切なことを教えてもらい、まなつたちは、次々とキャラソンを披露。各声優が生で歌う横でキャラクターがアバター的にダンスをするのもニクイ演出だ。あとまわしの魔女の召使いトリオも楽しげで、チョンギーレが浪花のモーツァルトのカニの歌を歌うお遊びも！

また、まなつたちは「ステージはお客さんと一緒に作るもの」と教わり、イメージソング「CLAP! ～勇気を鳴らせ～」の手拍子を練習する。その後のバトルでピンチに陥った際は、観客みんなが手拍子でパワーを送り、プリキュアの大逆転へと結びつく、“歌のミラクルライト”的な流れも熱かった！

イベント後半は声優トーク。自選による名場面の振り返りでは、カッコいいバンクシーンだけでなく、鼻水を垂らしたまなつや第33話の敵キャラアイキャッチなども紹介。また、くるるんの声マネ選手権でも、声優の技量を発揮!?

続く朗読劇は、最終回の後のお話。みんなの記憶が戻り、卒業式直後に埋めたタイムカプセルにローラの大事なものも追加しようとするのだが、埋めた場所が分からず四苦八苦。ようやく発見したものの、中身はツッコミどころしかないものばかり。しかし、未来の自分たちに向けて「今一番大事なもの」を訊ねる手紙も忍ばせていたのが、まなつらしい！

オーラスの挨拶では、花束贈呈や村瀬亜季Pからのメッセージが読み上げられ、涙をさそう卒業式ムードに。最後はまなつ役のファイルーズあいさんが毎回アフレコ後に掛け合っていたという「おつかれサマーストライク！」「ピクトリー！」を会場全体で行い、トロピカった1年間のフィナーレとなった。

みなぎるパワー！

Let's Party!

今作の主題歌を務めるのは、おなじみのMachicoさん＆吉武千颯さんコンビ。思わずお腹が空いちゃいそうな、おいしさあふれる楽曲です！

Machico

まちこ
1992年3月25日生まれ／広島県出身／ホリプロインターナショナル所属／声優としての活動は『ウマ娘 プリティーダービー』（トウカイテイオー）、『アイドルマスター ミリオンライブ！』（伊吹 翼）

吉武千颯

よしたけ・ちはや
1999年3月28日生まれ／広島県出身／Apollo Bay所属／声優としての活動は『ラブライブ！スーパースター!!』（聖澤悠奈）、『ヒーラー・ガール』（矢薙ソニア）

『デリシャスパーティ♥プリキュア』のOP主題歌は、明るくてキャッチーなメロディの「Cheers!デリシャスパーティ♥プリキュア」。「ぐぅ～ぐぅ～ぐぅ～」や「グツグツ♪　トントン♪」といった、食事や調理を意識したオノマトペがチャーミング。要所でのストリングスやホーンセクションのアンサンブルによる盛り上げもポイントだ。

ED主題歌「DELICIOUS HAPPY DAYS♪」は、スラップ奏法のベースのイントロから始まるノリノリなナンバー。ビートの効いたダンサブル＆ソウルフルな雰囲気のリズムの中に、「よくばりにほおばって」「ハラペコ全員あつまれ」など、食に絡んだ楽しいフレーズが散りばめられている。

OPを歌うのはMachicoさん、EDを歌うのは吉武千颯さんと、「プリキュア」ファンにはおなじみの二人。Machicoさんの歌声は今まで以上に愛らしく、吉武さんは逆にこれまでにないカッコいい歌声を披露しているのも聴きどころだ。

OP曲「Cheers！デリシャスパーティ♥プリキュア」

ED曲「DELICIOUS HAPPY DAYS♪」

撮影＝大山雅夫

明るくかわいいOPと力強くカッコいいED

――OP曲「Cheers!デリシャスパーティ♡プリキュア」の歌詞やメロディの第一印象を教えてください。

Machico（以下M）　とても明るくて跳ねた印象でした。「ぐぅ〜ぐぅ〜ぐぅ〜」みたいな、表情がつけやすい擬音のフレーズが多いので、この歌の世界に入り込んで、お芝居をするように歌いました。私が歌った歴代の楽曲の中では一番明るくかわいく歌ったつもりです。

――ED曲「DELICIOUS HAPPY DAYS♪」の印象は？

吉武　「すごくカッコいい！」が一番でした。私が今まで「プリキュア」で歌わせていただいてきた曲は、第一印象はかわいいものが多かったのですが、今回はベースが際立つカッコいいサウンドで。でも歌詞は温かいんです。

――これまでの吉武さんの楽曲とは違っていて、とても新鮮です。

吉武　まず自分の癖を抜くのを意識しましたね。私は語尾をキュルンと上げたりしがちなので、そこをいったん真っさらにして。ちょっと参考になるような音楽も聴いたりして、作っていきました。新たな扉を開けてもらえた一曲ですね。

――では、お気に入りのフレーズについて教えてください。

M　『デパプリ』はみんなと「おいしい笑顔」を共有するお話なので、暮らしへの感謝が歌詞にも表れていますよね。OP曲は、AメロBメロが跳ねている分、サビは「みんなから受け取った気持ちを私が届ける！」という思いで歌いました。サビの歌詞の遊んでいる感じも好きです。「この感動を 分け愛たい」って、「感動」を「おもい」と読んだり、「分け合いたい」ではなく「分け愛たい」と書いたり。TVで字幕と一緒に聴いた時に引きがあるなぁって。フルサイズでは、Dメロの「朝ごはんにお昼　おやつも　晩ごはんも　全部！デリシャス」。私も食べるのが大好きだから、「おいしい」があふれる幸福感ってよく分かるんです。ここはメロディも含めて大好きなところです。

吉武　OP曲では、私も「グツグツ♪トントン♪」とか、擬音のところが大好きです。思わず一緒に歌いたくなる、心ウキウキしちゃう歌詞だなって。Machicoさんの歌声、マシマシに大好きになりました！

――ED曲のほうはいかがですか？

吉武　頭やサビの「さあデリシャスマイル・フルパワーで」の「さあ」が好きです。ここで「行くぞ！」って感じで、自分の中のエンジンがグィンとかかります。これまでかけてきたエンジンとはちょっと違う感覚もありますね。あとは「ハラペコ全員あつまれ」。同じ音でどんどんつながっていくのも魅力的で。

M　私も吉武ちゃんの「さあ」で、もうハンドクラップでノリノリになっちゃうんです。「ハラペコ全員あつまれ」のところは、めちゃくちゃカッコいい。そこを歌う吉武ちゃんの表情もめっちゃ好き！

吉武　嬉しい〜！　あとは、フルサイズのDメロも好きです。「〝おいしい〟で繋がった絆は　いつだってココロ強い　いちばんそばにある元気の素」で、思いがギューッとなっている感じがして。やっぱり食事という身近なものがテーマだからこそ共感しやすいし、ありのままの自分の感覚を歌に乗せられるんです。ここは曲調もしっとりした感じに変わるので、この歌の温かさがここで一番出せていたらいいなと思います。

M　ED曲は勢いがあって、リズムも全体に歯切れがいいんですが、そこへ急に丸みを帯びたフレーズがきたりしますよね。「ハートがほわん」とかもそう。そういうところもすごく印象的ですね。

工夫を凝らしたおそろいの衣装

――今年の衣装（写真）は、例年にも増しておそろい感がありますね。

M　かわいいですよね。「プリキュア」のステージ衣装は、それぞれの生地や色は自分たちで決めるんです。

吉武　ね！　自分たちで決めるから、愛もすごいよね！

M　裏地をどんな色にしたいとかまで決められるんですよ。

吉武　たくさんの種類の生地を用意してくださるので、私のスカートの紫も、その中から私が選びました。

M　私の衣装は、全体的にはキュアプレシャスの色味に寄っていますが、壇上でキャラクターたちと一緒に並ぶことを考えると、あまりに似すぎてしまうのはどうかなと。だから、プレシャスの差し色の赤をボディ全体に使い、ピンクは肩のレースの色に使いました。

吉武　私は逆に、キュアスパイシーとおそろい感を出しています。それで足元もタイツです。それとスパイシーの青とピンクの組み合わせがすごく好きなので、靴にもちょっとだけピンクを使ってみたりとか。実は今日の取材で、初めてお互いの服を見たんです。

M　二人で「うわっ、かわいい〜！」ってね（笑）。

――衣装を着たお二人は、まるでデュオユニットですね。ライブでも、いつも息もダンスもピッタリで。

二人　嬉しい〜！

M　実は今回、ED担当が吉武ちゃんだって知った時の安心感が半端なくて！

吉武　本当に!?（歓喜）

M　吉武ちゃんとがっつりお話するようになったのって『トロピカル〜ジュ！プリキュア』からですが、同じ広島県出身で誕生月も同じで（笑）。そんな共通点もありつつ、歳は離れているので、私としては近所のかわいい子が大人になって話しかけてくれるみたいな（笑）。

吉武　そうだったんですね（笑）。

M　吉武ちゃんは愛でていたい対象なのに、パフォーマンスはすばらしくて。イベントとかで隣で踊るのを見て、「ダンスのキレが半端ない！　私も頑張らなくちゃ！」って。そんなやる気をいつもくれるんです。公私ともに大好きです！

吉武　やだぁ〜嬉しいわ♥　私もOP担当がMachicoさんって聞いた時はとても安心しました。『トロプリ』で1年間ご一緒させてもらって、もはや練習なしでも一発で合うくらいの心強さもありつつ。お会いするたびに「なんて素敵な方なんだろう！」と思っていました！

M　あはは（照れ）。

吉武　いつも優しくしてくれて、アドバイスもくださって。「私もいつかこんなふうになりたい！」と思う気持ちがどんどん増えていくんです。

M　嬉しすぎて泣きそう。なんていい子なんでしょう……。

――Machicoさん涙目ですね。最後に、ファンへのメッセージをお願いします。

吉武　『デパプリ』でもまたED曲を歌えることは本当に嬉しいです。「プリキュア」シリーズへの愛も、歌える喜びも、年を経るごとに大きくなっているんです。と同時に、「DELICIOUS HAPPY DAYS♪」への思いもどんどん大きくなっています。この歌に込めた思いを精いっぱい届けていきたいです。

M　私も2作品連続でOP曲を歌える喜びにあふれています。まさかこんなに「プリキュア」の歌を長く歌えるとは思っていませんでした。『デパプリ』では、日常の小さな幸せを大切にする姿が描かれていて、とても素敵だと思います。そういう思いを届けるためにも、「Cheers！デリシャスパーティ♡プリキュア」を歌っていけたらと思います。OP曲にも振り付けがあるので、覚えてもらって、OPもEDもいっぱい踊ってほしいです。それと皆さん、おいしいものを食べましょう！

吉武　そうですね！

二人　（「せーの」と見合って）ごちそうさまでした♥

まるでデュオユニット!?

5月1日（日）開催決定！
主題歌シングル購入者限定リリース記念ライブ

M　私、「プリキュア」主題歌のリリースイベントはこれが初めてなんです。吉武ちゃんと一緒に歩んできた「プリキュア」ソングの歴史を感じながら、歌で私たちの絆を届けられたらと思います。

吉武　私も『スター☆トゥインクルプリキュア』以来なので久々です。Machicoさんと一緒にやってきたものをすべて込められたらと思います。『ヒーリングっど♥プリキュア』で一緒に歌った曲や、もしかしたら『スタプリ』の歌もあるのかなぁ。まだ詳細は私たちも知らないんですが、これまでの歌も合わせて、「プリキュア」シリーズへの思いを届けたいです。

3月30日発売
『デリシャスパーティ♡プリキュア』主題歌シングル

CD＋DVD

通常盤

**ブンドル団からのあまねの解放！
そして拓海の秘密と静かな決意。
新局面を迎えた『デパプリ』2クール目
新プリキュアの登場も楽しみだ！**

キュアプレシャス
和実(なごみ)ゆい
おばあちゃんからの「小さじ一杯、大事な一杯」という言葉から、ジェントルーの中に、あまねの心がわずかでも残っていると信じる

キュアスパイシー
芙羽(ふわ)ここね
あまねの鶴の一声で、突然行われることになった実力テスト。対策として、勉強が苦手なゆいとらんのために英語や国語を教えた

デリシャスパーティ♡プリキュア

●毎週日曜日●朝8時30分●ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP●https://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/

キュアヤムヤム
華満(はなみち)らん
おいしーなタウンのグルメをSNSで紹介していたが、ブンドル団の参考にされていると知り、お店紹介をテイクアウト商品紹介にチェンジ

らんが3人目の仲間に
らんがヤムヤムへ初変身した第7話は、食リポを頻繁にSNSのキュアスタに投稿する「ちゅるりん」の正体を見極めようとするお話。ゆいもここねも、ちゅるりんが誰かを探っていく。ラストは、らんが自ら、自分がちゅるりんだと言う流れからの全員での自撮り。新しいお友達を歓迎する、ほっこりとした演出がなされていた。

**コメコメの
化けレベルの変化**
エナジー妖精のコメコメは、人間の女の子の姿に化けられるだけでなく、その姿の段階は赤ちゃんから徐々に大きくなる。初化けはコメコメがおつかいに挑戦した第3話で、ここねとらんの認め合いを描いた第9話が第2段階だ。第3段階がいつになるのか乞うご期待。

**対照的な
ここねとらん**
友達付き合いの経験が浅いここねと、気持ちのままにしゃべりがちならん。互いにそこを自覚していることもあり、第9話前半は変に相手に合わせようとしてギクシャクしてしまった。そんな空気に気がつかず、たこ焼きを無邪気に頬張るゆいもケッサク。コメコメのお世話については二人の意見が正面衝突し、微妙な雰囲気のままウバウゾーとのバトルに突入。しかし、キュアプレシャスの合わせ味噌の例えを聞いて、スパイシーとヤムヤムは互いの良さを生かして連係！

ゆい＆ここねのクラスメイトのらんも、お料理の妖精レシピッピが見える女の子。家族で経営している、ぱんだ軒のラーメンの味を守るため、3人目のプリキュア・キュアヤムヤムに変身！

そして、生徒会長のあまねもレシピッピが見えることが判明。あまねともレシピッピについて語り合いたいゆいだけど、あまねの反応は素っ気なくてちょっとションボリ。それもそのはず、あまねこそが、レシピッピを狙う怪盗ブンドル団のジェントルーだったからだ。

実は彼女は、怪盗ブンドル団に心を操作されていた。ゆいは、あまねとしての心がわずかでも残っていれば絶対に元に戻ると、あまねの解放に心を砕く。ジェントルーと向き合い「友達になりたい」と訴えるプレシャスに、あまねの心が「私をとめて！」と反応。ハートジューシーミキサーの3人技で、黒いハートを見事に浄化した！

そんな中、ゆいたちは変身姿を拓海に目撃されてしまう。拓海は、街を守ろうとするゆいが危険に巻き込まれているのではと推察。ゆいを守るため、彼は自分ができることをやろうと心に決める……！

ミキサー型アイテムが出現
プレシャスたちのアイテム「ハートジューシーミキサー」が第10話で登場。この回、まずプレシャスが「デリシャスプレシャス・ヒート！」を、第11話でスパイシーが「デリシャススパイシー・ベイキン！」を、そしてヤムヤムが「デリシャスヤムヤム・ドレイン！」をそれぞれ単独で披露。その上で、第12話で3人による「MIX ハート アタック！」で、あまねを操っていた黒いハートをウバウゾーごと浄化。段階を踏んだ構成が心憎い。

NEWS

新戦士登場！キュアフィナーレ

今夏、本編に登場する新プリキュア。誕生の瞬間を楽しみに待とう！

取り戻した

菓彩（かさい）あまね

ゆいたちが通う、しんせん中学校の生徒会長。ジェントルーとして暗躍していたが、それでも被害が最小限になるよう努めていたようだ

菓彩あまね（操られた状態）

ジェントルー

瞳に現れたあまねの心

あまねはブンドル団に心を操作され、ジェントルーとしてレシピッピ捕獲の任務に就いていた。心が操られた状態ではハイライトの少ない赤い瞳。本来のあまねの状態ではハイライトのある青い瞳だ。また、第10話では、本来のあまねが幻影的にジェントルーと対峙するようなシーンも描かれていた。

ナルシストルー

もう一人の幹部としてバトルに登場。レシピッピを奪うことで、人々からそのお料理にまつわる大事な思い出も奪う

セクレトルー

ブンドル団の幹部の一人。ゴーダッツに忠実で、直接レシピッピ奪取には動かない。毎話のイヤミなボヤキが特徴的

フルーツパーラーKASAIを手伝うあまねの兄が登場！

菓彩（かさい）みつき

あまねのもう一人の兄。ゆあんに比べて温和で柔らかい雰囲気。ゆあんと共に、あまねを見舞いに来たゆいたちを出迎えた

菓彩（かさい）ゆあん

あまねの兄。みつきとは双子だが、雰囲気は対照的な熱血漢。ちょっとお堅い感じの、かしこまった口調が特徴だ

ファンのみんなとパーティ・ゴー！全8曲を披露

LIVE REPORT

吉武千颯　Machico

5月1日（日）に池袋harevutaiで行われた、主題歌シングルリリース記念ライブ、その昼の部の様子をレポートしよう。

開演直前に聞こえてきた、Machicoさんと吉武さんのキュートな影ナレ。期待感が高まったところで、「Cheers！デリシャスパーティ♡プリキュア」からライブスタート！　Machicoさんが歌い終えると、吉武千颯さんも登場して二人そろってのご挨拶。2曲目からは歴代楽曲で、吉武さんのプリキュアシンガーとしてのデビュー曲「パペピプ☆ロマンチック」。「生で聴けて大感激」と言うMachicoさんに、吉武さんも「ステージで歌うのは久しぶり！」と喜んでいた。

また、Machicoさんのプリキュアシンガーとしてのデビュー曲「ミラクルっと♥ Link Ring！」や、二人で歌う「CLAP！～勇気を鳴らせ～」では、客席と一緒になっての手拍子パフォーマンスも。声は出せないながらも、一体感のある盛り上がりを見せていた。

「デパプリ」主題歌CDのライブではあるけれど、このようにMachicoさんと吉武さんの様々な歌を披露するセットリスト。おおむね交互に歌っては、地元を同じくする広島コンビとして、和気あいあいとした仲良しトークをたっぷりと繰り広げていた。

ライブ終盤には、10月29・30日に「デリシャスパーティ♡プリキュア LIVE 2022 Cheers！ Delicious LIVE Party♡」が開催されることが発表された。TOKYO DOME CITY HALLでのこの豪華なイベントの決定に、会場もますますヒートアップ。

ラストは、吉武さんがカッコよく歌う「DELICIOUS HAPPY DAYS♪」、そして二人でパワフルに「シェアして！プリキュア」を歌唱し、楽しいステージは幕となった。

HP●https://www.marv.jp/special/precure_live/

品田拓海（しなだたくみ）

ゆいの幼なじみ。密かにゆいに好意を抱いているようだが、気がついてもらえていない。ゆいの力になりたいと、ある決意を固める！

ローズマリー

今は拓海の親が経営するゲストハウスで暮らす。デリシャストーンが現れて以降バトルには参加できないが、プリキュアを支援する

面白くて頼りになる！

マリちゃんことローズマリーは、毎話コメディリリーフとして癒やしを与えてくれる。第6話ではコメコメのコロコロ転がる遊びに付き合い、ひたすら部屋でジャンプし続けていたのも面白い。また、プリキュアの保護者的立ち位置でもあり、実に頼りになる人物だ。第12話では、あまねの家でもあるフルーツパーラーに様子をうかがいに行き、そこで見かけたお店のカードのイラストから、あまねの「本当の心」を感じ取った。良識ある大人として、縁の下のファインプレーが光る！

拓海の秘密

第13話で明かされた衝撃の事実。拓海も、父の門平からクッキングダムの存在を聞き、デリシャストーンを託されていたのだ。拓海の母あんと門平との出会いが、ゆいとマリちゃんの出会いに似ていたことを考えると、門平の正体は一体？　そして第14話以降、拓海はゆいを思い、何らかの行動を起こす様子だ。

頑張る人の 特盛り応援団

ローズマリー役 前野智昭　品田拓海役 内田雄馬

毎年恒例のボーカルアルバムに、
みんな大好きマリちゃんと拓海も堂々参戦。
4人目のプリキュアも一緒にデリシャスパーティ♥の始まり！

今シリーズでの新機軸にして注目株。それがマリちゃんことローズマリーと、ブラペことブラックペッパー＝品田拓海だ。7月20日発売の「『デリシャスパーティ♡プリキュア』ボーカルアルバム ～Welcome to Delicious Party～」には二人のキャラソンも収録されており、大事な仲間だとあらためて分かる。

クッキングダムから来たマリちゃんの使命はレシピボンの捜索。本来ならウバウゾーと戦える存在なのだ。同時に「美の伝道師」と自称するほどに美意識も高い、プリティ＆マイティな人物だ。気さくな性格ゆえに、いい意味でゆいたち中学生と同じ目線に立ち、自然と親身に接することができるのも、マリちゃんのステキポイント！

拓海は、幼なじみのゆいに想いを寄せている様子。ブラペとなってキュアプレシャスの力になりたいという気概がとても健気だ。でもゆいは拓海の想いには気がつかず、ブラペに対しても「助けてくれるいい人」くらいの感覚なのが残念!?　実は拓海の父はクッキングダムの出身で、拓海も当初から世界の不思議と関わりがあったという点も興味深い。

劇中では、この二人はそれほど接点はないが、マリちゃんは拓海を一見して既視感を覚えた。ブラペ姿を見た時は「シナモン？」と言ったりと、何かとつながりを匂わせている。4人目のプリキュアの登場に伴い、今後の二人の役回りにも注目だ！

ローズマリー
ほかほかハートの結晶体は、あまねにも反応。それを見て、心苦しいながらも、あまねに協力をお願いしたが、断られてしまった

まさかのキャラソン！仲間になれて嬉しい

――マリちゃんと拓海のキャラクターソングが作られると聞いた時はどう思いましたか？

前野　びっくりしました。曲目リストに、まさか自分のキャラの名前があるとは！

内田　キャラソンはプリキュアの子たちだけが歌うんだろうなって思っていました。マリちゃんはプリキュアと行動を共にしているのでまだ分かるんですが、まさか拓海もその枠に入れてもらえるとは！

前野　でも、キャラソンを作ってもらえて、プリキュアの仲間なんだという感じがしましたね。

内田　CDジャケットも「みんなでパーティ」という感じがして、嬉しいですよね。

――まずは拓海のキャラソン「俺に出来ること」についてお聞きします。

内田　詞の内容としては、「ゆいの笑顔を守りたい。共に戦いたい」ですね。それは常日頃から拓海が思っていることなので、そこを掘り下げてくださった感じがしました。ただ、拓海自身はどれくらい歌を歌うのが好きなんだろうかと。クラスメイトとカラオケに行くこともあるでしょうが、率先してマイクを握って手放さないようなタイプとは違いますよね。「何か歌ってよ」と言われて、「じゃあ……」という感じかなぁと想像しました。なので、どことなく照れくさそうに歌ってみてもかわいいかなと。そんなふうにアプローチしました。

――音源を聴きましたが、歌詞自体、ゆいへの想いがいっぱいで、甘酸っぱいですね（笑）。

内田　ですね（笑）。それもあって、少しだけ、たどたどしい感じも意識しました。

――お気に入りのフレーズは？

内田　最後の「行くぜ！」って一言です。普通はズバッとシャウトするところですけど、あんまりカッコよくしすぎず、むしろ淡々と決めた感じというか。そのほうが中学生らしくていいかもしれないなぁと考えました。大人だったら、決めどころはカッコよく見せようとか、ある種の計算が入る気がするんですけどね。でもそこは純情な感じにしたほうが、拓海らしくていいかなと思いました。

――では前野さん、マリちゃんの「アリノママ GLORIOUS」は歌ってみてどうでしたか？

前野　最初に音を聴かせてもらったら、とってもキーが高くて！　サビで一気に高くなっていくんですよ。特にラスサビの「見せてデリシャスマイル～！」（高い声で）ってところ。

内田　すごい！（笑）

前野　最初はもっと高かったので、キャラクターとして出せるキーでと、調整をお願いしました。「このフレーズでは、マリちゃんの笑顔を表に出すように」「このフレーズは、自然と涙が出てしまうような切ない感じで」など、アフレコのような細かい演技指導を受けつつ、収録しました。

――出だしも、とても高くて伸びやかですよね。

前野　「笑顔はアリノママいればGLORIOUS～!!」って長く長く伸ばすんです。ちゃんと喉を作ってから臨もうと思って、レコーディング前にカラオ

MUSIC INFORMATION

「デリシャスパーティ♡プリキュア」ボーカルアルバム ～Welcome to Delicious Party～
★7月20日発売
初回特典には10月29・30日開催の「デリシャスパーティ♡プリキュア LIVE 2022 Cheers！ Delicious LIVE Party♡」先行抽選応募券も！

デリシャスパーティ♡プリキュア

●毎週日曜日●朝8時30分●ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP●https://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/

品田拓海（しなだたくみ）
ゆいたちが轟を「カッコいい」と話しており、つい聞き耳を立ててしまった。ブラックペッパーの話だと勘違いしたようでかわいい

かわいらしい顔立ち。表情集には「幼くなりすぎないように」という注意書きもある

ケで1時間くらい歌って、声が出る状態にしてから収録しました。
内田　マリちゃんとして歌うことのハードルが、それくらい高いってことですね！
前野　プリキュアの皆さん（菱川花菜さんたち）からも「マリちゃんと拓海の歌、とっても楽しみです！」と言われてもいたので、「ここは頑張らなきゃ！」って。
——みんなの期待に応えなくてはと。
前野　はい。気合いを入れて収録しました。それと、スタッフさんのいる調整室の様子も見えるブースだったんですが、プロデューサーの安見香さん（東映アニメーション）が、ものすごい身振り手振りでディレクターさんに何かを伝えているのが見えて。たとえば「ここはマリちゃんの気持ちが前面にあふれるように！」みたいなことを言っていそうだなと分かる、熱いジェスチャーで。
内田　安見さんは、いつもボディランゲージが大きいですもんね。
前野　そうそう。おかげで、細かいオーダーにも柔軟に対応しなくちゃと感じましたね。
——内田さんの収録ではどんなディレクションが？
内田　ディレクションは、とにかく「拓海のカッコよさを出してください」という感じでした。ただ、そのカッコよさをどれくらい、どのように出すかが難しくて。「そもそも拓海のカッコよさとは？」「拓海とは一体何だ？」と自問自答に陥りました（笑）。
——結果「決めすぎない」という、かわいい方向性になったんですね。
内田　そういうことです。拓海くんの恋愛事情も、想いはちゃんとあるのに伝わらないという「決められない」感じもあるじゃないですか（笑）。それでも、ラスサビだけはビシッと決めて……そこは、物語の最後には成長していてほしいという、僕の願いも込めました。
——では、「アリノママ GLORIOUS」の前野さんのお気に入りのフレーズも教えてください。
前野　高いトーンで歌っているところは、どれも気合いが入りました。あとは「ローズマリーのポジティブ ひとつまみ」は自分の名前が入っているし、「フォロー任せて！」みたいにマリちゃんが作中で言うであろう歌詞もいいですね。とてもメッセージ性も強い歌で、全体的にお気に入りです！

まえの・ともあき
5月26日生まれ／茨城県出身／アーツビジョン所属／『骸骨騎士様、只今異世界へお出掛け中』（アーク）、『組長娘と世話係』（葵塔一郎）ほか

うちだ・ゆうま
9月21日生まれ／東京都出身／アイムエンタープライズ所属／「東京ミュウミュウ にゅ～♡」（青山雅也）、「カードファイト!! ヴァンガード will+Dress」（江端トウヤ）ほか

「花より団子」なゆいに振り回される拓海

——本編の話をお聞きしますが、お二人ともキャストオーディションだったのですか？
内田　僕はそうでした。テープオーディションだけですけど、拓海役1本です。
前野　僕はオファーでしたが、「一応、事前に聴かせてください」ということで、テープオーディションのようにセリフを吹き込んで。複数のアプローチで提出しましたが、結果、「自然体な感じが一番いいと思いました」と深澤（敏則）さん（シリーズディレクター）に言っていただきました。
——内田さんはオーディションを受けた段階で、ブラックペッパーの設定はご存じだったんですか？
内田　聞いてはいましたが、オーディションの原稿にはブラックペッパーとしてのセリフはなかったです。拓海の日常のセリフから抜粋があっただけで。ただ、ブラックペッパーって、ヒーローに変身するわけではなく、いつもの拓海が「私はブラックペッパーだ」って、自分なりにキャラを作って頑張っている感じなんです。だから仮面なのにミステリアスさはないし、ブラックペッパーの姿で出ていても、時にポロッと「やべー！」みたいに拓海としての呟きが出ちゃったり（笑）。
——すると、考え方のベースは拓海そのままなんですね。
内田　でも、初登場の第14話で、深澤さんから「少しだけ拓海と変えてもらっていいですか？」と言われたので「拓海が頑張って背伸びして、戦士の装いをしている」というラインを狙いました。精いっぱい大人びた紳士のキャラ作りをして、カッコよく「ありがとう」（低いイケボで）と言う感じだろうなって（笑）。
前野　（笑）。
——ここまで演じてきて、それぞれ印象が変化した部分はありますか？
前野　マリちゃんって、ゆいたちみんなのバランスを考え、日常でもバトルでもサポートする、なかなか珍しい役どころですよね。最初はもっと勢いで突っ走る人なのかなと思っていたんですよ。ところが実際はとても冷静で、ちゃんと手順を踏んでから物事を進め

ブラックペッパー
第13話で、拓海は「これを着るのか？」と、ブラペの衣装を見てビミョーな顔をしていた。「だいぶヒラヒラしていますからね。ちょっとキザな感じにも見えて、現代っ子の彼にしてみたら新鮮すぎる衣装なんじゃないかと（笑）」（内田）。ちなみに第14話で、拓海は黒コショウをかけるのが好きだと判明。「闘いの場でとっさに『ブラックペッパー』と名乗ったってことは、相当好きなんでしょうね（笑）」（内田）

ゆいのまっすぐさに惹かれる

——お二人が気になるプリキュアは誰ですか？
内田　やっぱりキュアプレシャス……というかゆいですね。屈託ない感じがいいですよね。ゆいは食欲にまっすぐで、その一本槍がめちゃめちゃ強い。その分、ごはんの大切さを誰よりも分かっているんだと思います。拓海はそんなゆいを陰で支えているわけですが、僕自身も「これをやりたい！」といった意志を持って進んでいる人を応援するのが好きなので、ゆいを見ていると応援したくなるんです。
前野　僕もゆいが好きですね。マリちゃんが最初に出会った人というのもありますが、みんなもゆいのまっすぐさに感化されて困難を乗り越えている気がします。みんなを笑顔にできる子で、ゆいという存在は特別だなぁと思いますよね。演じている菱川さんは、アフレコが始まった段階ではまだ高校生だったんですよ。
内田　すごい可能性を感じさせる子だなって思いますね。

ていく、模範的な大人だなと思いましたね。たとえば、学校にいるゆいたちに会いに来る時も、校内に入るために保護者カードをもらうとか。

内田 そうでした、そうでした！

前野 そりゃ親御さんたちからの信頼も勝ち得るでしょうね。視聴者の方から「マリちゃん、いいね」と言ってもらえる要素がたくさんある人だと感じます。

――一人の大人として、任せて安心なところがありますね。

前野 そうなんですよ。誰に対しても「ごめんなさい」や「ありがとう」がちゃんと言えるし。あと、身体能力もなかなか高いんですよね！ 相当に強いクックファイターなんだと思いますよ。デリシャストーンが壊れてしまった今も、攻撃のガードとかはできますからね。生身でウバウゾーとも戦えそうなくらい（笑）。

内田 拓海については、「ゆいより一つ上」というところをポイントにして作ってきました。ただ拓海って、いじらしい感じがあるので、本編での演技もそこに引っ張られて、どんどん愛されキャラ感が出ている気もしますね。そもそも拓海って、もっとお兄さんポジションなのかなと思っていたんですよ。でも、ゆいがあまりにも天真爛漫で、それに振り回される場面が多くて。拓海も口ではそこにツッコむけど、言うほど嫌がっていない。

前野 そうね（笑）。

内田 ゆいの天然さを受けとめているというか、むしろ振り回されて嬉しいんじゃないかなってくらい（笑）。「花より団子」を地でいくゆいと、そんなゆいを気にかけてくっついている拓海を、皆さんにもかわいく感じてもらえるといいなと思います。

――拓海は全然ゆいに気持ちを気づいてもらえていないようですが、一途に貫く感じもポイントですね。

内田 そうですね（笑）。第14話では後輩に告白もされたけど、やっぱりそこは覚悟を決めちゃっているので。「俺がゆいの笑顔を守る！」って。「ごはんは笑顔」というゆいの、その笑顔を守りたい拓海っていう。「拓海→ゆい→ごはん」という、想いの矢印の向きですよね。

――すると、拓海の恋のライバルは、ごはん？

内田 そうなんです（笑）。そこがまたかわいくて。そういえば、第14話では目玉焼きにケチャップとマヨネーズをかけるのが恥ずかしいと感じていた後輩の前で、「好きに食べりゃいいんだよ」とカラッと言って食べるのは、カッコいいなと思いました。

前野 うんうん。

内田 周りを気にしてだんだん素直に言えなくなってくることってあると思うんですが、そこをはっきり言えるのは、今の僕から見ても憧れるところですね。

マリちゃんの責任感と思慮深さ

――この他、お二人がそれぞれに共感するところはありますか？

内田 ゆいのことがただ好きなだけでなく、「ゆいの笑顔を守るぞ」となるのも好きです。言動のぶっきらぼうさに反するように、その芯にはしっかりとした優しさがありますよね。

――拓海がブラックペッパーになった理由も、「ゆいの笑顔を守りたい」という想いからきていますしね。

内田 もはや、拓海の世界の中心にゆいがいる感じ。そして、自分が今ゆいのためにできることがブラペとして戦うことなら、俺はブラペになるという。気持ちにブレがないので、見ていて気持ちがいいですね。

――ちなみにブラックペッパーの衣装は、品田家のクローゼットに保管されていたようですね。

内田 たぶんお母さんが、拓海仕様に丈を直してくれていたんでしょう。拓海はきっと、デリシャスフィールドの隅っこでせっせと着替えているんでしょうね（笑）。深澤さんに「ブラックペッパーの変身バンクはないんですか？」って訊いたら「ないんですよ」って言われたので。

前野 つまり、プリキュアみたいな不思議な力じゃなくて、リアルにいそいそ着替えているから、変身バンクは作れないってことね（笑）。

内田 上着を着て、ズボンを履いてという、ごくごく地味なお着替えなんでしょうね（笑）。

――では前野さんはいかがですか？

前野 僕としては、マリちゃんの大人としての責任感がカッコいいですよね。自分の託されている危険な使命にはゆいを巻き込みたくないからって、第2話で早々に決別しようとしたりとか。普段は「美の伝道師」とか軽いノリも見せるけど、いざゆいたちがピンチになった時には身を挺して助けに行く勇ましさも見せてくれます。プリキュアに任せきりじゃなくて、自分がやるべきことを考えて行動する、理想的な大人ですよね。

――第17話で、あまねにプリキュアの

ふわ
芙羽ここね キュアスパイシー
クラスでのお弁当ランチに張り切るも、空回り。ションボリしてしまうが、運転手の轟から、「食べる楽しみ」を教えてもらう

なごみ
和実ゆい キュアプレシャス
拓海が女の子から告白されるのをマリちゃんたちと目撃。でも「すごーい！」という無邪気な反応で、初恋の味を知るのはまだ先かも

かさい
菓彩あまね
ジェントルーとして怪盗活動をしていたことに、大いに心を痛めている。自分にはふさわしくないと生徒会長も辞任しようとする

はなみち
華満らん キュアヤムヤム
「食」の表現がユニーク。そのテンションの高い表現で、小さい頃にお友達と気まずくなったことを、ずっと心の奥で気にしていた

品田門平

品田あん

アラフォーの今でもラブラブな夫婦だ。「品田家は明るくていい家族ですよね。お父さんの清々しい感じは、拓海にも受け継がれている気がします。でも、お父さんへの画面越しの投げキッスを、息子の目の前でするお母さんって（笑）。思春期の息子からしたら、かなり気恥ずかしさがあると思います！」（内田）

手から光弾を発射！

デリシャストーンの力を得ているブラックペッパーは、手から光弾を発射する技を使う。「ブラックペッパーの技は、これから他にも出てくるんじゃないかなと勝手に期待しているんです！」（内田）。「シナモンがどんな技を使っていたのかにも、関わってくるのかな？」（前野）。現状、技名はないようだが、いつか技名を叫んで放つブラペの姿が見られることに期待したいところ。

内田さん＆宮田俊哉さんのダンス映像に注目

「番組の公式 YouTube チャンネルで、僕と宮田俊哉さん（ゆあん＆みつき役）が ED ダンスを踊る動画が公開されています。元々は宮田さんに単独でダンス収録の話があったらしいんです。でも、『雄馬くんもダンスできますよね？一緒にやらないんですか？』って、宮田さんから逆提案があったみたいで（笑）。ならば、『もう喜んで踊ります』って感じでした。ただ、冷静になって考えると、毎週アニメを収録している普通のアフレコブース内で、ジャニーズのアイドルと一緒に踊るって、相当無茶な話ですよね。そんな人間、僕以外にいなかったんじゃないかな（笑）。でも、こういった形で作品に協力できるのは、とても嬉しいです。実際に踊ってみた感想としては……めちゃめちゃ難しかったです！　息が上がってヒーヒー言っちゃいました。アラサー二人で、とにかく頑張ってジャンプしました（笑）」（内田）

ブラックペッパーは拓海が頑張って背伸びしているイメージ

声に出して読みたい！ マリちゃん語録［1クール目編］

第2話

「おいし一なタウンに舞い降りた一輪のバラ、美の伝道師ローズマリーよ！」

拓海の前で美しく自己紹介。ゆいは思わず拍手！ 実はこの時、マリちゃんはすでに拓海に誰かの面影を感じている。

第5話

「自信を持ちなさい。あなたには、あなたの持ち味があるじゃない」

焦ってうまく戦えないスパイシーの背中を押す一言。ここからスパイシーの反撃が始まった！

第8話

「その意気よ！ 後悔するより行動あるのみ！ そっちのほうがお肌にいいんだから！」

キュアスタがジェントルーに利用されたと知り、らんは一瞬うつむくも、即座に発奮。そこへマリちゃんの熱いエール！

第9話

「思ったことを言い合えるなんて素敵じゃない。何でも相手に合わせてたら、それこそ良い関係とは言えないもの」

互いに素直に謝って、仲直りしたここねとらん。マリちゃんは二人を温かく見守る。

第10話

「大人になると、小さな幸せでも泣けてくるの！」

たっちとあんよが上手にできるようになった化けコメの姿に、思わず感涙！

第12話

「小さじ一杯だからこそ、『希望』と呼ぶのかもしれない」

あまねの本当の心が残っていると信じたいゆい。「小さじ一杯、大事な一杯」という言葉を噛みしめるように、マリちゃんがそっと一言。

マリちゃんは自分がやるべきことを考えて行動する理想的な大人

資質を見出して「力を貸してほしい」とお願いしていたシーンも、「大変なことに巻き込むのは心苦しいけれど」と前置きしていましたね。

前野　そうしたところが、大人ですよね。とはいえ、あまねには「私にはその資格はない」って、断られましたが（笑）。

――また、マリちゃんは、デリカシーもある人ですよね。

前野　誰かが悩んでいると、そっと寄り添える思慮深さもあって。そんなふうに周囲の人たちと自然に接することができるのは素敵だなぁと思います。あと、ゆいがナチュラルにボケてくるのに対して、イヤミなくツッコむセンスもある（笑）。

――劇中ではそういうマリちゃんとゆいの掛け合いも多いですが、一緒の収録も多いのですか？

前野　初期の頃は、一緒のことが多かったです。なぜか突然に飴をくれたりして。

内田　面白いなぁ！（笑）

前野　特に僕から欲しいとか言ったわけではないんだけど、ありがたくいただきました。ほっこりしました（笑）。

――では、最後にファンへのメッセージをお願いします。

内田　拓海もブラックペッパーの姿になりました。プリキュアもこの後4人に増えて、さらに盛り上がっていきます。今作のモチーフの「ごはん」は、誰にとっても大切なもの。ごはんにまつわる思い出や、食事によって得られた体験は誰にでもいっぱいあると思うんです。『デパプリ』は、観ていてみんなと一緒にごはんを食べたくなる、みんなと一緒に過ごしたくなる作品です。物語を追いかけつつ、このボーカルアルバムも聴いて、キャラクターを深掘りして楽しんでもらえたら嬉しいです。

前野　キャラソンは、マリちゃんの柔らかさや力強さといった様々な感情を乗せて歌いましたので、ぜひ楽しんでください。本編は、毎週皆さんのツイートでトレンド入りしていて、盛り上がりを大変嬉しく思っています。ご家族で観ている方も多いと思いますが、食育としても素敵な番組だと感じています。毎回クローズアップされるお料理や食材も違うので、それを作ってみるという楽しみ方もできますし。日常の中で食べることへの感謝を忘れがちでも、この作品で、いかに食事が大切なことかをあらためて感じられると思います。皆さんが食事の際に笑顔になれる作品をお届けしたいと思います。引き続き応援をよろしくお願いします。

二人の会話が弾む日はくる？

――マリちゃんは拓海の家のゲストハウスに住んでいますが、劇中ではあまり接点がないですよね。

前野　そうなんです。拓海としては「コイツは何者？　怪しいぞ？」みたいな疑問があったので、なかなか仲良く話すには至らなかったんだと思います。マリちゃんとしては、拓海のことを微笑ましく見ていると思うんですが。

内田　物語が始まる以前に、拓海自身はお父さんからデリシャストーンやクッキングダムといった不思議な世界の話を聞いていたので、それもあって「あいつは何なんだ？」という警戒心があったのかもしれません。最近、謎の怪物が出現するようになって、それに前後してマリちゃんも街にやってきたので、「もしかしたら……」と。

前野　「何かあるんじゃないか？」ってね。でも今度は、ブラックペッパーの姿が、マリちゃんの目にはシナモンなる人物とダブって見えたりしてね。それで、今度はマリちゃんがちょっと落ち着かない感じ？

内田　その、お互いにブラインド越しに気になっている関係、面白いですよね（笑）。またここから明かされていく謎もありそうです。

マリちゃんは司令塔！

――マリちゃんが直接戦いに参加できない中、拓海がブラックペッパーとして戦う立ち位置になってしまったわけですが。

前野　ただ、マリちゃんもプリキュアといつも一緒に戦いの場にはいますからね。直接戦うことはできなくても、指示を出したり、作戦を考えたり。

内田　確かに、大事なところは押さえていますよね！

前野　最後の決め技を出す時はたいていマリちゃんが……。

前野・内田（声をそろえて）「今よっ！」

前野　「あ、マリちゃんが指示を出したから、これで決まる！」って空気に毎週なっているでしょ？（笑）

内田　頼れる司令塔ですよね！

前野　そこはおいしい役回りだなと僕も思っています（笑）。もちろん、「謎の戦士」というブラックペッパーの立ち位置も魅力的ですけどね。ピンチにやってくる人って、男性から見てもカッコいいです。

――ナルシストルー役の阪口周平さんの娘さんは、マリちゃんファンだそうですね。

前野　嬉しいです（笑）。やっぱり毎週デリシャスフィールドを展開しているというのは大きい気がしますね。マリちゃんがあの空間を展開しないと、プリキュアは戦えないというのはお子さんでも分かるのかなって。だからマリちゃんのこともカッコいいと思ってもらえているのかもしれません。デリシャストーンがなくても使える、マリちゃんの大事な能力ですからね。

キュアフィナーレ誕生へ

第5話でマリちゃんが買ってきたグミは、フルーツパーラーKASAI製。つまり、あまねも人を笑顔にする食べ物を作っている家の子どもだ。第12話ではあまねが描いたパフェのレシピッピのイラストが示され、そのレシピッピがあまねを心配してゆいたちの元へ訪れる第17話、という重層的段取りを踏んでいる。しかしあまねは、自分が関わっていいわけがない……と、プリキュアにはなれないと言う。そんな彼女が、何をきっかけにキュアフィナーレに変身するのか？

SPECIAL COLUMN 01

がんばれ!! ウバウゾーセレクション

第21話 合体モットウバウゾー
（かき氷機＆和菓子型抜き）

第5話 ウバウゾー
（泡立て器）

毎回プリキュアに浄化されてしまうウバウゾー。様々な工夫が凝らされている彼らとの一期一会もぜひ味わってほしい!

ウバウゾーデザイナー **春山和則**

「プリキュア」シリーズの名バイプレイヤーである、各話に登場する怪物。彼らはプリキュアが直接バトルする相手というだけでなく、その名称込みで、悪事自体のシンボル的な存在でもある。従って、雛形となる怪物（多くの場合は第1話登場）はおおむねキャラクターデザイナー自身が担当する。

「デパプリ」の怪物「ウバウゾー」は、「奪うぞ」というブンドル団の怪盗団設定がストレートに反映されたネーミング。レシピッピを捕らえた捕獲箱を使い、手近にある調理器具から生み出されている。

第1話のフライパンのウバウゾーは、通例通り、キャラクターデザインの油布京子さんのデザイン。だが今作では、第2話以降は、専任のデザイナーとしてイラストレーターの春山和則さんが担当している。従来は、各話作監が各話演出と相談しつつ設定を起こしていたのだが、春山さんがすべて引き受けることで、統一感の中での細かいバリエーションや、強化された際のコンセプトがよりハッキリしているのが特徴だ。

食べ物を粗末にせず毎話のバリエーションを

――春山さんは元々「プリキュア」ファンでもありましたよね。

春山　そうですね。バトルものがお得意の西尾大介さんが女児作品をやると知って、初代『ふたりはプリキュア』を見始めて以降、どのシリーズも面白くてずっと見続けてきたんです。とはいえ、僕はアニメーターではないので、仕事上の接点はなかったんですが、敵側の怪物のデザインなら僕でもやれるかなということで、お話をお受けしました。「プリキュア」にはファンとしての恩がありますから、何かしらお返ししたいなと。

――ウバウゾーのデザインで全体的に意識したことは?

春山　ウバウゾーが生み出される調理器具やおおまかな攻撃方法は脚本に書かれているので、それを元にして考えてはいますが、毎話なるべく雰囲気を変えるようにしています。なにしろ、いろんな形の鍋が元になることが多いんですよ。あとは、ふるいやお釜も。どれも形としては似ていますからね。キャラ表を作る際は、全身図と攻撃等のギミックだけでなく、「ごちそうさま」の表情も描いています。

――各話のデザインはどのようにして決定されるのですか?

春山　何パターンか浮かんで決めかねた場合は、その回の演出さんに選んでもらったりもします。ただ、たいていは僕がデザインしたものがそのまま本編に登場していますね。シリーズディレクターの深澤（敏則）さんとは、ウバウゾーが強化される区切りで、方向性について打ち合わせています。「こういう展開になるので、こういうウバウゾーになります」と聞いて、「なるほど!」というのは多いですね。たとえば第3話と第18話のウバウゾーの素材が同じだったりとか。ちゃんと伏線があるんですよね。

――どっちも寸胴鍋ってことですよね。ウバウゾーの攻撃方法を具体的なギミックにする上での苦労は?

春山　食べ物を投げるみたいなことは避けようということで、基本的に光弾なんですね。ただ、どこからどう発射されるかまでは脚本上にないことも多くて、だんだんアイデアに詰まってきて（笑）。合体モットウバウゾーみたいに、発射できそうなパーツが手に付けられるとやりやすいんですけど……。ちなみに第13話の電子レンジ型は、「チンと鳴って怒る」みたいなト書きがあったので、スッと作れましたね。第21話は、和菓子の型抜きの形でビームが出るというト書きになっていたので、ボディに型抜きの穴を作り、そこから出す形にしました。

――ウバウゾーの顔をどこに置くのかもありますよね。

春山　第5話の泡立て器ウバウゾーは苦肉の策で、泡立てる時にはボウルも使うということで、お面部分はボウルのようにしました。そうすれば、泡立て器の一番描きにくい複雑な部分も隠せるだろうと（笑）。作画的に苦労しないようなギミックを考えるのも大変だったりします。

スピリットルーたちもまだまだ活躍する!

――それ以外のお仕事ですと、レシピッピ捕獲箱（P.40参照）のデザインもあるそうで。

春山　捕獲箱の変化とウバウゾーのパワーアップが連動しているんですね。ジェントルーが使っていた最初の捕獲箱は油布さんのデザインですが、次の猫耳の捕獲箱から僕のデザインです。ナルシストルーの捕獲箱にはレシピッピを探知するレーダーが、セクレトルーの捕獲箱にはデリシャストーンがはまっています。これらの機能が書かれた村上（貴之／シリーズディレクター補佐）さんのラフをいただきました。

――ブンドル団のスピリットルーも春山さんのデザインとのことですが。

春山　「新しい幹部が出ることになったので」と連絡が来まして。これもイメージ参考で村上さんからラフ画をいただきましたが、ちょっとブリキのロボみたいな感じだったんですよね。でも脚本に「たまご王子」という表現があったので、まん丸いデザインにしました。実写作品だったら着ぐるみになるだろうな、くらいの感じにしています。帽子とマントは村上さんのラフ画のままです。苦労したのは、胸の捕獲箱がはまる部分です。状況に応じて露出するので、そうなってもしっくりくる場所を考えましたね。応援する時に使う扇子もデザインしています。村上さんのラフ画にも扇子のアイデアが描かれていました。

――第33話からから出てきたミニスピリットルーも春山さんの担当ですか?

春山　はい、そうです。こちらも村上さんのラフがあり、頭だけの状態でたくさん飛んでいて、手は工具的なアイテムに交換可能とのことでした。そこでキャラ表にも、交換パーツの参考として、ドリルやトンカチを付けておきました。そこは演出で自由に変わってOKにしています。

――最後にファンへのメッセージをお願いします。

春山　ウバウゾーって、結構本気でプリキュアをやっつけにきていますよね。たとえばかき氷機と和菓子型抜きのヤツなんて、プレシャスを体内に放り込んで削ろうとしていたし（笑）。そういう意味では、ウバウゾーたちも頑張っているんだなぁと。スピリットルーもまだ登場しますし、ミニスピたちもいます。ウバウゾーや、そうしたコミカルなキャラたちにも注目していただけると嬉しいです。

第1話 ウバウゾー（フライパン）
第2話 ウバウゾー（ペッパーミル）

第1～9話に登場した基本タイプのウバウゾー。オーソドックスな雰囲気だ。ブンドル団マーク、トゲっぽいツノ、覆面が共通モチーフ。幹部の衣装のあしらいを取り入れるのは深澤さんの要望でもあった。

第12話 強化ウバウゾー（野菜スライサー）

第10話～12話では強化型ウバウゾーが登場。ブンドル団マークに逆三角形が追加され、覆面が赤く尖ったものに変化。ここまでのウバウゾーはすべてジェントルーが生み出した。

第28話 ゴッソリウバウゾー（寿司桶）

第28話からは模造デリシャストーン付き捕獲箱で生み出される「ゴッソリウバウゾー」に。「とにかく巨大ということで「怪獣っぽく」と言われました」（春山）

第18話 合体モットウバウゾー（寸胴鍋＆泡立て器）

第17話～27話は2つの調理器具を合体させた「合体モットウバウゾー」に。「本体になる調理器具に、もう一つのパーツとして調理器具を付けるということで、印象を変えやすかったです」（春山）。脚は復活したがメカ要素は継続で、手足が蛇腹関節に。

第13話 モットウバウゾー（電子レンジ）

ナルシストルーが生み出す第13話～16話のウバウゾー。「素材となる調理器具が電化製品に変わりました。脚本に「スピードが速い」とあったため、脚をなくして浮遊型にして、速さやメカっぽさを出しました」（春山）。覆面の色と形状が変わり、マーク部分やツノの形も一新。

フルーツ！ ファビュラス・オーダー！

「みんなを笑顔にするパフェみたいな人になる」という幼少期の夢を胸に、変身したあまね。キュアフィナーレの流れるような美しさには、仲間たちも目を奪われた！

ジェントルに ゴージャスに

怪盗ジェントルーだった頃の行動から、自分はプリキュアになる資格はないと言っていたあまね。しかし犯した罪と向き合い、みんなを笑顔にしたいと奮い立つ。4人目のプリキュア・キュアフィナーレに変身し、得意の空手を活かした闘いぶりで、鮮烈なデビューを果たした。

あまねは、日々の生活でもゆいたちと行動を共にするようになっていく。兄のゆあん＆みつきのためにケーキを手作りしたり、レストラン・デュ・ラクのランチにおめかしして出かけたりと、みんなで日常を楽しむ等身大のあまねが見られるようになった。

と同時に、仲間に厳しめのマナーレッスンを課してしまい、ここねの言葉に気づかされたり、和菓子屋が閉店しないよう応援するらんに正論で応じてしまったりなど、みんなとの出会いで"学び"を重ねているのもポイント。ここねやらんもそうであったように、あまねも一歩ずつみんなとの距離を縮めているところだ。

発売中の「『デリシャスパーティ♡プリキュア』ボーカルアルバム ～ Welcome to Delicious Party ～」収録の「My true self」は、そんなあまねの心情をピタリと言い当てたようなキャラクターソングだ。4人曲「キズナ♡スペシャリティ」も、これから深まっていく友情を感じさせる。アニメ本編とあわせてぜひ聴いてほしい。

MUSIC INFORMATION

『デリシャスパーティ♡プリキュア』ボーカルアルバム ～Welcome to Delicious Party～

デリシャスパーティ♡プリキュア

●毎週日曜日●朝8時30分●ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP●https://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/

★「映画デリシャスパーティ♡プリキュア 夢みる♡お子さまランチ！」は9月23日公開。

道が見えたから彼女は迷わない

菓彩あまね★キュアフィナーレ役
茅野愛衣

かやの・あい
9月13日生まれ／東京都出身／大沢事務所所属／「社畜さんは幼女幽霊に癒されたい。」（かかさま）、「継母の連れ子が元カノだった」（伊理戸由仁）ほか

菓彩（かさい）あまね
キュアフィナーレ
自責の念から生徒会長を辞めようとしていた。だが、プリキュアに変身するまでの想いの過程を経て前向きに捉え、辞任は撤回した

ゆいの隣で掛け合って本当の心を取り戻した

——ようやくあまねもプリキュアに変身したわけですが、キュアフィナーレの印象はどうですか？

茅野　あまねの願い通り、「パフェになれた」姿がキュアフィナーレなんですよね！　おいしいものやスイーツがいっぱいで、アイテムのクリーミーフルーレもかわいらしいです。でも、可憐なだけでなく、めっちゃ強そう。変身も技も、きらびやかなのにキビキビしていて。デザートって甘くてかわいいイメージですけど、彼女は甘すぎない感じが面白いです。変身や技で笑顔を見せるカットもありますが、キメのところはキリッとしていて、まさにジェントルでゴージャス。「食卓の最後を、このわたしが飾ろう」って口上もカッコいい。確かにコース料理の最後はデザートだもんね、うまい！（笑）ただ、ジェントルーの頃もかわいかったので、あの姿に会えなくなったのがちょっと寂しいんです。

——そうですよね！

茅野　キャラクターとしてもよかったですよね。毎回失敗して去ってく時の一言、たとえば「カレーは買って帰るか」とか面白くて。演じながら「怪盗なのに自分で買って帰るの？　お小遣い大丈夫？」なんて心配していました（笑）。

——ジェントルーは第1話から出ていましたが、あまねとしての初登場は第5話で、やや遅めでしたね。

茅野　でも、「序盤のあまねはジェントルーとして暗躍します」と聞いていたので、むしろ私としては「こんなに早くあまねちゃんが見られるんだ！」という感じでした。あの頃のあまねは心を操られた〝ジェントルー・モード〟でしたよね。声の出し方は「いつも通りで大丈夫です」と言われたので、特に演じ分けは意識せず、ジェントルーと同じような感じで演じました。だから最初ちょっとドキドキしましたね。だって声は同じだから、普通に考えたら正体がバレるじゃないですか！（笑）

——確かに（笑）。

茅野　私のお友達の娘さんがプリキュアが大好きで、親子で観てくれているんですけど、その子はジェントルーと生徒会長のあまねが同じ人だとは気がつかなかったみたいで。それで私も「子どもたちにはバレていないんなら大丈夫だ、シメシメ」なんて思ったり（笑）。

——ジェントルーと本来のあまねの心が衝突するシーンは、もう一人の自分が出てくるような描写でした。

茅野　ジェントルーを止めようと、もう一人の自分の声が心の中から聞こえてきましたよね。とても印象深いです。このシーンまで、〝通常モード〟のあまねを演じていなかったので、演じ方をスタッフさんと相談しました。もうちょっと女性的で柔らかい言い方にするのかなとも思ったのですが、そこは同一人物なので、あまり意識せずやることになりました。心が操られた状態から少しずつ抜けて、またジェントルーに戻ってという変化の流れは、スタッフさんと細かく確認しながら演じていきましたね。

——ジェントルーとしてのラストとなった第12話の収録はいかがでしたか？

茅野　第12話は、ゆいが「あまねさんの心を返して！」と向かってくる話ですよね。この回から、私もプリキュアチームとして収録しました。特に印象的なのは、ゆいとのやりとりです。私、ゆい役の菱川花菜ちゃんのことを「ばなな」って呼んでいるんですけど。

——ばなな？

茅野　「花菜」が「はな」と「な」なので。初めて会った時に「『ばなな』って呼んでください！」って言われたんです。お友達からそう呼ばれているからと。ところが現場では私しか「ばなな」って呼んでいなくて（笑）。

——皆さんはどう呼んでいるのですか？

茅野　みんなは「はなちゃん」とか、かわいい呼び方をしているんです。だから私だけちょっとおかしな感じで（笑）。話を戻すと、この第12話までは、ばなな

私立しんせん中学校の夏制服

夏私服

フルーツパーラーKASAIのエプロン姿

あまねの道着姿

たちとなかなか一緒に録るタイミングがなかったんです。それがやっと叶い、ばなながが私の隣のマイクでやりたいと言ってくれたんですよ。今は、右から「あまね、らん、ゆい、ここね」のマイク位置で録っているんですけど、第12話に関しては、私がらんちゃんと位置を変わって並んで録りました。初めてしっかり掛け合いができて、私もとても嬉しかったですね。

―この回で、あまねは本当の心を取り戻せましたね。

茅野　そうなんです、やっと。でもこの段階では、まだゆいと心の距離を詰めすぎないほうがいいだろう、ゆいを受け入れすぎないほうがいいだろうというのもあり。それでアフレコの休憩時間でも「私はまだジェントルー。仲良くするにはまだ早い」と自分に言い聞かせて、3人とは雑談もせず、おとなしくしていました（笑）。

―3人とはちょっと離れた位置で？

茅野　そうですそうです。実際に演じる時に、親しげな感情がつい乗ってしまったらダメですからね。

正義感の強い生徒会長！ みんなの憧れのお姉さん

―現在のキュアフィナーレやあまねを演じる上で意識していることは？

茅野　彼女は性格的にお姉さんなので、基本的に落ちついたイメージで演じるようにしています。声のトーンは低いですが、怖くならないように。観てくれている子どもたちへの圧が出てしまわないように注意しています。プリキュアとして技を出す時は「フィナーレ・ブーケッ！」とキリッと強そうに。でも、見た目のかわいさも念頭に置きつつ。クールさと優しさのバランスを考えながら、毎回演じています。

―フィナーレ初変身編の第17話、18話はいかがでしたか？

茅野　〝通常あまね〟として、ゆいたちや学校の友達ときちんとお話できたのは、第17話が初めてでした。あまねはこんなにみんなに慕われる存在なんだなって分かりましたね。自分は生徒会長にふさわしくないのではと思い詰めるシーンもあり、彼女の責任感も伝わってきました。それと、ジェントルーだった時のことも全部覚えていると明かされましたね。

―正義感の強いあまねとしては、記憶があるのはつらいかもしれませんね。

茅野　本当につらいですよね。でも、記憶をなくしていたほうが、もっと苦しさが増したかもしれない。たぶんゆいたちから気を遣われ続けてしまい、それが何なのか分からずモヤモヤしていた気がするので。記憶があるからこそ、事実を受け入れて前に進めると思うんです。ブンドル団の一味だったことを覚えていることは、彼女にとってはある意味で救いでもあったんじゃないかな。

―自分の過去を乗り越えようとする、強い心を持っていますよね。

茅野　本当に強いですよね。すでに大人なんですよ。聡いし、知識量もあるし。さすが生徒会長として慕われるだけはありますね。大人から見てもカッコいい女の子です。そんなまっすぐなあまねだからこそ、ブンドル団に利用されてしまったのかな。なんであまねを選んで洗脳したのか、問い詰めたい気持ちですね。ナルシストルーは「（あまねは）土地勘があるから」とか言ってたけど、そこなの？（笑）

―そこはちょっと怪しいですよね（笑）。第19話からは、あまねの日常も描かれています。

茅野　みんなでワイワイ楽しいです。ゆいだけじゃなく、らんやここねとの絆も深まりました。日常や闘いを通してどんどん分かり合えていく姿を見ていると、「やっと4人で仲間になれた！」って感じがしました。だから初変身回よりも、プリキュアになれた実感が湧きました。第20話ではみんなにテーブルマナーを教えたり、第21話で和菓子の知識を披露したりして。私も知らないことを、彼女はいろいろと知っているんです。第22話で拓海のゆいへの片想いにサッと気がついたのも、さすがだなって。観ている子どもたちから、「こういうお姉さんになりたい！」と憧れてもらえるといいなと思います。あまねはお兄ちゃんたちもカッコいいし（笑）、友達も多いし、本当に素敵な女の子です。

静かな決意の歌と 仲間たちの笑顔の歌

―7月20日に発売した「『デリシャスパーティ♡プリキュア』ボーカルアルバム～Welcome to Delicious Party～」には、あまねのソロ曲とプリキュアの4人曲が収録されています。

茅野　ソロ曲の「My true self」は、とても「あまねのための歌！」という感じがして歌いやすかったです。ブンドル団から解放されたあまねの、静かな決意の歌だというのを意識して歌いました。

―出だしの「真っ直ぐに　わたしの正義で　これからも進もう」が、まさに葛藤を乗り越えたあまねですね。

茅野　嬉しかったです。「あまね、もう大丈夫だね、よかったね」という感じで。道が見えれば彼女は迷わないと思うので、歌っていて安心する曲でした。プリキュア4人で歌う「キズナ♡スペシャリティ」も耳に残る楽しい曲です。私のレコーディングは一番最初だったので、どんな仕上がりになるのか楽しみでしたが、完成版を聴いたらみんなそれぞれのらしさが詰まっていました！

―この「キズナ♡スペシャリティ」の茅野さんは優雅な雰囲気があり、「My true self」との違いが際立ちます。

茅野　こっちはキュアフィナーレとしての歌なので、少しフィナーレらしさを感じてもらえるようにと。キャラソンでは、どうしても普段のお芝居では使わないトーンも必要になってくるので、彼女なりの優雅さが出るよう工夫しながら歌いました。

―2曲で、お気に入りのフレーズは？

茅野　「My true self」はやっぱり、先ほど話した出だしですよね。それから「幸せのデザートを　ほおばった時みたいな」のあたりは、清々しさや軽やかさを意識しながら歌いました。あまねはずっと眉間にしわを寄せているようなことが多かったので、ここでは青空の下で、緑の多い空気のきれいな場所にいる感じで。

―とても開放的なイメージですね。

茅野　そう、今まで暗い中にいたのが、やっと空が見えて光が射して……という解き放たれたイメージで歌いました。「キズナ♡スペシャリティ」のほうは、どの歌詞も作品のメッセージそのものという感じがして「深い！」ってなります。4人で声を合わせる「かならず！」とか「やくそく！」のあたりが特に好きです。仲間と同じ時間を楽しめるようになったイメージで、みんなの笑顔を思い浮かべながら歌いました。10月の「デリシャスパーティ♡プリキュア LIVE 2022 Cheers！Delicious LIVE Party♡」も楽しい時間になりそうです。ただ、私はむしろ客席から観ていたい気分なんですけどね（笑）。Machicoちゃんたちシンガーも出るので、子どもたちと一緒にペンライトを振りたいです。

―茅野さんがステージで歌うのは久しぶりなのでは？

茅野　ええ、もうずっと歌っていないです。大丈夫かな（笑）。そもそもこのレコーディング自体が、久しぶりに歌を歌った感覚だったし、ライブに向けて練習しないと！

―期待しています。最後にファンへのメッセージをお願いします。

茅野　今は個食や黙食が言われていますが、みんなでごはんを食べることは本来楽しいことなんだよ、悪いことじゃないんだよというのが、観ている子どもたちや皆さんに伝わっていればいいなと思います。新しく仲間入りしたキュアフィナーレとしても、華やかな変身シーンも含めて活躍を楽しんでもらえたら嬉しいです。そしてプリキュアといえば玩具です（笑）。お子さんにプリキュアの玩具をねだられた時は、ぜひ今回のボーカルアルバムと共に、優しい笑顔で買ってあげてくださいね。

実際に拳を突きあげながら「ブンドル、ブンドル～!」

「ブンドル団の『ブンドル、ブンドル～！』の掛け声は楽しかったです。ジェントルーは、こういう掛け声を進んでやるタイプではなさそうですが、これは儀式的に、そういう決まりだと思って一生懸命やっていたんでしょうね。決まりごとは真面目にやる子だと思うので（笑）。

アフレコでは、いつも木下紗華さん（セクレトルー役）と二人で声を合わせていました。実際、あの拳を突き上げるポーズもやりながら。そのほうがやっぱり気合いが入りますから（笑）。頭に『せーの』があるのもいいですよね。台本でこれが入っていなかったこともあって、その時はお願いして足してもらったんです。だってセクレトルーさんの『せーの』がないと寂しくて（笑）。タイミングを合わせるためだけじゃなく『せーの、ブンドル、ブンドル～！』でワンセットだと思います！

本来ブンドル（＝分捕る）のはいいことじゃないんですが、つい言いたくなる掛け声ですよね。個人的にはまたやりたいんですけど、フィナーレになった今は、きっともうできないんでしょうね（苦笑）」

ナルシストルー

フィナーレには「もうすっかりプリキュアだな」、プラペには「プリキュアも迷惑だよ」と言い動揺を誘う。相変わらずイヤな性格？

偉そうでかわいい！ パフェのレシピッピ

パフェのレシピッピ

「パフェのレシピッピ、私は『パフェピッピ』って勝手に呼んでいるんですが、強気な性格で面白いですよね。パフェピッピは、第18話の幼い頃のあまねとのやりとりがかわいくて！　事務所の後輩の島袋美由利ちゃんが演じてくれたのもあって、とっても楽しかったです。このパフェピッピがあまねのエナジー妖精的な存在になるんだろうなと思っていたら、違ったみたいで……。パフェピッピとの絆でキュアフィナーレは生まれたので、今後もいつでも出てきてくれていいんだよ！」

仲間と一緒に！

「4人のバランスがすごくいいですよね。ゆいが誰とでも仲良くなれる子で、ここねやらんの悩みやコンプレックスも、すべてバーンとぶち壊してくれて。天真爛漫な笑顔で『大丈夫だよ！』みたいな。すごいパワー系ピュア女子で、潔くて気持ちいいです（笑）。フルーツに例えると、同じ一つの房にみんなで仲良くくっついてるような感じがするんです。4人の会話にも自然と役割が決まってきていて、それがまさに和洋中、そしてデザートという感じ。ここが新しい居場所なんだなって思えるし、いい子ばかりだし、みんなのことが大好きです」

ドレスアップしてお食事へ

和実（なごみ）ゆい　キュアプレシャス

あまねのマナーレッスンでは、らんと共に落第点。でもここねの言葉で、マナーを覚えることも「ごはんは笑顔」のためだと気づいた

芙羽（ふわ）ここね　キュアスパイシー

両親からの「思いやりこそマナー」という教え。それをきちんと受け取っているとあまねに言ってもらえ、心から嬉しく思うのだった

華満（はなみち）らん　キュアヤムヤム

和菓子屋さんの閉店を食い止めたいと思うが、お店の事情もあるはずとあまねに言われ意気消沈。それでも孤軍奮闘でお店を応援する

幼い頃の夢はパフェになること

「まさか幼少期のあまねが、『私パフェになりたい！』なんて言っていたとは（笑）。このセリフだけ聞くとちょっと突飛ですが、彼女の気持ちは大真面目です。みんなを笑顔にできるパフェになりたいって、本当に素敵な夢だなぁって思いながら演じました」

おいしい幸せ

後期ED主題歌「ココロデリシャス」

佐々木李子

後期ED主題歌を務めているのは、これが「プリキュア」シンガーデビューとなる佐々木李子さん。思わず胸がキュッとなるような、エモーショナルな色合いを感じる一曲だ。

ささき・りこ
1997年11月10日生まれ／秋田県出身／テレビ朝日ミュージック所属／声優としての活動は「かげきしょうじょ!!」（山田彩子）、「邪神ちゃんドロップキック」（ぽぽろん）ほか

7月31日からオンエアされている、佐々木李子さんの後期ED主題歌『ココロデリシャス』。アップテンポで爽やかな曲調に、伸びやかで透明感ある歌声が見事にマッチしたナンバーだ。

Aメロは穏やかで、まさに歌詞通り、木漏れ日のようにリリカル。続くBメロは英単語を少し弾ませ、元気なアクセントにしている。タイトルの「ココロデリシャス」のワードが出てくるサビは、一気に想いが高まっていくような広がりを感じさせる。CD収録のフルサイズ版だとDメロも聴きどころで、ややしっとりと趣が変わる。

ストンと終わるアウトロ部分は、TVサイズ、フルサイズ共に同じ。キラキラとした余韻を残す形になっているのも心憎い！

MUSIC INFORMATION

8月24日発売
『デリシャスパーティ♥プリキュア』
後期主題歌シングル

CD+DVD

通常盤

初回特典には10月29・30日開催の「デリシャスパーティ♥プリキュア LIVE 2022 Cheers！ Delicious LIVE Party♥」先行抽選応募券も！

ごはんってすごいパワーがある！

甘く楽しいだけでない様々な味わいを

――後期ED主題歌を歌うと決まった時はいかがでしたか？

佐々木　嬉しくて涙があふれました。初代『ふたりはプリキュア』放送時、私は小学1年生で、もうズバリの世代なんです。そこから時を経て、憧れのプリキュア」の歌を歌わせてもらえるなんて！　私は歌が大好きでずっと活動を続けてきたので、「プリキュア」の歌を自分で表現してみたい想いも強かったんです。なので、めちゃくちゃ練習して主題歌オーディションに臨みました。

――この「ココロデリシャス」を最初に聴いた時の印象は？

佐々木　優しくて温かくて、聴き終わった時に、お腹いっぱいな幸せな気持ちになりました。と同時に、未来への希望がどんどん広がる感じがしました。サビではちょっと切なさもありますよね。たぶん、キュアプレシャスたちもこれからいろいろな経験をしていくんだと思います。楽しいだけじゃなく、みんなで壁を乗り越えたりもするのかなと。

――レコーディングする際に意識したことを教えてください。

佐々木　目の前に子どもたちがいて、一緒に目線を合わせて歌う状況をイメージしながら、優しく語りかける感じを意識しました。そこはスタッフさんからもアドバイスしていただいたところです。それと、歌詞を読んでいると今までの私の「おいしい記憶」が蘇ってきて。たとえば出だしのところは、家族と外でバーベキューしたなぁとか。2番では、ちょっと疲れた時に好きなお菓子を食べたら元気が出たなぁとか。そういう自分のリアルな思い出から浮かんできたイメージを、どんどんメモしていきました。聴いている人も、それぞれの「おいしい思い出」が呼び起こされるといいなって。

――レコーディングに際しては、いつもそういうメモを作るのですか？

佐々木　そうですね。いつもしっかりメモ書きして臨みます。「ここはこういうふうに伝えたい」というのを、歌詞に書き込んでいくんですけど、今回はそれが多すぎて！　何度も何度も書き込んで、歌詞の紙がボロボロになっちゃいました（笑）。

――そんな歌詞の中で、お気に入りのフレーズは？

佐々木　「キミとだから…、こんなにおいしい！」という2番のDメロの最後の部分。ここは一番共感したところです。一人ごはんもいいんですけど、やっぱり誰かと一緒に食べるのはすごく幸せなことだなって。ただおいしいだけじゃなく、そこに気持ちが上乗せされますよね。この歌のオーディションの合格通知をもらった時も、事務所のスタッフさんがごちそうを用意して、小さな祝賀会を開いてくださったんです。

――それはいいですね！

佐々木　そういう思い出が蘇ってきてウルッとくる、すごく好きなフレーズです。それと、タイトルにもある「ココロデリシャス」という言葉。「心」と「おいしい」を結び付けているのがいいなって。感情にも、甘い、辛い、酸っぱい、苦いといった様々な味がありますよね。それらを味わえるようになったら、もっと人生が彩られて深みができていくんだろうなって。フルバージョン最後の「がんばる勇気はきっとね　キズナを結んでいくよキミとデリシャスなココロに」というところも大好きです。

衣装のチャームポイントは？

「動くとスカートがふわっとなるのがかわいいし、エプロンスタイルなところも好きです。普段の私はフリフリした服はあまり着ないので新鮮です。Machico さんの衣装は赤、吉武さんは青ですが、私は黄色でちょっとオムライス感がありますよね（笑）。差し色で赤や緑もあって、全体的に食材っぽい感じもあります。カラフルでお気に入りです！」

お気に入りのキャラは？

「キュアスパイシーには共感できるところがたくさんあります。彼女は元々一人の時間が好きだった子ですが、ゆいちゃんと関わることで、誰かと一緒に過ごすことの大切さを知りました。私もそうで、もともと一人でいることが好きだったんですが、ライブイベントとかで誰かと時間を共有することもいいなと思えるようになったんです。それに私、辛いものも好きで。スパイシーって名前も素敵です！」

10月のライブもデリシャスマイルで

――佐々木さんは『デリシャスパーティ♡プリキュア』ボーカルアルバム～Welcome to Delicious Party～』収録のイメージソング「Welcome to Delicious Party」も歌っています。これは『デパプリ』主題歌シンガー3人での曲ですね。

佐々木　「ココロデリシャス」だけかと思っていたので、もう1曲あって嬉しかったです。しかもMachico さん、吉武千颯さんと3人で！　タイトル通り、みんなでパーティしているような明るい曲で、テンションが上がるメロディです。私も自然とノリノリになりました。「トントン」「ジュージュー」って、リズミカルで楽しい擬音の言葉もたくさん出てくるので、そこは歌っているというよりは、料理している感じを意識しました。3人バージョンだけじゃなく、それぞれのソロも収録されています。

――三者三様、見事に違いが出ていますよね。

佐々木　はい、ソロバージョンは3人それぞれの個性をぜひ楽しんでほしいです。スタッフさんからは「感謝の気持ちを大切に歌ってください」と言われたので、私は「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとう」といった想いを意識しました。

――この曲のお気に入りのフレーズは？

佐々木　Dメロの「さっき泣いてたあの子も笑うくらい ごはんってすごいパワーがある」です。本当にみんなに届いてほしいメッセージだと思うので、ここは瞼を閉じて、特に気持ちを込めて歌いました。

――10月には「デリシャスパーティ♡プリキュア LIVE 2022 Cheers！Delicious LIVE Party♡」もあります。

佐々木　『プリキュア』の歌を歌わせてもらえる、ありがとうの気持ち」を直接伝えられる場を設けていただき感謝です。プリキュアが大好きなお友達に会えるのが楽しみです。ライブを見終わった後にお腹いっぱい、胸いっぱいになるように、私自身もデリシャスマイル～！で楽しみたいです。五條真由美さんなど歴代のシンガーの方も何人か出演されるので、私がちっちゃい頃から大好きだった曲も聴けたりするのかなぁと、一ファンとしても楽しみなんです（笑）。

――五條さんといえば『ふたりはプリキュア』ですものね。

佐々木　私、カッコいいプリキュアが好きなんです。だからキュアブラックに憧れていました。ブラックになりきって、玩具のカードコミューンにカードをセットしてポーズをとったり（笑）。授業で育てるアサガオには、メップルをもじって「アサップル」って名前をつけたり（笑）。小1の時の親友がキュアホワイトが好きだったので、お昼の校内放送でカラオケ大会みたいなのがあった時は、二人で一緒に「DANZEN！ふたりはプリキュア」を歌いました。

――素敵な思い出ですね。

佐々木　先生にも誉めてもらえました（笑）。そういうことがあって、私は歌うのが好きだなと思い始めて、2年生くらいから歌のレッスンを始めたんです。まさにプリキュアあっての今の私ですね。

――最後にファンへのメッセージをお願いします。

佐々木　私も作品を通して「今日を頑張るパワー」や「夢に向かっていく勇気」を皆さんと一緒に受け取りながら、歌っていきたいと思います。歌の中にも、人生の大切なキーワードが散りばめられているので、物語も歌も全部合わせて大盛りで楽しんでもらえたら嬉しいです。

撮影＝大山雅夫

ドリーミアへ!

今年の映画がまもなく公開！
お子さまランチのテーマパークで
キュアプレシャスやエナジー妖精たちが大活躍！

ドリーミアに遊びに来たゆいたち。入場証としてドリーミアリングをもらってワクワク！

キュアスパイシー 芙羽ここね
ドリーミアの話を聞き、「楽しそう」と遊びに行くことに賛成。園長のケットシーが有名な発明王でもあることを、ゆいに教える

キュアフィナーレ 菓彩あまね
ドリーミアの入場ゲートで、ケットシーの発明の力でエナジー妖精が人間の姿になったのを見て、「まるで魔法だな」と驚くのだった

キュアヤムヤム 華満らん
ドリーミアでは、コメコメだけでなく、パムパムとメンメンも人間の姿に。そのかわいさに、ここねと共に大感激！

メンメン

映画オリジナルキャラクター
ケットシー
声／花江夏樹
ドリーミアを作った園長さん。風変わりな動物のぬいぐるみのような姿をしている。コメコメたちエナジー妖精と親しくなるが……

パムパム

キュアプレシャス 和実ゆい
突然ドリーミアなるテーマパークが現れて驚く。「ごはん食べ放題」と聞いて、さっそく遊びに行こうとみんなを誘う

お子さまランチのレシピッピ

コメコメ
ゆいのようなヒーローになりたいと夢みている。お子さまランチは大人は食べないと知り、ためらってしまう

STAFF●監督／座古明史　脚本／田中 仁　総作画監督・キャラクターデザイン／松浦仁美　美術監督／渡辺佳人　音楽／寺田志保　アニメーション制作／東映アニメーション

映画デリシャスパーティ♡プリキュア 夢みる♡お子さまランチ！

●9月23日(祝・金)ロードショー
HP●https://2022.precure-movie.com/

早くも今年の映画の公開日が迫ってきた。脚本は『Go！プリンセスプリキュア』『キラキラ☆プリキュアアラモード』シリーズ構成の田中仁さん、監督は『HUGっと！プリキュア』シリーズディレクターの座古明史さんと、「プリキュア」ではおなじみのお二人。座古さんは食べ物が紡ぐドラマを情感たっぷりに描くことでも定評がある演出家で、田中さんも〝食べ物プリキュア〟つながりの『プリアラ』のメインスタッフという、打って付けの布陣だ。

物語の舞台は、ゆいたちの住むおいしーなタウンにオープンした、お子さまランチのテーマパーク「ドリーミア」。子どもたちは無料招待の上に食べ放題飲み放題と聞いて、ゆいたちは大喜びで出かけていく。驚いたことに、ドリーミアではエナジー妖精たちも人間の姿になれて、7人は楽しく園内を巡る。そんな中、早く大きくなりたいコメコメは、お子さまランチは子どもっぽいのではと感じてしまうが……。一方、ドリーミアの秘密を調査しようとしたマリちゃんは、突然小さなぬいぐるみの姿に!?

一体ドリーミアにはどんな謎が隠されているのか。そしてキービジュアル奥にいる女の子は何者？　公開が待ちきれない！

プリキュアとしての凛々しい姿はもちろん、みんなに優しいゆいにコメコメは憧れる

★TV『デリシャスパーティ♡プリキュア』は毎週日曜日、朝8時30分、ABCテレビ・テレビ朝日系列にて放送中

左から、清水さん、茅野さん、菱川さん、井口さん
撮影＝大山雅夫

入場者プレゼントは、キラキラ光るドリーミアリング！

ケットシーはドリーミアの園長として、入場した子どもたちにたくさんの料理を振る舞う

キュアプレシャス♔和実ゆい役
菱川花菜

キュアスパイシー♔芙羽ここね役
清水理沙

キュアヤムヤム♔華満らん役
井口裕香

キュアフィナーレ♔菓彩あまね役
茅野愛衣

お子さまランチはまるでプリキュア盛り合わせ!?

――今回の映画は「お子さまランチ」がモチーフになっています。

菱川　お子さまランチって、私も子どもの頃にワクワクしたメニューですが、何か一つのお料理にフォーカスするのではなく、いろいろなジャンルのお料理が一つのお皿にドンと合わさっているんですよね。それがすごく「デリシャス」で「パーティ」している感じがして！　本当に『デパプリ』そのものだなぁって感じがするし、同時に「どんな物語になるんだろう？」というワクワクも大きかったです。

清水　タイトルだけでもかわいらしくて、ウキウキしました。自分が昔食べたお子さまランチを思い返して……子どもの頃は決まったレストランでよく食べていたんですけど、あの頃の気持ちが蘇ってきました。そもそも『デパプリ』という作品自体、楽しくてワクワクして、時折切なさもあってという、お子さまランチみたいにバラエティに富んだ内容ですよね。ちょっと一つの芸術作品みたいな感じで。この映画も、そういうお子さまランチみたいな素敵な作品になるんだろうなって、収録を楽しみにしていました。

井口　映画の舞台がお子さまランチのテーマパークと聞いて、「そう来たか！」という感じでしたね。お子さまランチは子どもたちが大好きなメニューだし、『デパプリ』は色とりどりで見た目も楽しいので、そういうキラキラ感もピッタリだなって。このモチーフで物語がどう進んでいくのかなと、とっても楽しみでした。映画の台本をもらった時は、普段のTVの時よりもすごく分厚くて！　これは演じがいがありそうだなと思いました。

茅野　本当に、お子さまランチというモチーフをよく思いついたなぁって。お子さまランチって、フルコースがまるっと1プレートに収まったものですし、『デパプリ』の4人がそろうと、和洋中にデザートと、ちょっとお子さまランチみたいですよね。だからなんだか「プリキュア盛り合わせ」みたいで！（一同・笑）子どもたちは絶対に喜んでくれるに違いないって思ったし、台本を読んで、これは大人も楽しんでもらえるだろうなと感じました。無事に収録を終えた今は、公開が待ち遠しいです。

エナジー妖精が変身!? やっぱりうちの子一番♪

――コメコメだけでなく、パムパムやメンメンも人間の姿になるのも見どころですね。

清水　もう何度も映像を見返しました。「パムパムが人間の姿になってる!?」って。

井口　かわいいよね。尻尾まであって！

清水　みんな超かわいいです！　でも、やっぱりうちの子、パムパムが一番です！（一同・笑）キュアスパイシーと双子コーデみたいな服装からも、相思相愛ぶりがあふれていて。アフレコ現場でも、そのことをなっちゃん（日岡なつみさん）と語り合いました。映画の中で、ここねとパムパムがハグするシーンがあるんですけど、そこもすごくかわいくて、めっちゃ想いを込めて演じました。

井口　いやいや、うちの子、メンメンが一番かわいいですよ！（一同・笑）やはり私の目に狂いはなかった！　しかも一人だけ男の子なのがポイントで、このハーフズボン、もうケシカランですよ（笑）。髪もちょっと天然パーマみたいにクルクルモフってなっていて。

菱川　キュアヤムヤムに似ていますよね。

井口　似てる！　お互い好き同士だと、似てしまうのかな？　服もチャイナっぽいですし、めちゃめちゃかわいいです！　人間の姿のエナジー妖精たちのアクスタが欲しいです！

茅野　そうだよね、こんなにかわいいんだもん、グッズ欲しいよね！

菱川　手元に置いておきたいですよね！

――コメコメはどうですか？　TVよりもさらに大きくなりましたね。

菱川　映画での服はワンピースで、ちょっとゆいちゃんっぽくてかわいいです♪　コメコメは3匹の中では一番幼いんですけど、その分、今回の映画でも、ぐっと成長するんです。そこがもう、親目線になっちゃうというか（笑）。

井口　今回の映画は「ゆいみたいになりたいコメコメ」の話でもありますからね。本当にゆいのこと、好きなんだよね～。

菱川　コメコメが一番かわいい！（キッパリ）

井口　と思うじゃん？　でも一番はメンメンなんだよなぁ！

清水　いえいえ、パムパムですよ。そこは譲れない！

――（笑）。茅野さんから見て、どうですか？

茅野　いやぁ、どの子が一番かなんて決められませんよ！　みんなペア妖精がいていいなぁ。けど私にはパフェピッピ（パフェのレシピッピ）がいるからいいもん！（笑）でも本当、エナジー妖精たちの活躍も今回の映画の見どころです。

――劇場では、子どもたち向けの入場者プレゼントとして「ドリーミアリング」が配られますね。

菱川　指輪にコメコメが付いているんです！

茅野　光るのが楽しい！　子どもの頃の自分にあげたい！

菱川　私も子どもの頃、映画館でアイテムを光らせてた～！

――菱川さんは、プリキュアのミラクルライトを実際に振っていた世代ですね。

菱川　そうなんです！　ライトを見るとテンションが上がるんですよ。なんででしょうね。

茅野　分かる！　キラキラしているからかなぁ。キャンドルの灯火でもテンション上がるし。

菱川　暗い場所が怖い子っているじゃないですか。私も小さい頃そうだったんですけど、こういうライトがあると、暗い映画館も全然怖くなくて。みんな光らせて振っているし、それがキラキラと星みたいに見えてきれいなんですよ。

井口　映画の劇中ではこのリングをみんなで着けて、ドリーミアに入ってワーッてはしゃぐんです。

清水　私たち自身、本当にテーマパークに行ったような気分で収録しました。

井口　このリングは、ドリーミアに入る時の証というか入場パスみたいな感じなので、みんなもこの証をキラキラさせながら観てくれたら、より一体感を感じられると思います。

茅野　子どもたちにはこれを着けてドリーミアにやってきた気持ちで、みんなでプリキュアを応援しながら観てもらいたいです。

子どもたちのごちそうであるお子さまランチ。「デパプリ」ならではのモチーフだ！

みんなのテーマパーク

主題歌

「ようこそ、お子さま♥ドリーミア」

後本萌葉

のちもと・もえは 2002年8月17日生まれ／東京都出身／Apollo Bay所属／声優としての活動は『プラチナエンド』（生流怜愛）、『惑星のさみだれ』（月代雪待）ほか

今回の映画主題歌は、ミュージカル調の長尺曲。20歳になったばかりの後本萌葉さんがピュアな歌声でいざなってくれる！

『映画デリシャスパーティ♥プリキュア 夢みる♥お子さまランチ！』の主題歌「ようこそ、お子さま♥ドリーミア」。すでに予告編などで聴くことができるが、テーマパークの音楽らしい、パレード調のキャッチーなメロディだ。

でもそこは、楽曲全体としてはほんの一部分。なんとフルサイズは8分11秒もあるのだ！ しかも全編楽しい雰囲気で通すのではなく、途中でダークになったり雄大な感じになったりと、クラシックの組曲のように何度も曲想が変化していく。そして、テーマパークとしてのドリーミアの紹介のみならず、この映画のテーマに根ざした部分にも分け入っていく。

歌うのは、これが歌手デビューとなる後本萌葉さん。「プリキュア」ファンにはおなじみの吉武千颯さんは事務所の先輩にあたり、二人は「ちーちゃん」「もえちゃん」と呼び合う仲。今後のコンビネーションにも期待大だ。

フレッシュな後本さんが堂々と歌い上げる、千変万化なこの一曲。CDでフルで歌を味わい、公開間近の映画に思いを馳せよう。

MUSIC INFORMATION

「映画デリシャスパーティ♥プリキュア 夢みる♥お子さまランチ！」主題歌シングル

CD＋DVD

通常盤

初回特典には10月29・30日開催の「デリシャスパーティ♥プリキュア LIVE 2022 Cheers！Delicious LIVE Party♥」先行抽選応募券も！

9月21日発売

夢に向かう人たちの背中を押せるといいな

子どもが頑張って歌っているイメージで

—『映画デパプリ』の主題歌を歌うと決まった時は、いかがでしたか？

後本 もう夢を見ているんじゃないかってくらい嬉しかったです！ 私、「プリキュア」シリーズと共に育ってきて、小学校高学年くらいまでずっと「プリキュア」を観ていたんです。普通の中学生が変身して勇敢に戦っているというのが、子ども心にとってもカッコよくて惹かれていましたね。なので今回、「ついに私が、こっち側（送り手側）なんだ！」って（笑）。子どもたちにプリキュアを届ける立場なので、責任重大です。

—先輩の吉武さんから、お祝いの言葉もあったのですか？

後本 ありましたが、実は私が主題歌に決まったことを、私が知る前に知っていたらしくて。別のお仕事でご一緒した時、その帰り道に食事をごちそうしてくれたんです。なんでなのか理由が分からずにいたんですが、話しているうちに、私がまだ知らないのを察したみたいで……（笑）。

—吉武さん、大フライングだったのですね（笑）。

後本 その日は、普通に楽しく話しておしまいだったんですが、後日、主題歌に決まったことを私も知って報告したタイミングで、「おめでとう。一緒に頑張ろうね！」ってお祝いの言葉をもらいました。嬉しかったです。

—そんな今回の歌ですが、なんと8分超の長尺曲ですよね。

後本 すごく驚きました。送られてきた音源データを開いたら「8分」って表示されて「？？」って（笑）。しかも全編、とても変化に富んだ曲で「まさかこれ、私が全部歌うの？」って。

—歌ってみていかがでしたか？ 最初はテーマパークの音楽らしい感じで始まりますね。

後本 そこはテンションマックスでいきました！ その後、ダークなパートに入るので、そこは最初思いっきり怖くしてみたんです。けど、スタッフさんから「子どもっぽさを残しながら怖くしてほしい」と言われたので、子どもが頑張って悪ぶっている感じで歌ってみました。

—そのダークなパートも、途中からは勇ましい雰囲気になります。

後本 曲全体としてケットシーの気持ちを歌っているんだと思うんです。レコーディングした時は映画のストーリーは知らなかったんですけど、「歌の主人公」の気持ちはきっとこうなんだろうなと想像しながら歌いました。

—ケットシーも緑のキャラなので、色味的にも後本さんのお名前とシンクロしていますね。

後本 ありがとうございます。萌葉って名前、本名なんです♪

この歌でライブ会場をテーマパークに!?

—穏やかな間奏を挟んでからは、優しい雰囲気のパートがきます。

後本 この歌は「夢」がテーマなんですけど、特にこのパートは夢に向かう人たちの背中を押せるといいなと思って、大切に歌いました。「夢に 大きいも小さいも遅いも早いもない ぜんぶ素敵」のところとか、大好きです。

—後本さんの実感として、そうしたものもあるんですか？

後本 はい。私は声優になりたいと思っていて、お母さんがオーディションの情報をいっぱい調べてくれたんです。でも私はあんまり自分に自信が持てず、「どうせ受からないし……」とか思っていて。それでも頑張って挑戦してみたことが、この世界に入るきっかけになりました。

—そして、見事「プリキュア」シンガーにもなれましたね。

後本 そうなんです。だから、自分の可能性を否定しないって大事だなと思って。聴いてくださった方にも、そういう気持ちが届くといいなと思います。

—夢の大小だけでなく「遅いも早いもない」というのが熱いですよね。

後本 きっと大人の方に刺さりますよね。映画館に子どもたちを連れてきた保護者の方たちにも感じてもらえるといいなと思います。

—歌はその後、最初の曲調に戻りますが、テンポが加速していきます。

後本 大変でした。レコーディングは4時間くらいかけたんですけど、レコーディング前は緊張して何も食べられなくて、そのまま収録していたんです。だから最後の速いパートを録るあたりは、すっごくお腹が空いてきて（笑）。残ったエネルギーを振り絞ってテンションを思いっきり上げて頑張りました。早口なので滑舌も大変でした。

—スタッフさんとは、先ほど聞いた以外にどんなやりとりがありましたか？

後本 レコーディングには、大森祥子さん（作詞）と森いづみさん（作編曲）も来てくださったんです。お二人から「こっちのほうがいいかな」とか「こういう音に変えてみて」とか、たくさん指示をいただきながら歌いました。なんだか「音楽を制作してる！」って感じがしました（笑）。一番最後のフレーズの「どこにいても We're in ドリーミア!!!」もその場で音を調整した箇所なんですが、より良いものに仕上がったと思います。

—10月には「デリシャスパーティ♡プリキュア LIVE 2022 Cheers! Delicious LIVE Party♡」も控えています。

後本 「ようこそ、お子さま♡ドリーミア」でライブ会場をテーマパークに変えるくらい、皆さんを巻き込んでいきたいと思います。「楽しかったなぁ」って思い出してもらえるような、素敵な思い出を皆さんと一緒に作りたいです。この歌にも振り付けがつくそうなので、ダンスも頑張ります♪

—ライブには吉武さんや、五條真由美さん、宮本佳那子さんといった歴代のシンガーも出演しますね。

後本 ちーちゃんは歌も上手いし、かわいいし、憧れの存在です。一緒にいて安心感もあるので、私も全力を出し切れるだろうなって思います。宮本さんについては、私はもう宮本さんの歌声で育ったってくらい、本当にたくさん聴いて毎日歌っていました。しかも初代の五條真由美さんとも共演できるだなんて、もう夢のようで、実感が湧かないです。ちーちゃんとの安心感と、宮本さんや五條さんと一緒に出るという緊張感、どっちが勝つかな。緊張のほうが勝っちゃいそうです！（笑）

—（笑）。いい緊張感で臨めるといいですね。では最後にファンへのメッセージをお願いします。

後本 「ようこそ、お子さま♡ドリーミア」、とっても頑張ってレコーディングしました！ たくさん聴いて映画館で楽しんでもらえたら嬉しいです。よろしくお願いします！

思い入れのあるシリーズは？

「私は『Yes! プリキュア 5』『Yes! プリキュア 5GoGo!』がまさに世代です。黄色が好きなので、保育園のプリキュアごっこではキュアレモネードに"変身"していました（笑）。当時すでに女優さんに憧れていたので、女優を目指しているキャラというところでも好きでした。でも、保育園の思い出のアルバムの『将来の夢』欄には、なぜか『キュアドリーム』って書いたみたいで……。そこはやっぱり主人公がよかったのかな（笑）」

お気に入りのキャラは？

「らんちゃんとメンメンが好きです。私もラーメンが好きだし、性格もらんちゃんと似ていると思うんです。第16話のらんちゃんみたいに、私も周りから『ちょっと変わってるね』って言われて、気にしていた時期もありました。らんちゃんは自分の『好き』を大事にして、いつも通りの自分に戻れましたよね。私もポジティブ思考で活動に取り組んでいきたいと思います！」

撮影＝荒金大介

ンチドレス

大活躍！　想いを集めて、お子さまランチドレスに変身だ！

キュアヤムヤム 華満らん
ドリーミアの「ラーメンコースター」で大はしゃぎ。フードコートのお子さまランチのグレードの高さにも超絶大興奮！

メンメン
食べ損ねていたお子さまランチを、園長の部屋でコメコメやパムパムと一緒にたくさんお替わり。食べ過ぎちゃってお腹パンパンに！

コメコメ
お子さまランチを食べるのをついためらってしまう。だが、ケットシーにそのままの気持ちを大事にしてほしいと言われ、心が晴れる

衣装モチーフは、プレシャス＆コメコメはおむすび、スパイシー＆パムパムはフルーツサンド、ヤムヤム＆メンメンはナポリタン、そしてフィナーレはプリンアラモードだ

ケットシー
子どもたちの笑顔のためにドリーミアを作った園長。自身の大事な夢を踏みにじられた経験から、大人たちへの不信感を募らせている

巨大な移動要塞!?
発明王ケットシーが作り上げたドリーミア。不思議で楽しいアトラクションやおいしいお料理がいっぱいだ。実はこの園全体が巨大ロボットであり、その技術にはデリシャストーンが使用されていた。

お子さまランチを前に…
園長の部屋を訪れたコメコメたちの目の前で、ケットシーはお子さまランチを作ってご馳走してくれる。お子さまランチに戸惑うコメコメだが、本心はやっぱり食べたい気持ちでいっぱい。思わず一口食べてしまい、そのおいしさに感激！

お子さまランチは世代や立場によって見え方が違う

プロデューサー 村瀬亜季（東映アニメーション）

和洋中＋デザートでお子さまランチのよう

――今回の映画を担当することになって、考えたことは？

村瀬　『デリシャスパーティ♡プリキュア』はごはんのプリキュアなので、映画のモチーフとなるお料理をまず考えました。担当するにあたり、企画の鷲尾（天）からは「自由に！」と言われました。逆に一番難しいオーダーだなぁと思いましたが（笑）。

――映画のモチーフ料理として、お子さまランチを持ってきたのが実にうまいなぁと。

村瀬　お子さまランチは、私が書いた最初の企画書の段階から入れていました。『デパプリ』チーム単独の映画にしたいと考えていたので、キュアプレシャスたち4人をあらためて見てみたのですが、お米、パン、麺、デザートというお子さまランチみたいな並びだなと。「この子たちを活かすにはもうお子さまランチしかない！」って。一番不安だったのは、TV本編とのかぶりでした。でも、「お子さまランチはレシピッピにもいないし、特にTVでやる予定はないです」ということで、心置きなくやることに決めました。

――さらに、「お子さまランチのテーマパーク」と映画の舞台にしてしまう広げ方も絶妙です。

村瀬　そこも最初から考えていました。当初はもっと直球で「お子さまランチランド」と言っていましたが（笑）。映画の考え方として、私は見たい風景のイメージから組み始めるんですね。今回はお子さまランチということで、お料理画像をいろいろと見ているうちに、テーマパークみたいだなぁって（笑）。ランチプレートの真ん中に、旗の立ったごはんがそびえているなんて、まんまテーマパークじゃないですか。それで企画書にも、ラーメンの滑り台とか、食べ物モチーフのアトラクションのイメージもいくつか書き、それを元に脚本の田中仁さんが楽しいストーリーを作ってくださいました。

――アトラクションの案も、企画書段階からあったのですね。

村瀬　現実のテーマパークでも、食べ物モチーフのアトラクションってありますし、そんな感じで（笑）。お子さまランチをどうストーリーに絡めるかは、座古明史監督や仁さんたちと考えました。お子さまランチというモチーフはバラエティ感があるので、アイデアの方向性も自由度が高かったです。

――ビジュアル面で言うと、パムパムとメンメンが人の姿になるのも見どころの一つです。

村瀬　企画当初から、映画ではコメコメに焦点を当てることを決めていたんです。コメコメは人の姿に化けられるし、TV本編でも大事な存在として描かれていたので、ぜひ映画で活躍させたいと思いました。ただ、TVでも人の姿に化けられる子が、映画向けに変身するだけだとちょっと物足りないぞという欲張りな気持ちが出てきまして。より「映画でしかできないこと」ということで、パムパムとメンメンも巻き込んだんです（笑）。

――それで、みんなでお子さまランチドレスになったのですね。

村瀬　プリキュアの4人とエナジー妖精の3匹を、横並びに活躍させたいなぁと。私は、レギュラーキャラはなるべく横並びで見せたいと思っているほうなので、7人がそろって闘う姿を作りたいという気持ちがありました。

いろいろな立場の視点にコメコメが翻弄される

――お子さまランチを巧みに使って、コメコメの心の成長にリンクさせていますね。

村瀬　そこは脚本を作っていく中で決まっていきました。さすが仁さんです。

――コメコメが、お子さまランチは子どもっぽいから食べないと意地を張る感覚も、よく分かります。

村瀬　実はスタッフ内で「お子さまランチのイメージ」が問題になりました。小さい子にとっては、お子さまランチは「ゴージャスで特別感があるもの」。でもちょっと年齢が上がると「子どもっぽいからヤダ」って気持ちになる。大人になると、逆に「懐かしくて、また食べてみたい」となるし、子を持つ親からしたら「我が子の喜ぶ姿が見られるもの」とか「我が子の成長を願うもの」だったり。世代や立場によって見え方が違うものだから、どの位置にお子さまランチを据えるのか、みんなで結構頭を悩ませたんですよ。そこで、コメコメの大きくなりたい気持ちを軸に置いて、ちょっと年上の子の気持ちを代弁する形で、拓海は「もうそんな子どもじゃない」、あまねは「懐かしいな」。そういったいろいろな視点を見せ、コメコメがそれに翻弄されつつ、「誰が食べてもいいんだ

映画デリシャスパーティ♡プリキュア 夢みる♡お子さまランチ！

●全国公開中
HP●https://2022.precure-movie.com/

お子さまランチのテーマパーク「ドリーミア」にやってきたゆいたち。そのドリーミアの不思議な力で、パムパムとメンメンも人の姿になれて、７人で一緒に園内を楽しむのが映画前半の見どころだ。早く大きくなりたいコメコメは、お子さまランチを「子どもっぽい」と思ってしまうが、その気持ちに寄り添ってくれたのが園長のケットシー。園長の部屋で振る舞われたお子さまランチに舌鼓を打つコメコメの姿は、純粋さにあふれ微笑ましい限りだ。

ところが、そんな優しいケットシーは、実はローズマリーや大人たちをぬいぐるみに変えていた。その事実と、そうなるに至った悲しい過去を知って、ゆいとコメコメは暴走を止めようとする。ケットシーは、プリキュアも「大人の仲間」とみなして攻撃してくるが、コメコメたちの想いの力がドリーミアの不思議な力に反応して、みんなは華麗に大変身！

「お子さまランチドレス」をまとった７人は、想いを一つにして、ケットシーを救うために技を放つ。この映画ならではのスペシャルなシーンを、ぜひ大スクリーンで観てほしい！

プリキュア vs 警備ロボ

ドリーミアでは、子どもと判定できない入場者には警備ロボットが有無を言わさず攻撃してくる。プリキュアが大人か子どもかは判定不可能だったため、激しい戦闘に！

ごはん大好きキュアプレシャスたちが、お子さまランチのテーマパークで

よ」という決着のつけ方で話を組もうと。お客さんも様々な年齢の方がいるはずですから、「全部入れ込みましょう」と決めました。

――映画オリジナルキャラクターのケットシーは、最初はドリーミアの園長としてコメコメたちと仲良くなる段取りですね。

村瀬　コメコメのドラマを軸に作っていく上で、オリジナルキャラクターと接点を持つことで何か「気づき」が生まれ、その流れでクライマックスに至るというシンプルな構成です。ケットシーがどんな人物かはそこから考えました。コメコメとケットシーが交流するシーンはこだわって入れています。

――ケットシーがヘンテコなネコの着ぐるみを着ているというアイデアはどの段階で？

村瀬　彼をドリーミアの園長に決めた段階だったように思います。ドリーミアは子どもたちが笑顔になれる場所だから、「園長はシルクハットの大人じゃなくて、テーマパークを象徴するかわいいマスコットキャラがいいと思う」と言ったら「それ、いいじゃない！」と皆さん同意してくれまして、そこから着ぐるみキャラになりました。ドラマを組み立てていく上でも、ケットシーが着ぐるみを着ていることにうまく意味づけできました。

――ケットシー役は花江夏樹さんですね。

村瀬　もう花江さん以外いないですよね！　まずケットシーは芯の部分として「子どもたちの笑顔を守りたい」人物なので、お子さんがいる方にお願いしたくて。その上で、幼い頃の姿や、ネコの着ぐるみ姿、最後に出てくる青年姿を一貫して演じられる方で考えると、これはもう花江さんだろうと。本当に引き受けていただけて感謝です。

――今回の映画を二度三度楽しむポイントは？

村瀬　いろいろなキャラクターのお子さまランチに対する視点が、全部つながる形で構成しています。そのため、目線を変えて観てもらいたいです。コメコメサイド、ゆいサイド、ケットシーサイドといった形で、どんな立ち位置からも楽しめるようになっています。どのキャラクターに感情移入するかで、大人の方にも何度も味わってもらいたいです。

★TV『デリシャスパーティ♡プリキュア』は毎週日曜日、朝８時30分、ABCテレビ・テレビ朝日系列にて放送中

北川理恵 Machico

主題歌
「レッツ！ fun fun time!」

歌で世代のバトンを！

4世代のニュアンスを意識しながら

——お二人のデュオは、実はこれが初めてですよね。

二人（声をそろえて）初めてなんです！

Machico（以下M）　私は、『トロプリ』の後期ED曲で吉武千颯ちゃんが理恵さんと一緒に歌っていたのを見て、「うらやましいなぁ～。私も理恵さんと歌いたい～」ってジェラシーがあったんです（笑）。だから今回「北川さんとデュエットです」と聞いて、「やったぁ！」と瞬間的には喜んだんですけど、「待てよ、理恵さんと一緒に歌うということは……なかなか難しい楽曲なのでは？」って。

お子さまランチ作り！ 5年ぶりとなる3DCG映画は、愛と笑いがいっぱいだ！

公開直前までサプライズとして伏せられていた『わたしだけのお子さまランチ』。これは、『映画デリシャスパーティ♡プリキュア 夢みる♡お子さまランチ！』の同時上映作品だ。映画の前説であるドリーミアリングの使い方の説明パートから、長編の本編を挟んで、この同時上映パートにつながる形になっている。

映画を観た女の子が、「世界に一つのわたしだけのお子さまランチ」を要望。キュアプレシャスたちがそれを受けて作る中、過去シリーズのプリキュアが次々にやってきて手伝ってくれる。半ば強引な歴代キャラの登場はテンポ感優先で、その天丼的なギャグテイストがとっても愉快！

EDとして流れる主題歌「レッツ！fun fun time!」にも、4世代のプリキュアをイメージした歌詞が散りばめられている。曲調も温かく楽しい雰囲気で、みんなでテーブルを囲んでお子さまランチを食べるラストシークエンスにぴったり。歌うのは、4作のOP曲を担当した北川理恵さんとMachicoさん。交互に歌い継いでいくリレーのような構成にもぐっとくる！

キュアグレース
女の子が「ヒーリングな感じ」をオーダーした時に、コメコメの忘れ物を届けようとレストランの裏口に優しく登場！
ヒーリングっど♥プリキュア

キュアスター
女の子が「隠し味に超キラキラな宇宙」をオーダーした時、キュアスパイシーの開き直った呼びかけに応え「キラやば～っ☆」と登場！
スター☆トゥインクルプリキュア

ラビリン
ヒーリングっど♥プリキュア

コメコメ
やって来た女の子をプレシャスと一緒にお出迎えしてメニューを渡してあげる。『トロプリ』チーム勢ぞろいを見て感激
デリシャスパーティ♡プリキュア

キュアプレシャス
「レストランシアター・プリキュア」を訪れた女の子を笑顔でもてなす。最高のお子さまランチを作ろうと奮闘！
デリシャスパーティ♡プリキュア

おいしい

ドリーミアで活躍した後は、歴代プリキュアと一緒に

わたしだけのお子さまランチ

●『映画デリシャスパーティ♡プリキュア 夢みる♡お子さまランチ！』と同時上映

北川　えっ、どういうイメージ（笑）。でも本当、世代がどんどんつながっていく感じを、Machicoちゃんと一緒に作れるっていうのが、もう感激で！　私たち二人で歌うとどういう感じになるのか、とても楽しみでした。それと歴代コラボとは聞いていましたが、歌詞をいただくまで『デパプリ』『トロプリ』『ヒープリ』までの3世代だと思っていたので、「あ、『スタプリ』もいる！」ってなりました。

――ソロパートの歌い分けが、それぞれOP曲を担当したシリーズを思い起こす歌詞になっているのが実にニクイです。

北川　私もキュンキュンしました！

M　ディレクションでも、それぞれの歌い方を変えてほしいといわれました。それで私は、『デパプリ』部分では「かわいさを盛り盛りに詰める」という感じで、『トロプリ』部分は「今やりたいことをやる！　自分を信じる！」みたいな芯の強さを意識しながら歌いました。でも完成した曲を聴くと、理恵さんの『ヒープリ』『スタプリ』の歌い分けがとっても素敵で。私はそこまでの変化はつけられなかった～。

北川　そんなことないよ。絶対伝わってるから大丈夫！

M　本当ですか？　それならよかったです！

――北川さんは『ヒープリ』と『スタプリ』の歌い分けをどのように考えましたか？

北川　最初は、放送当時くらいまで変えようかと思っていたんですよ。でも、どのプリキュアもシリーズを通して成長したし、「今現在のみんなが歌っていて『デパプリ』の背中を押してあげる」感じもいいなあと。それで、声は少し当時とは変わるかもしれないけれど、「プリキュアの先輩」としての温かさを混ぜられたらいいなって思いました。

――特に『スタプリ』は4世代では一番先輩ですからね。

北川　そうなんです。本当に時が経つのは早いですよね（笑）。以前のシリーズを思い出してもらえるような空気感は入れつつ、「ちょっとだけ大人になったね」と感じてもらえたらいいなと思いながら歌いました。

――レコーディング時にこの他に気をつけたことは？

M　「ここは『デパプリ』だ」「ここは『トロプリ』だ」とすぐに分かるよう、キーワードの立たせ方は工夫しながら収録に挑みました。それとメロディが温かくてかわいくて、聴いているだけで自然に笑顔になれる感じなので、皆さんに幸福感を届けられたらいいなぁと思いました。

北川　私は、Machicoちゃんの存在も意識しながら歌いました。録音は別々ですけど、一緒に歌っているイメージで。きっとMachicoちゃんもそうだったんじゃないかな。

M　もちろんです！　私のほうが収録は先でしたが、これから収録される「未来の理恵さんの歌声」を心に感じながら。

北川　やっぱり。聴いていて、私に寄り添ってくれているのが分かったの。それから、音楽全体として、誰にでも通じる応援歌のようだなと思いました。サビの歌詞に、すごくプリキュアイズムを感じるというか……「1人1人は自由だけど　1人じゃない」ってところ、特に好きです。全然別の個性を持った人たちが集まっているから、楽しかったり勇気が出たりするんだなって。それはいつも「プリキュア」を観ていて思うことなんです。

M　私はフレーズでいえば、「心に在る太陽　忘れないで」も好きですね。どのシリーズも、自分を変に変えるのではなくて、ありのままの自分を好きになることが大事だと伝えてくれている気がして。自分の中にある輝き、芯の部分を忘れなければ、誰しもずっと素敵でいられるんじゃないかな。それが、人によっては夢だったり、大切な思いだったりするんだろうなって。

海のような広さと飛び出るようなパワー

――Machicoさんから見て、この曲での北川さんらしい部分、逆に北川さんから見てMachicoさんらしさが出ていると思う部分は？

M　ああ、いつも照れちゃう質問！（笑）

北川　「これぞMachicoちゃん！」と思ったのは1番の歌詞の「so what? so what?（ソワソワ）しちゃうたび キラリキラメク」。それから2番の「今日もデリシャスマイル～！」のあの伸ばし方、もう最高です。Machicoちゃんの発語って、エネルギーがすごく詰まっているんですね。明るい太陽みたいというか。天性のものかなって思う！

M　えへへ（照れ）。

北川　なんか「パッカーン！」って、殻から飛び出た感じがするんです。私からのバトンをスッと受け取ってくれて、「イェ～イ！」ってすごい勢いでゴールしてくれた感じ。私、今日はこれを言うために、この取材を受けたんですよ！（一同・笑）

M　嬉しい！　私は、理恵さんのソロの出だしの「大丈夫！」が好きです。本当に大丈夫と思えるくらい、安心感満点で！　理恵さんの歌声はとてもパワーがあって、引っ張ってくれるんですけど、同時に海のような広さで包み込んでくれる感覚もあって。きっとそれは理恵さんの人柄だと思うんです。人間性が歌声に乗っているんです。

北川　きゃ～、恥ずかしい！

M　私は『ヒープリ』で理恵さんと初めてご一緒させていただいたんですけど、やはり最初は自分が「プリキュア」シンガーとしてちゃんとやっていけるのか不安もあったんです。そこを、理恵さんが陰に日なたに支えてくださって。『ヒープリ』は癒やしがテーマだったから、それにもぴったりの人だなぁって。なんというか……すごくいい人です♥

（一同・笑）

北川　誉められた☆　でも、それはMachicoちゃんがいい人だから、そう感じるんだよ。

M　そうかな。じゃあ私たち二人ともいい人ってことで（笑）。

――素敵ですね（笑）。最後にファンへのメッセージをお願いします。

M　「レッツ！ fun fun time♪」は、理恵さんとの仲の良さが詰まった楽曲です。この曲を聴いて、小さいお友達は今の気持ちを大切に、自分の夢を磨いていってほしいです。大人の方には、子どもの頃を思い返しながら、歌を噛みしめていただきたいです。皆さんといっぱいいっぱい「楽しい」を共有できたらと思います。映画と一緒に楽しんでください！

北川　映画の歌、それも世代を超えたプリキュアが活躍する作品の歌。それをこれまで一緒にやってきたMachicoちゃんと二人で歌えたことを、嬉しく思っています。プリキュア一人一人のことを思い浮かべられる歌だし、そのみんなが仲良く手を取り合って、お互いを応援し合うような歌でもあります。皆さんも歴代シリーズを思い出しながら聴いていただけたら嬉しいです。口ずさむと絶対楽しいと思うので、しっかり聴き込んで、ぜひ一緒に歌ってください。

きたがわ・りえ
1990年11月25日生まれ／千葉県出身／オフィス・エイツー所属／ミュージカル女優としても活動。近作は「ミュージカル『天使にラブ・ソングを～シスター・アクト～』ほか

まちこ
1992年3月25日生まれ／広島県出身／ホリプロインターナショナル所属／声優としても活動。近作は『ウマ娘 プリティーダービー』（トウカイテイオー）、『プロジェクトセカイ』（草薙寧々）ほか

キュアサマー
女の子が「トロピカルな感じ」をオーダーした時に、偶然このレストランを見つけたのか、厨房の窓にへばりつき、トロピカって登場！
トロピカル～ジュ！プリキュア

この4世代とくれば北川理恵さんとMachicoさん！
プロデューサー　村瀬亜季

今回は4世代コラボのCGムービーも作りました。コラボ企画って、盛り合わせ感がありますよね。シリーズのバトンをつないで、歴代プリキュアのみんなが想いを盛り合わせる感じが、映画のモチーフの「お子さまランチ」とリンクしている気がしたんです。約8分という短尺だからこそ、キャラにブレが出ないように、各シリーズのスタッフにも仕草など細かくチェックしてもらいました。ですので、「今日は『トロプリ』」「明日は『ヒープリ』」というふうに、各世代に注目して、最低4回は観てほしいです（笑）。主題歌は「この4世代とくれば北川理恵さんとMachicoさんしかないでしょう！」と音楽チームから提案していただきました。とても豪華でありがたいです！

『デパプリ』で気になるキャラクターは？

M　マリちゃんです。ゆいちゃんたちに対する接し方が、本当に素敵だなって。大人として見習いたいというか、こういう人になりたいです。

北川　私もマリちゃんは気になっています。それからブラペ。「プリキュア」としてはわりと久しぶりな、ちょっとした恋愛要素も含めて、今後彼がどう立ち回っていくのかなと。それと、ここねちゃんですね。人との接し方も「分かる分かる、そういう気持ちになるよね！」ってところが詰まっていて、応援したくなります。

M　私は、プリキュアの4人の中だとらんちゃんですね。コメディリリーフ枠だと思っていたら、それだけじゃなくて！　私も中華が好きなので、最初から気になってはいたんです。第27話で耳と尻尾を気にするコメコメに、「見た目よりも気持ちを変える大切さ」を語っていましたよね。もう涙が出ちゃうアドバイス！　普段の明るく楽しい感じとのギャップにやられています。

発売中
MUSIC INFORMATION
『映画デリシャスパーティ♥プリキュア 夢みる♥お子さまランチ！』同時上映「わたしだけのお子さまランチ」主題歌シングル

CD＋DVD　　通常盤

『デパプリ』Q&A

インタビュー中に出た、TV『デパプリ』のこぼれ話集をご紹介。ミニスピリットルーは実はセクレトルー応援団!?

SPECIAL COLUMN 02

シリーズディレクター **深澤敏則**　シリーズ構成 **平林佐和子**　プロデューサー **安見 香**

Q1 各プリキュアのシンボルマークはどのように?

深澤　安見さんから、何か形状モチーフを入れたいということでした。ゆいはおむすびの「三角」、ここねは丸いパンのイメージから「丸」、らんは麺なので「ライン」として、キャラクターデザインの油布（京子）さんがうまくデザインに取り入れてくれました。バンク空間にも散らしています。フィナーレの変身シーンにあるのは、カラフルなフルーツのイメージのジェリービーンズです。

Q2 チーム名乗りが、シンプルな仁王立ちなのは?

深澤　「ヒーロー参見!」という感じでカッコいいかなと。変身でそれぞれ2種類決めポーズをとっていて、その上でさらに凝ったポーズで集合するのはくどいかなと思ったんです。プレシャスの変身後に、背後からカメラが寄っていく時に仁王立ちしているので、それに合わせて全員ビシッと立つ形にしました。

Q3 料理作画は大変と言われるけど、作業はどのように?

深澤　僕からの要望で、料理作監を立てています。ごはんをおいしそうに見せないと説得力が出ないので、他社の作品のように料理作監を置けないか相談したところ、北田美弥子さんの名前が上がりました。北田さんは僕と同期で、実力もキャリアもある人です。各話の演出さんにも、お料理には力を入れてほしいと最初の演出打ち合わせでお願いしました。色指定さんや作画さんも力を入れてくれています。
　お料理の設定は、基本的には作成していません。写真参考を元に、作画さんに描いてもらったラフ原画に北田さんが修正を載せています。また、なるべく作画と色でおいしさを出すようにしていますが、どうしても物足りなく感じるものに関しては、特殊効果でブラッシュアップもしています。

Q5 料理は玩具連動のレシピッピ準拠?

深澤　玩具として出てくるレシピッピのリストはもらっています。その話数の中で出てくるお料理に当てはまれば登場してもらい、そうでない場合はアニメ側でオリジナルのレシピッピを作っています。
安見　結果、アニメオリジナルのレシピッピも多く生まれまして。企画当初は、こんなにたくさんになる想定ではなかったです……（笑）。

Q4 おいしい気持ちなどを表す「ほかほかハート」のアイデアは?

安見　アイデアは最初の番組企画書段階からあって、その時は「ほかほかの気持ち」と書いていました。おいしいものを食べると、みんな自然と笑顔になると思いますが、それって何か「いいオーラ」が出ている気がして。それが目に見えたら、お子さまたちも「ごはんを食べている時、実はそうなっているのかな」と感じてくれるかと思いました。
深澤　ほかほかハートは「ありがとう」という作品テーマを表すのにも、ぴったりですよね。レシピッピは、ほかほかハートが大好きなんです。おいしーなタウンにはほかほかハートがあふれていて、レシピッピがいっぱいいるからブンドル団が狙ってくる。そういう設定を組む上でも、とてもいいアイデアでした。それでプリキュアの統一モチーフとして、ハートマークを使っています。

Q6 らんは、自分のことをなぜ「らんらん」と呼ぶ?

平林　らんは自分の名前を呼ぶ時でも、その音を楽しみたいと思っている子なんです。「らんらん」という言葉の響きが好きなので、自分のことをそう呼んでいます。

Q7 ミニスピリットルーが登場した理由は?

平林　スピリットルーが普通のロボットになってしまったからです。セクレトルーが一人で「ブンドル、ブンドル～!」ってやるのは、さすがに寂しいかなと。「小さい君たちで元気よくやってください!」という感じです。

Q8 あまねと拓海は同学年だけど、知り合いではなかった?

平林　はい、同じクラスになったこともありません。ジェントルー時代のあまねは、学校でゆいたちを見て、初めて同じ学校の生徒と気がつきました。拓海も含めてそういう距離感からスタートしました。あまねは全校生徒の顔を覚えているような、漫画的なスーパー生徒会長ではないので、みんなとゼロから関係を構築していったわけです。

Q9 セクレトルーがポロッと本音を漏らすキャラになったのは?

平林　ちょっと愛嬌を持たせたいという深澤さんのアイデアです。聞こえていないところでポロッと本心を言っちゃうなら、切り替えきっかけの言葉があるといいだろうと思って、「てゆーか」を考えました。
安見　「てゆーか、私も××が食べたいっーの」って、働く女性の「日常の本音」みたいでかわいいかなと。
平林　普段はキリッとしているのに、本音では雑な喋り方をする女性が面白いだろうと思いました。

Q10 デリシャスフィールドという戦闘空間にはどんな意図が?

深澤　毎話、巨大な怪物が出て街の中で暴れていると、闘いの事後処理とか建物を壊さないようにとかいう問題が出てしまうんです。プリキュアが思いきり闘えるようにというところから、専用の戦闘空間を考えました。美術的な負担も減らせますしね（笑）。
　最初は、「街はそのままで、街の人々だけがいない異空間」も考えたんです。でも、それだと美術的な負担は変わらないから、いっそのこと砂漠にしてしまおうと。西部劇に出てくるような荒野は絵になるし、僕は好きなんです。初期の頃は、そこにオムライスの山とかパンのような岩とか、デリシャス要素も少し入っていました。

Q11 スピリットルーが鹿児島弁のような「ごわす」という語尾になった理由は?

安見　スピリットルーは何か特徴的な口調にしたいというのがあったのですが、初登場の第25話の脚本を書かれた伊藤睦美さんが、「ごわす」と書いてきてくださいました。
平林　「それいいですね!」って即決でした。
安見　スピリットルーのデザインは、その後で決まりましたね。

Contents

※本書に再録したページの情報はすべて
「アニメージュ」に掲載した当時のものです。

［表紙］
イラスト＝東映アニメーション
［ピンナップ裏面］
イラスト＝松浦仁美

アニメージュ1月号増刊
『デリシャスパーティ♡プリキュア』
特別増刊号

2023年1月1日発行
電子書籍発行日　2023年1月1日

STAFF

[Editor] 久保田志乃
[Contributing Editors] 佐久間翔大
近藤 瞳
高円寺工房

[Writer] ぽろり春草
[Proofreading] 東京出版サービスセンター
[Cover Layout] 間中幸子（クウ）

[Designers] 山川夏実
柳川ユリ
里信亜沙子（クウ）

[Advertising] 岩水洋子
小出健太郎
谷川浩史
[Marketing Analyzer] 片山伸之
柳楽公三
[Public Relations] 斎藤信恵
島田和子
松本留衣子
[Supervisor] 川井久恵
[Special Thanks] 東映アニメーション
東映
マーベラス
バンダイ